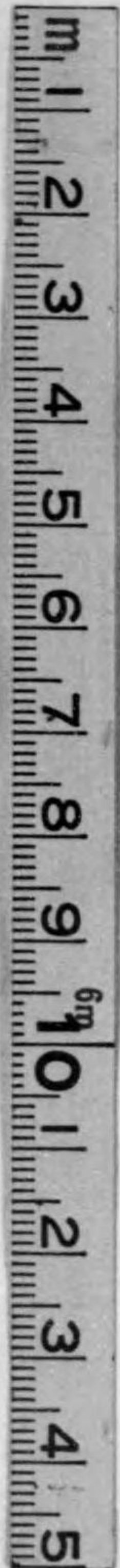


142A
315

八正六年五月

大正五年度業務功程

群馬縣立農事試驗場



始



14.2.15

大正五年度群馬縣立農事試驗場業務功程

目次

一、試驗並ニ調査ニ關スル事項

◎種藝部

第一、水稻

- 一、耕種梗概
- 二、品種試驗
- 三、豐凶考照試驗
- 四、耕鋤深淺試驗
- 五、插秧法試驗
- 六、施肥量對插秧法試驗
- 七、肥料配合法試驗
- 八、石灰窒素施用法試驗
- 九、石灰施用量試驗

二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	三	二	〇	〇	七	四	一	一
頁	頁	頁	頁	頁	頁	頁	頁	頁	頁

大正
6. 10. 5
内交

(イ) 大麥窒素吸收率査定試験 (ロ) 水稻窒素奏効率率査定試験 (ハ) 結 論
 一四七頁

二、水田ニ於ケル窒素奏効率率査定試験
 (甲) 水 稻 (乙) 裏作大麥
 一五二頁

三、畑ニ於ケル窒素奏効率率査定試験
 一五二頁

四、三要素適量試験
 (イ) 試驗ノ目的及方法 (ロ) 水田三要素適量試験(甲、水稻 乙、大麥)
 (ハ) 畑三要素適量試験
 一五七頁

五、三要素試驗
 (イ) 目的及方法 (ロ) 水田三要素試験(甲、水稻 乙、大麥) (ハ) 畑ニ於ケル三要素試験
 一六〇頁

六、肥料反應試驗
 甲 水 稻 乙 大 麥
 一六六頁

七、肥料施用方法ニ關スル試験
 甲 大豆粕施用方法試驗 乙 蠶糞施用方法試驗
 一六九頁

八、刺戟肥料ニ關スル試験
 甲 ラジウム礦肥施用量試験 乙 硫黃肥効試驗
 一七〇頁

第二、調査事項

九、蠶糞貯藏法試験
 甲 春 蠶 ノ 部 乙 秋 蠶 ノ 部
 一七〇頁

一〇、不良土改良ニ關スル栽培試験
 甲 山田郡矢場川土壤 乙 新田郡藪塚土壤
 丙 碓氷郡新堀土壤 丁 吾妻郡美ノ原土壤
 一七三頁

第一、調査事項

一、販賣肥料價格調査
 一七五頁

二、屋外堆肥ニ關スル調査
 甲 第一法 乙 第二法
 一八〇頁

三、不良土壤調査
 甲 現地調査 一 土壤調査 二 耕種肥培法調査
 乙 分析調査 一 理學的分析 二 化學的分析
 一八三頁

四、農産製造ニ關スル調査
 甲 麥 芽 製 造 乙 飴 製 造
 一八八頁

五、玄米及粃米ノ水分調査
 一八九頁

◎病 蟲 部

第一、試驗事項

- 一、二化螟蟲浸水試驗
- 二、稻苞蟲驅除試驗
- 三、大豆葉捲蟲ト毒劑トノ關係試驗
- 四、ドウガネブンノ豫防試驗
- 五、天牛驅除試驗
- 六、豚蠅驅除試驗
- 七、葡萄病害豫防試驗
- 八、瓜類露菌病豫防試驗

第二、調查事項

- 一、稻二化螟蟲發生時期調查
- 二、水稻葉鞘變色時期調查
- 三、二化螟蟲ト品種トノ關係調查

一九一頁
一九二頁
一九二頁
一九三頁
一九五頁
一九六頁
一九七頁
一九七頁
一九九頁
二〇〇頁
二〇二頁

◎畜 產 部

第一、養 豚

- (1)、優良種豚ノ配布
- (2)、種 豚 種 付
- (3)、飼 養 梗 概

第二、養 鷄

- (1)、優良種禽配布
- (2)、飼 養 梗 概
- (3)、孵化育雛梗概
- (4)、一代雜種鷄產卵力調查

二〇七頁

二〇八頁

二〇八頁

二〇九頁

二〇九頁

二一〇頁

二一〇頁

二一一頁

二一三頁

二、米麥原種圃經營事項

第一、水稻原種圃

- 一、水稻原種圃耕種梗概

二一五頁

二、水稻原種特性調査	二一八頁
三、水稻原種圃品種別作付面積	二二一頁
四、大正五年度水稻原種配布數量	二二二頁

第二、麥原種圃

一、麥原種圃耕種梗概	二二三頁
二、麥原種特性調査	二二六頁
三、麥原種品種別作付反別	二二六頁
四、麥原種配布數量	二二七頁

三、練習及ヒ講習ニ關スル事項

(一) 練習 生養成	二二八頁
(二) 選拔農事講習	二二九頁

四、種苗、種豚、種禽等ノ配布ニ關スル事項

(一) 陸稻、大豆	二三二頁
(二) 果樹苗木	二三三頁

(三) 種豚、種禽	二三四頁
(四) 野鼠室扶斯菌	二三七頁

五、肥料及ヒ土壤等ノ鑑定分析ニ關スル事項

第一、依頼分析	二四一頁
第二、場用分析	二四三頁

六、成績報告並印刷物ノ配布

七、場員出張	二四六頁
--------	------

八、鑑定及ヒ質問應答

九、文書往復	二四七頁
--------	------

一〇、來觀人員	二四七頁
---------	------

一一、大正五年度經費豫算	二四七頁
--------------	------

附 錄

群馬縣立農事試驗場經營概況

一、沿革 大略
 二、土地及建物
 三、業務ノ項目
 四、職員
 五、創立以來試験成績概要
 六、建物及試験地配置圖

一 頁
 二 頁
 三 頁
 九 頁

大正五年度群馬縣立農事試驗場業務功程

一、試験並ニ調査ニ關スル事項

◎種藝部

第一、水 稻

一、耕種梗概

圃場試験ハ特殊ノ試験ヲ除クノ外總テ次ノ耕種梗概ニ據リ栽培セリ

一、苗代整地及ヒ施肥 整地ハ十二月三四寸ノ深サニ耕起シ三月上旬ニ至リ馬鍬ニテ縱横ニ耕起シテ土塊ヲ細カニ碎キ播種十日前ニ至リ周圍ノ畔際三尺通りヲ除キテ堆肥及ヒ人糞尿ヲ撒布シ能ク耕土ト混和シ置キ播種期ニ至リ畔際二三尺ノ處ニ水ヲ灌キ土ヲ捏ネ高サ一尺以上ニ畔塗ヲ行ヒ後チ水ヲ全体ニ灌キ馬鍬ニテ縱横ニ耕起シ過燐酸石灰ヲ施シ又二三回耕起シ鍬ヲ以テ丁寧ニ均ラシ直ニ水ヲ湛ヘ翌日ニ至リ水ノ清澄スルヲ待チテ播種ス

一、苗床ノ區劃 播巾四尺、床間一尺トナス

一、苗代肥料 一反步當肥料用量及ヒ所含三要素量左ノ如シ

肥料名	施肥量	全上價額	要素		
			窒素	磷	酸
腐熟堆肥	300,000 ^貫	3,000 ^円	2,850 ^貫	1,000 ^貫	1,500 ^貫
人糞尿	150,000	2,917	1,650	0,570	0,525
強過磷酸	7,000	1,169	—	1,408	—
合計	—	7,086	4,500	3,008	1,025

備考 肥料ノ總テ元肥トス

一、選種 唐箕選、篩選ノ後チ比重選ヲ行フ其ノ比重ハ左ノ如シ

粳種 一、一三
糯種 一、〇八

一、浸種日數 七日間

一、播種量 苗代一坪ノ播種料ハ左ノ如シ

大粒種 二合
小粒種 一合五勺

一、播種期 五月十日

一、本田整地 麥刈取後直ニ鋤起シ灌水シテ縱横ニ二回耕耙シ之ニ堆肥ヲ施シ再ヒ鋤起シタル後チ馬糞ニ

肥料名	施肥量	全上價額	要素		
			窒素	磷	酸
堆肥	100,000 ^貫	3,000 ^円	2,850 ^貫	1,000 ^貫	1,500 ^貫
人糞尿	18,000	0,350	0,193	0,069	0,063
大豆粕	14,000	2,758	0,934	0,256	0,180
強過磷酸	5,000	0,835	—	1,006	—
合計	—	6,943	3,977	2,444	1,843

テ肥饒シ地均ラシヲ行ヒ挿秧スルモノトス

一、本田肥料 一反歩當用量及ヒ所含三要素量左ノ如シ

備考 肥料ハ全部元肥ニ施用ス

一、挿秧 六月下旬

一、一步ノ株數及ヒ一株ノ本數左ノ如シ

早中晚別	畦	行	株	間	一步ノ株數	一株ノ苗數
早	—	尺	七寸五分	四寸八分	48株	7本
中	—	尺	八寸五分	四寸二分	38株	5本
晚	—	尺	—	—	—	—

品名	出穂	成熟	稈長	芒長	大正五年	反歩	收量	全上收量	一升重	品質
坊主二本三	八二七	一〇、九	四五〇	〇分	二二九六	15	二二五八	二三四三	二五〇	上
信州早生	八二六	一〇、八	四二八	〇	二二六六	9	二二五五	二四五六	二五〇	上
ネノサ	八一〇	一〇、三	四五五	一一	二二四六	7	二二五七	二四五四	二五〇	中
竹成二枚皮	八一七	一〇、一五	四六二	二二	二二五八	6	二二六二	二二七五	二五〇	上
松島赤毛	八一四	一〇、七	四六九	一四	二二六一	5	二二六一	二四二六	二五〇	下
東郷	八一七	一〇、七	四六九	一四	二二六一	5	二二六一	二四二六	二五〇	上
月布	八一八	一〇、一五	四二七	〇	二二九七	5	二二六二	二五五〇	二六二七	上
早生愛	七二五	一〇、五	四二七	〇	二二九七	5	二二六二	二五五〇	二六二七	下
大森早	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中
苗代	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中
房州	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中
荒木	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中
玉錦	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中
倉野	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中
關取	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中
國富	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中
愛國	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中
愛國	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中
穀良	八二五	一〇、五	四六一	一八	二二〇七	3	二二六八〇	二二九六	二七〇	中

備考 一株ノ苗數ハ分蘗力ノ強弱ニヨリ多少ノ斟酌ヲ行フモノトス

一、除草 四回行フ

一番 蟹爪打 七月上旬

二番 蟹爪打直シ 七月中旬

三番 手ヲ以テス 七月下旬

四番 手ヲ以テス 八月月上旬

一、灌排水 挿秧ノ當時ハ稍々深水トナシ除草ノ都度一兩日間ハ水ヲ減シ地面ヲ固結セサル程度ニ於テ成ルヘク地面ヲ日光ニ當テ、地温ヲ高メ以テ肥料ノ分解ヲ促シ開花時ニ至レハ殊ニ斷水セサル様注意シ落花後ハ全ク排水シテ田面ノ乾燥ヲ圖ルモノトス

一、落水期 九月十日

一、收穫期 黃熟期刈取ル

二、品種試驗

明治三十四年以來ノ繼續ニシテ其ノ目的ハ各地方ノ品種ヲ蒐メ性狀、收量、品質等ノ良否ヲ比較シ以テ當地方ニ適スル良種ヲ選定センカ爲ニシテ四十四種ニ就キ試驗セリ

試驗成績

品種	大正五年		平年		年		比較	
	丈	數	丈	數	丈	數	丈	數
水稻 {早稻三種平均 中稻三種平均 晚稻三種平均}	一九九	二七本	二〇七	二〇本	一九	二〇本	△	△
	一九〇	二六	一九五	二〇	〇・〇五	〇・〇八	△	△
	一七七	二八	一七三	一九	〇・〇四		△	△

備考 一、平年ハ前七ケ年中最豐、豊凶二ケ年ヲ除キ五ケ年ノ平均ヲ用ヒタリ
一、△印ハ減ヲ示ス

苗代期中ノ氣候ハ概ネ晴天多ク氣温高ク苗ノ生育旺盛ニシテ却テ伸長ニ過クルノ觀アリ移植後ハ概シテ曇雨天連續シ殊ニ日照時間少ク二化螟蟲ノ發生モ稍多キ爲株張伸長共ニ平年ニ比シ不良ナリ
二、二百十日(九月一日)調

品種	大正五年		平年		年		比較	
	丈	數	丈	數	丈	數	丈	數
水稻 {早稻三種平均 中稻三種平均 晚稻三種平均}	四二二	三三本	三七八	一九本	二七	一九本	〇・四五	〇・四五
	四六〇	一九	四〇七	二七	〇・五三	〇・五三		
	四一五	二三	三六二	二二	〇・五三			

大暑後ノ氣候ハ適順ニシテ出穂期稍々促進シ作況平年ニ比シ良好ナリ

三、秋分(九月二十三日)調
二百十日後ハ氣候概シテ適順ニシテ平年ニ比シ良好ナリ
四、大雪(十二月七日)調

品種	大正五年		平年		年		比較	
	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量
水稻 {早稻三種平均 中稻三種平均 晚稻三種平均}	二四七	三七一	二三六	三六一	△	〇・一一	△	△
	二四六	三七〇	二四八	三六二	△	〇・一八	△	△
	二二六	三六七	二四七	三六二	△	〇・二五	△	△

稻ノ成熟期中ノ氣候不順ナリシヲ以テ平年ニ比シ早稻ハ五分二厘ヲ増シタレトモ中稻ハ五分八厘晚稻ハ一割〇六厘ヲ減セリ
乙、豊凶考照試験 前試験ハ明治三十四年以來ノ繼續ニ係ルヲ以テ其ノ品種ハ一般當業者ノ栽培セルモノト異ナルモノアルニヨリ大正元年ヨリ縣下廣ク栽培セラルト早中晚各三種宛選擇シ本試験ヲ行ヘリ其ノ成績左ノ如シ

品種	大正五年		前四ケ年平均		比較	
	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量
早稻三種平均	二五五	三七〇	二五三	三七六	〇・〇一	九七

中稻三種平均	二五八	三七七	二七〇	三五四	〇、一九三	一、一四
晚稻三種平均	二四九	三七九	二五七	三八六	〇、一三三	〇、九七

本年ノ收量ヲ前四ヶ年平均ニ比スレハ早稻ハ八毛ヲ増セトモ中稻ハ七分一厘、晚稻ハ四分四厘ヲ減シ又一升重量ニ於テモ甚シク減シ從テ品質モ劣レリ

四、耕鋤深淺試驗
明治四十年以來ノ繼續ニシテ水田耕鋤ノ深淺ハ稻作並裏作ニ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ知ラムトスル目的トシ耕鋤ノ深サヲ四寸、七寸、一尺ノ三區トシ試驗シタルニ其ノ成績左ノ如シ

區別	米收量		裏作麥收量	
	大正五年	前九ヶ年平均	大正五年	前八ヶ年平均
四寸	二七六	二八三	二九七	二五七
七寸	二六四	二九五	三九六	二八七
一尺	二九三	三〇七	三〇九	二八四

前表ノ如ク水田ノ耕鋤ハ深クスルニ伴ヒ稻及ヒ裏作麥ノ收量ヲ増加スルモノナレハ當場ノ土壤ノ如ク底土ノ惡質ナラサルモノニ於テハ深耕ヲ行フニ利アリ而シテ深耕ヲナスニハ便利ナル犁ヲ選擇使用シテ改良牛馬耕ニ藉リ勞力ヲ節スルノ方法ヲ講スルヲ得策トス

五、插秧法試驗

如何ナル插秧法カ普通肥料用量ノ場合ニ於テ最モ有利ナルヤヲ知ラントスル目的ニテ左ノ區別ニヨリ試驗セリ

試驗區別

區號	區別	畦間	株間	一坪株數	一株本數
一	普通植	一尺	八寸五分七厘	四十二株	五本
二	寄株植	一尺	八寸五分七厘	四十二株	二本宛二株寄
三	二本植	一尺	六寸	六十株	二本
四	一本植	一尺	四寸二分九厘	八十四株	一本
五	寄畦寄株植	七寸	八寸五分七厘	四十二株	二本宛二株寄

備考 品種ハ改良愛國ニシテ六月二十七日插秧セリ

試驗成績

區號	區別	玄米收量	一升重量	藁收量
一	普通植	117.0	37.5	115.0
二	寄株植	116.4	36.5	114.0

三	二	本植	二五九六	三八〇〇	一一、〇〇〇
四	一	本植	二六八〇	三七五五	九、〇〇〇
五	寄畦	寄株植	三二二五	三七八〇	一四、〇〇〇

本試験ノ成績ニ據レハ寄株植及ヒ寄畦寄株植ハ相伯仲シテ收量多シ故ニ多少ノ手数ヲ要スルモ收量ノ多カラ
ンヲ欲セハ寄株植ニ據ルヲ利アリトス

六、施肥量對插秧法試驗

普通肥料用量ノ倍量ヲ施用シタル際如何ナル插秧法ニ據ルカ最モ利益アルヤヲ知ラントスル目的ニテ左ノ區
別ニヨリ試驗セリ

試驗區別

區號	區別	畦間	株間	一坪ノ株數	一株ノ本數
一	普通植	一尺	八寸五分七厘	四十二本	四本
二	一本植	一尺二寸五分	六寸	六十株	一本
三	一本植	一尺二寸五分	五寸七厘	五十七株六分	一本
四	一本植	一尺二寸五分	四寸八分	二十八株八分	三本
五	寄株植	七尺一寸	八寸五分七厘	四十二株	二本宛ノ寄株

備考 品種ハ愛國ニシテ六月二十八日插秧セリ

試驗成績

區號	區別	玄米收量	一升重量	葉收量
一	普通植	二八一九	三七九〇	一一七〇〇
二	一本植	二六一四	三七八五	九六、〇〇〇
三	一本植	二六九三	三九九〇	九〇、九〇〇
四	一本植	二六三六	三七九五	九三、九〇〇
五	寄株植	二八三七	三七三〇	一一七、〇〇〇

本試験ノ成績ニ據レハ多肥ノ場合ニ於テモ寄株植及ヒ普通植ハ相伯仲シテ收量多キハ普通肥料用量ノ場合ト
異ナルコトナシ本年ハ氣候ノ關係上成熟半ハニ於テ倒臥シ十分ノ成績ヲ擧クルヲ得サルヲ以テ尙繼續シテ確
メントス

七、肥料配合法試驗

稻作ヲ行フニ方リ各種ノ肥料ヲ如何ニ配合スレハ最モ有利ナルカヲ知ラムトスルモノニシテ三要素ノ標準量
ハ反當窒素二貫五百目、磷酸二貫、加里一貫七百目トセリ其ノ配合左ノ如シ

區號	肥料名	反當用量	全上價額	成分		
				窒素	磷酸	加量
一	堆肥	100,000	2,000	1,900	0.710	1,000
	大豆	7,000	1,344	0,466	0.124	0.140
	人糞	2,400	0,241	0,133	0.043	0.041
	強過磷	5,550	0,926	1,110	1,110	1,110
二	硫酸アンモニア	12,150	9,367	2,500	2,000	1,000
	強過磷	10,100	1,687	1,000	1,000	1,000
	硫酸加里	3,950	3,778	2,500	2,000	1,700
	計		14,833	2,500	2,000	1,700
三	大豆	37,450	7,190	2,500	0,685	0,749
	強過磷	5,010	0,837	1,010	1,010	1,010
	木灰	1,110	0,556	2,500	2,000	1,700
	計		8,583	2,500	2,000	1,700
四	大豆	34,100	6,566	2,303	0,625	0,749
	骨粉	5,000	1,275	0,197	1,021	0,951
	木灰	1,280	0,569	2,500	2,000	1,700
	計		8,410	2,500	2,000	1,700

區號	肥料名	反當用量	全上價額	成分		
				窒素	磷酸	加量
五	大豆	23,020	4,229	1,473	0,444	0,441
	硫酸アンモニア	5,000	3,850	1,017	1,111	1,111
	強過磷	6,126	1,011	1,011	1,011	1,011
	木灰	14,900	0,745	2,500	2,000	1,700
六	蠶蛹	16,013	4,484	1,473	0,211	0,008
	硫酸アンモニア	5,000	3,850	1,017	1,111	1,111
	強過磷	6,257	1,045	1,017	1,129	1,129
	木灰	20,000	1,000	2,500	2,000	1,700
七	鱈鱗	15,100	5,814	1,473	0,526	0,000
	硫酸アンモニア	5,000	3,850	1,017	1,111	1,111
	強過磷	4,616	0,771	1,017	0,914	0,914
	木灰	20,000	1,000	2,500	2,000	1,700
八	堆肥	100,000	2,000	1,900	0.710	1,000
	人糞	10,000	0,194	0,100	0.036	0.035
	米糠	18,000	1,611	0,500	0,882	0,882
	木灰	10,000	0,500	2,500	2,000	1,700

第五區 大豆粕ハ遅効ナルヲ以テ硫酸アンモニアヲ加用シ根着肥トシ且結實期ヲ遅延セシメサル様爲シタルモノナリ、木灰ハ分施スルモノトス其ノ反應ハ稍々酸性ナルヘシ

第六區 第四區ノ對照區ニシテ大豆粕ノ代用トシテ蠶蛹粕ヲ使用セル場合ノ稻ノ生育及ヒ收穫並ニ經濟的關係ヲ見ムト欲ス其ノ反應ハ殆ント中性ナルヘシ

第七區 前區ト同様大豆粕ト鱈粕トヲ比較セルモノナリ

第八區 自給肥料ノミニシテ有機物多シ第二區ノ有機質ヲ含有セサルモノト比較セントス

第九區 堆肥ノ遅効ヲ硫酸アンモニアノ速効ニテ補ヒ石灰ヲ用ヒテ堆肥ノ分解ヲ促カシ結實期ノ遅延ヲ防止セリ硫酸加里ヲ用ヒタルハ反應ヲ矯正センカ爲ナリ

第十區 窒素及ヒ磷酸ヲ速効、中効、遅効ノ三態ニテ施シ生育中一樣ニ肥料分ヲ供給センカ爲ナリ

第十一區 最モ普通ノ配合ニシテ施用窒素ノ五歩ヲ堆肥ニテ、三歩五厘ヲ大豆粕ニテ、一歩五厘ヲ硫酸アンモニアヲ給シ速、中、遅効ノ三態ニ於テ窒素ヲ施シ稻ノ生育ヲ一樣ナラシメンカ爲ナリ木灰及ヒ石灰ハ他ノモノト異ナルトキニ分施セリ

第十二區 普通ノ配合ニシテ綠肥及ヒ堆肥ヲ施用シ比較的速効ノモノトシテ蠶蛹粕ヲ混シタルモノニシテ窒素ノ給與歩合ハ堆肥窒素二、綠肥窒素三、硫酸アンモニア窒素一、蠶蛹粕窒素一、大豆粕窒素三ナリ木灰及ヒ石灰ハ他ノモノト異ナルトキニ於テ分施セリ

試驗成績

區別	出穂月日	玄米收量	肥料價額	肥料對價額
第一	八月三	二七三五	四五一三	六〇六
第二	八月三	二八六八	一四八三	一九三
第三	八月三	二七五二	八五八三	三三二
第四	八月三	二七〇二	八四一〇	三三二
第五	八月三	二六九八	九八五五	二七四
第六	八月二	二七〇八	一〇、三七五	二六二
第七	八月三	二七〇五	一一、四三五	二四〇
第八	八月二	二六〇〇	四、九六	六〇八
第九	八月二	二六九四	七、八二	三五七
第十	八月二	二五八五	六、四八七	二九八
第十一	八月三	二八五九	五、二五三	五四四
第十二	八月三	二七九五	七、三〇七	三三三

前表ニ據リ收量ノミニテ見ルトキハ第二區ノ無機肥料ノ配合最モ優リ第十一區ノ窒素ヲ速、中、遅効ノ三態ニテ給シタルモノ之ニ次キ第十區ノ磷酸ヲ骨粉ニテ給シタルモノ最モ劣レリ又有有機物ノ少量ヲ含ム配合即チ第三、四、五、六、七區ハ各區殆ント相伯仲セリ、堆肥ヲ施用シタル各區中木灰、石灰ヲ加用シタルモノ成

蹟佳良ナリ
 肥料價一圓ニ對スル收量ニ於テハ第八區ノ自給肥料、第一區ノ普通肥料共ニ優リ第二區ノ無機質肥料及ヒ第七區ノ無機質肥料ニ鮮粕ヲ配合シタルモノ最モ劣レルハ前年ト異ナルコトナシ尙ホ前年ノ平均成績ヲ掲クレハ左ノ如シ

區別	收量		肥料一圓ニ對スル收量	
	大正五年	前二ヶ年平均	大正五年	前二ヶ年平均
第一	二七五	二九〇四	六〇六	四九九
第二	二八六	二八六九	一九三	二四七
第三	二七五	二八六	三二	三〇三
第四	二七〇	二九七	三二	三〇六
第五	二六九	二八三	二四	二八四
第六	二七〇	二八三	二六	二七九
第七	二七五	二八二	二四	二四五
第八	二六〇	二八九	六〇	四九五
第九	二五五	二七七	三五	三三
第十	二七五	二七〇	五四	三六
平均				

前表ニ據レハ肥料三主要成分ハ同一ナルモ其ノ配合ニヨリ收量ニ於テハ最多最少ノ差一斗九升三合、肥料價一圓ニ對スル收量ニ於テハ二斗九升一合ノ差アリ故ニ肥料ノ市價ヲ鑑ミ其ノ性質ヲ考ヘ其ノ配合ノ合理的ニシテ而カモ經濟的ナラムコトヲ要ス

八、石灰窒素施用法試驗

水稻ニ對スル石灰窒素ノ有利ナル施用方法ヲ知ラントスルモノニシテ其ノ肥料標準ハ反當窒素二貫五百匁、磷酸二貫、加里一貫七百匁トシ之ヲ堆肥二百貫、石灰窒素五貫及ヒ大豆粕、強過磷酸、木灰ニテ給セリ

試驗區別

- 第一區 標準區ニシテ石灰窒素ヲ施用セス
 - 第二區 插秧三日前石灰窒素ヲ田面一様ニ撒布攪拌ス
 - 第三區 石灰窒素施用一週間前十五倍ノ土塊ト混和堆積セシモノヲ插秧前日施用ス
 - 第四區 石灰窒素施用一週間前十五倍ノ堆肥ト混合堆積セシモノヲ插秧前日施用ス
 - 第五區 石灰窒素ニ半量ノ水ヲ加ヘ置キ一晝夜放置セルモノヲ插秧二日前ニ施用ス
- 反當肥料用量

區別	肥料名	反當用量	全上價額	成分		
				窒素	磷酸	加里
第一	堆肥	1100000	11000	1000	0.710	1000
	硫酸アンモニア肥	11910	2148	0000		

區 別	試驗成績	標準區		強過磷		硫加里		石計	
		六四六〇	一〇七九	一、五五五	一、一八〇	一〇、〇〇〇	〇、三〇〇	七、一八二	二、五〇〇
第二區	堆肥	一五、〇〇〇	一、五〇〇	二、五〇〇	一、四二五	二、五〇〇	一、一八〇	一、七〇〇	〇、七五〇
第二乃至第五區	石灰	五、〇〇〇	二、五〇〇	〇、八四〇	〇、七八三	〇、二九二	一、一八〇	〇、八七〇	〇、八七〇
第五區	大豆粕	四、三七六	〇、九二九	〇、九二九	一、一〇一	〇、二九	一、一八〇	〇、八七〇	〇、八七〇
石灰	強過磷	五、五六〇	〇、九二九	〇、九二九	一、一〇一	〇、二九	一、一八〇	〇、八七〇	〇、八七〇
木灰	計	一〇、一五〇	六、二七三	二、五〇〇	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇

備考 石灰窒素以外ノ肥料ハ播秧當日施用ス
試驗成績

區 別	試驗成績	收 量
第一區	標準	二、六九四
第二區	石灰窒素三日前施用	二、七二四
第三區	全 一週間前土壤ト混合堆積	二、六〇三
第四區	全 一週間前堆肥ト混合堆積	二、六五七
第五區	全 半量ノ水ヲ加ヘ置ク	二、六五一

前表ニ據リテ見ルニ各區トモ大差ナシ故ニ何等ノ處措ヲ行ハス三日前位ニ施用スルヲ簡便トス
九、石灰施用試驗

明治三十九年以來ノ繼續ニシテ當場普通肥料中大豆粕ノ一部及ヒ人糞尿ニ代フルニ石灰ヲ施用スルノ得失並ニ跡作ニ及ホス影響ヲ知ラムトスルモノニシテ普通肥料區(堆肥三百貫、大豆粕十四貫、人糞尿十八貫、強過磷酸五貫)、基肥區(堆肥三百貫、大豆粕七貫、強過磷酸五貫)及ヒ基肥ニ石灰二十五貫、五十貫、七十五貫、百貫加用ノ六區ニ就キ試驗セリ其ノ成績左ノ如シ

區 別	米 收 量		裏作麥收量
	大正五年	前十年平均	
普通肥料	二、五七六	二、六三二	二、四〇一
基肥	二、六六六	二、四七一	二、四〇一
基肥石灰二十五貫加用	二、七六一	二、五五四	二、四七六
基肥石灰五十貫加用	二、八一九	二、五九八	二、四七六
基肥石灰七十五貫加用	二、八八二	二、六三三	二、四七六
基肥石灰百貫加用	二、九七	二、七五〇	二、四七六

前表十一ヶ年目ノ成績ニ於テモ石灰ノ用量多キニ伴ヒ收量ノ多キヲ見ル裏作麥ニ於テモ略ホ同一ノ成績アリ故ニ基肥トシテ堆肥三百貫ヲ施用シ之ニ石灰ヲ加用スル場合ニハ地方ノ消耗ヲ來タス患ヒナカランカ尙ホ試

驗ヲ繼續シテ確カムヘシ

一〇、多收競作試驗

裏作トシテ大麥ヲ栽培スルニ毛作田ニ於テ如何ナル方法カ稻ノ多收ナルヘキヤヲ併セテ之レカ經濟上ノ關係ヲ知ラム爲左ノ十二區ニ就テ試驗セリ

各區トモ愛國種ヲ用ヒ苗ノ仕立ハ全一ニシテ插秧ハ何レモ六月二十五日ニ行ヘリ

插秧法

區別	插秧法	畦	行	株間	一坪株數	一株苗數
第一	列植	一	尺	五寸一分	七十株	四本—六本
第二	寄株植	一	尺	八寸五分七厘	四十二株	三本
第三	寄株植	一	尺	七寸五分	六十四株	三本
第四	寄株植	一	尺	七寸五分	四十八株	五本
第五	寄株植	一	尺	七寸五分	四十八株	五本
第六	寄株植	一	尺	七寸五分	四十八株	五本
第七	寄株植	一	尺	七寸五分	四十八株	五本
第八	寄株植	一	尺	七寸五分	四十八株	五本
第九	普通植	一	尺	七寸五分	四十八株	五本
第十	普通植	一	尺	七寸五分	四十八株	五本

區號	肥料用量					肥料	反當	用	計			
	第一	第二	第三	第四	第五							
第一	300,000	100,000	250,000	350,000	250,000	大豆粕	人糞尿	強過磷酸木	灰	硫酸ニアン	蠶蛹ノ粕	計
第二	300,000	100,000	250,000	350,000	250,000	大豆粕	人糞尿	強過磷酸木	灰	硫酸ニアン	蠶蛹ノ粕	計
第三	300,000	100,000	250,000	350,000	250,000	大豆粕	人糞尿	強過磷酸木	灰	硫酸ニアン	蠶蛹ノ粕	計
第四	300,000	100,000	250,000	350,000	250,000	大豆粕	人糞尿	強過磷酸木	灰	硫酸ニアン	蠶蛹ノ粕	計
第五	300,000	100,000	250,000	350,000	250,000	大豆粕	人糞尿	強過磷酸木	灰	硫酸ニアン	蠶蛹ノ粕	計

區號	反當玄米收量	全上價額	反當肥料價額	肥料代差引額	全上順位	收量順位
第十二	價用額量 二五〇,〇〇〇 二,五〇〇	一四〇,〇〇〇 二,六八八	四八,〇〇〇 〇,九三三	五,〇〇〇 〇,八三五	三,〇〇〇 〇,一五〇	七,一〇六
第十一	價用額量 二五〇,〇〇〇 二,五〇〇	一六〇,〇〇〇 三,〇三二	三〇,〇〇〇 〇,五九三	五,〇〇〇 〇,八三五	七,〇〇〇 〇,三五〇	九,二六五
第十	價用額量 三五〇,〇〇〇 三,五〇〇	一四〇,〇〇〇 二,六八八	三五,〇〇〇 〇,六八一	四,〇〇〇 〇,六六八	一,五〇〇 〇,〇七五	七,六三二
第九	價用額量 三五〇,〇〇〇 三,五〇〇	一四〇,〇〇〇 二,六八八	三〇,〇〇〇 〇,五九三	五,〇〇〇 〇,八三五	三,〇〇〇 〇,一五〇	七,八五六
第八	價用額量 三五〇,〇〇〇 三,五〇〇	一三〇,〇〇〇 二,四九六	四〇,〇〇〇 〇,七七八	三,〇〇〇 〇,五〇一	一,〇〇〇 〇,〇五〇	七,三三五
第七	價用額量 三〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇	五〇,〇〇〇 〇,九六〇	三〇,〇〇〇 〇,五八三	五,五〇〇 〇,九一九	一,〇〇〇 〇,〇五〇	七,〇五二
第六	價用額量 三〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇	一三五,〇〇〇 二,五九二	三五,〇〇〇 〇,六八一	五,〇〇〇 〇,八三五	一,〇〇〇 一,〇〇〇	七,一〇八

試驗ノ成績及ヒ收支計算左ノ如シ

第 一	第 二	第 三	第 四	第 五	第 六	第 七	第 八	第 九	第 十		
三〇四一	三二七	三二〇六	二九八一	三〇五九	三二五〇	三二二六	三〇〇五	二九八〇	二九七〇	三〇〇八	三〇四三
四八,六五六	五〇,八三三	四九,六九六	四七,六九六	四八,九四四	五〇,四〇〇	五〇,一七六	四八,〇八〇	四七,六八〇	四七,五二〇	四八,二二六	四八,六八八
八〇,三七	一〇,四五九	一〇,三五八	八,二八七	八,〇四五	七,一〇八	七,〇五二	七,三三五	七,八五六	七,六二二	九,二六五	七,一〇六
四一,六一九	四〇,三七三	三九,三三八	三九,四〇九	四〇,八九九	四三,二九二	四三,二四	四〇,七五五	三九,八四	三九,九〇八	三八,八六三	四一,五八二
三	七	一一	一〇	一五	二	二	六	九	八	二	四
一七	四	一〇	一〇	二五	三	三	九	二	二	八	六

本年ノ試驗ニ於テ收量最多最少ノ差ハ反當二斗〇七合、肥料代差引殘額ノ差ハ金四圓四拾二錢九厘ナリ故ニ耕種法並ニ肥料ノ選擇配合ニ十分ノ注意ヲ拂ヒ經濟的多收ヲ得ルノ要アリ

一一、石灰加用試驗

明治三十九年以來ノ繼續ニシテ堆肥、青草ノ如キ肥料ト木灰若クハ過磷酸石灰トヲ混用スル場合ニ於テ石灰ヲ加用スルノ得失ヲ知ラントスルモノニシテ普通肥料ヲ標準トシ堆肥區(反當堆肥三百貫)堆肥、過磷酸區

(堆肥三百貫、強過燐酸三貫) 堆肥木灰區 (堆肥三百貫、木灰二十貫) 青草區 (青草三百貫) 青草過燐酸區 (青草三百貫、強過燐酸三貫) 青草木灰區 (青草三百貫、木灰二十貫) ヲ置キ之レニ石灰ヲ施用セサルモノ及ヒ石灰五十貫、百貫、百五十貫ヲ加用スルモノニ分チ更ニ石灰五十貫、百貫、百五十貫單用區ヲ設ケ試驗シタルニ其ノ成績左ノ如シ

區別	量 (三尺四方木框)			第一年ニ對スル本年收量割合	基肥ニ對スル石灰加用區ノ平均增收百分率
	大正五年	前十ヶ年平均	平均		
普通肥料	八五〇	八四八	八四八	九三	100
堆肥	六八〇	六〇六	六一三	九七	100
全 石灰五十貫加用	六八〇	七四二	七三六	八一	100
全 百貫加用	八一五	八〇五	八〇六	八四	100
全 百五十貫加用	八九〇	八四二	八四六	八〇	100
堆肥 強過燐酸	七二五	七〇五	七〇六	八八	100
全 石灰五十貫加用	七五五	七四〇	七四一	九三	100
全 百貫加用	七三三	八二七	八一〇	七八	100
全 百五十貫加用	九二〇	八六七	八七二	八五	100
堆肥 木灰	七二〇	八六三	八七五	一一〇	100
全 石灰五十貫加用	七二五	七五九	七五五	一〇〇	100
全 百貫加用	九八〇	八七五	八八五	一一〇	100

全 百五十貫加用	八一〇	八三七	八三五	七四	100
全 石灰五十貫加用	六七〇	六三一	六三五	八四	100
全 百貫加用	九五〇	八六七	八七五	一一〇	100
全 百五十貫加用	九二〇	八二〇	八一九	一一〇	100
青草 強過燐酸	七四五	六六八	六七五	九二	100
全 石灰五十貫加用	七五五	七四四	七四五	九三	100
全 百貫加用	八一五	八四〇	八三八	一一〇	100
全 百五十貫加用	九七〇	九四〇	九四三	一〇四	100
青草 木灰	八三五	七九六	八〇〇	九八	100
全 石灰五十貫加用	八五〇	八〇九	八一三	九五	100
全 百貫加用	八六〇	九二一	九一五	一〇三	100
全 百五十貫加用	九一〇	九二〇	九一九	一〇三	100
石灰五十貫單用	四八〇	八四七	五四二	七四	100
全 百貫單用	五五〇	六二五	六一八	七二	100
全 百五十貫單用	六八〇	七二三	七一九	七二	100

前表十一ヶ年ノ成績ニ據レハ基肥區ヨリ石灰加用區ハ何レモ增收ヲ見ル、本年ノ收量ニ於テ石灰加用量ノ增加ニ伴ヒ增收アルモ堆肥木灰區及ヒ青草區ノ二區ハ石灰百五十貫區ハ百貫加用區ヨリ却テ劣レリ尙ホ本年ノ收量ハ普通肥料區ニ於テ見ル如ク第一年ニ比シ七分ノ減收ナルモ石灰單用區ニアリテハ二割六分乃至二割九

甲、當 場 種

標 號	出 穂 月 日	平 稈		一 株		一 株	
		均	標準偏差	均	標準偏差	均	標準偏差
一 準	九月三日	三九〇	一六九	二一九	三四九	二四一	八〇一
二	九月二日	三八四	一九九	二二七	三一九	二三六	八〇四
三	九月二日	三九五	一九七	一九〇	二七〇	二五七	七四四
四	九月二日	四〇三	二二二	三三二	二七六	二三六	六九〇
五	九月一日	三九七	一八二	二二二	二七八	二五八	六七二
六	九月一日	三九六	一九〇	二二六	三〇二	二三八	七六八
七	九月三日	四〇〇	一六二	三三七	三三六	二四六	九二〇
八	九月二日	三九五	二二六	一三六	二七九	二四三	六六三
九	九月二日	二八六	二〇六	一三七	三四二	二二五	六九三
一〇	九月二日	四〇〇	一五三	一四七	三三五	二六九	六六九
一一	九月二日	三九〇	二二四	一三三	二六五	二六〇	七八六
一二	九月二日	三八八	一五九	二二九	二四八	二五七	七三〇
一三	九月二日	四〇一	一八八	二一九	二四五	二三九	六四一
一四	九月二日	三九五	二七〇	二二八	二三〇	二三五	五九〇
一五	九月二日	四〇八	二四六	一三三	二七五	二六一	七六八
一六	九月三日	四〇六	一六六	一三四	二二六	二四五	六四八

以上ノ成績ニ據リ七、一三、二〇號ノ三種ヲ選擇シ次年ノ試験ニ供スルコトトセリ
乙、金 子 種

標 號	出 穂 月 日	平 稈		一 株		一 株	
		均	標準偏差	均	標準偏差	均	標準偏差
一 準	九月三日	三九六	二二八	一四五	二六四	二三六	六七八
二	九月二日	四〇九	二二六	二七七	二二二	二七二	六三六
三	九月二日	三九一	一四二	二五八	二二七	二三四	六五一
四	九月二日	三八八	二二二	二二六	三〇二	二三六	六九三
五	九月二日	三九八	二二二	二二七	三〇二	二三三	七〇六
六	九月二日	三九六	二一〇	二四三	三四〇	二八九	六八四
七	九月二日	四〇三	一九六	一四〇	二四五	二七九	六四八
八	九月三日	三九三	二三〇	一五一	二八八	二〇七	六九〇
九	九月四日	四〇七	一五二	一三九	二二六	二三一	六三六

標	區	出穂月日	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差
二〇	九	九三	均	三六八	一九	均	三三八	一六五	均	三三八	七二七
一九	八	九三	均	三八五	〇八〇	均	一三七	二九四	均	三三七	六七五
一八	七	九三	均	三九二	二五	均	一四四	三二五	均	三二九	三五二
一七	六	九三	均	三八四	一八二	均	二二四	〇九六	均	三二〇	六一五
一六	五	九三	均	三六二	一七六	均	一四〇	三三四	均	三二〇	六二五

以上ノ成績ニ據リ五、七、一二號ノ三種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコトトセリ

(二) 玉 錦
甲、當 場 種

標	區	出穂月日	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差
七	六	八三	均	四七六	一六〇	均	九四〇	二二五	均	三三六	七五九
六	五	八三〇	均	四五七	二八六	均	一一〇	二六七	均	三三〇	七九八
五	四	八三	均	四五七	一八五	均	一〇一〇	二六九	均	二四三	八三七
四	三	九二	均	四三八	二二	均	一一〇〇	二六四	均	二〇八	七二六
三	二	九一	均	四五七	三三	均	九六〇	二二九	均	二二七	九〇〇
二	一	八二八	均	四五七	二六〇	均	一〇四〇	二二六	均	二二八	七八六
一	〇	九一	均	四六七	二四〇	均	一〇六〇	二四〇	均	一八一	五五二
準		九一	均	四七二	二七二	均	九三三	二六五	均	一八五	七五八

標	區	出穂月日	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差
二〇	九	八三	均	四七九	一七二	均	九九〇	一九五	均	二二五	七二六
一九	八	八三	均	四六三	二一〇	均	一〇〇〇	二六一	均	二〇三	九七五
一八	七	八三	均	四七九	一七七	均	九七〇	二四七	均	一一八	五二〇
一七	六	九一	均	四八一	二二〇	均	九二〇	二六	均	一四〇	五五二
一六	五	九一	均	四七七	一九〇	均	一〇四〇	二五一	均	一七八	七四四
一五	四	九一	均	四七四	一七二	均	九七〇	二二三	均	一八九	七五三
一四	三	九一	均	四七五	二二四	均	一〇五〇	二二六	均	二六二	三八二
一三	二	九二	均	四七〇	二二八	均	九五〇	二八八	均	九九	五七三
一二	一	九一	均	四八〇	一九六	均	九五〇	二二三	均	一四五	五六七
一一	〇	九二	均	四七六	二一〇	均	八六〇	二二八	均	二二七	四二九
一〇		九一	均	四六五	二二〇	均	九三〇	二七六	均	一五三	六〇六

以上ノ成績ニ據リ四、五、六、七、八、一四號ノ六種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコトトセリ
乙、新田高砂種

標	區	出穂月日	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差
九	月	九一	均	四三七	〇六六	均	一三〇	一〇	均	一三〇	一〇

以上ノ成績ニ據リ五、七、一六、一七號ノ四種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコトトセリ

(三) 荒木

甲、當場種

標	區	號	出穂月日	平		標準偏差	長	平		標準偏差	株	莖	數	平		標準偏差	株	穗	重
				均	稈			均	株					均	穗				
一三	一	九	九、一	三、八二	一、七二	一、八四	一、一四	二、二四	一、九四	七、六八	六、七五								
一一	二	八	九、六	三、八七	一、五二	二、〇四	一、〇七	一、六〇	二、四八	六、二二	四、二三								
一〇	三	七	八、七	三、九〇	一、五三	二、四二	一、〇五	一、四〇	二、四〇	七、二九	四、二三								
〇九	四	六	八、〇	三、九〇	一、五九	二、四〇	一、〇五	一、四〇	二、四〇	七、二九	四、二三								
〇八	五	五	八、三	三、八八	一、六五	二、四〇	一、〇五	一、四〇	二、四〇	七、二九	四、二三								
〇七	六	四	八、三	三、九〇	一、五九	二、四〇	一、〇五	一、四〇	二、四〇	七、二九	四、二三								
〇六	七	三	八、二	三、九〇	一、五九	二、四〇	一、〇五	一、四〇	二、四〇	七、二九	四、二三								
〇五	八	二	八、二	三、九三	一、六七	二、四二	一、〇七	一、四〇	二、四二	七、三一	四、二五								
〇四	九	一	八、二	三、九三	一、六七	二、四二	一、〇七	一、四〇	二、四二	七、三一	四、二五								
〇三	〇	〇	八、二	三、九三	一、六七	二、四二	一、〇七	一、四〇	二、四二	七、三一	四、二五								
〇二	一	九	八、二	三、九三	一、六七	二、四二	一、〇七	一、四〇	二、四二	七、三一	四、二五								
〇一	二	八	八、二	三、九三	一、六七	二、四二	一、〇七	一、四〇	二、四二	七、三一	四、二五								

二〇	二	八	八、二	四、四〇	〇、六二	二、四九	一、四六	二、六八	一、七四	六、二四	六、一八								
一九	三	七	八、三	四、四五	〇、七三	二、四九	一、四六	二、六八	一、七四	六、二四	六、一八								
一八	四	六	八、三	四、四八	〇、六三	二、五二	一、四七	二、七一	一、七五	六、二八	六、二二								
一七	五	五	九、一	四、四〇	〇、六四	二、五二	一、四七	二、七一	一、七五	六、二八	六、二二								
一六	六	四	九、一	四、四二	〇、六三	二、五二	一、四七	二、七一	一、七五	六、二八	六、二二								
一五	七	三	九、一	四、四二	〇、六三	二、五二	一、四七	二、七一	一、七五	六、二八	六、二二								
一四	八	二	九、一	四、四二	〇、六三	二、五二	一、四七	二、七一	一、七五	六、二八	六、二二								
一三	九	一	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
一二	〇	〇	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
一一	一	九	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
一〇	二	八	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
〇九	三	七	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
〇八	四	六	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
〇七	五	五	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
〇六	六	四	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
〇五	七	三	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
〇四	八	二	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
〇三	九	一	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
〇二	〇	〇	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								
〇一	一	九	八、二	四、二七	〇、七五	二、七九	一、五〇	二、八八	一、八〇	六、三六	六、三〇								

標	區	號	出穂月日	長		株		穂	
				平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
二〇	一	九	八三	三八〇	一、三三	一〇八	一九四	二六、〇	七、〇五
一九	二	八	九、一	三九七	一、四七	一一七	二〇二	二五、三	七、五〇
一八	三	七	八三〇	三六三	一、二九	一二九	二七六	二三、五	七、〇二
一七	四	六	八三〇	三七五	一、七六	一二六	二三四	二五、八	六、七五
一六	五	五	九、一	三七一	一、五〇	一二三	二五八	二三、一	六、三六
一五	六	四	九、一	三九一	一、七三	一一〇	二三八	二六、九	六、五七
一四	七	三	九、一	三八一	一、三三	一一〇	二三八	二六、九	九、九

以上ノ成績ニ據リ二、七、九、二〇號ノ四種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコトトセリ

乙、金子種

標	區	號	出穂月日	長		株		穂	
				平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
六	一	九	八三	三九〇	一、九二	九六	二二七	二三、七	八、六七
五	二	八	九、二	三九七	一、六六	一〇三	一九〇	二二、三	六、三〇
四	三	七	九、一	三八九	一、五六	一〇〇	二一四	二三、六	七、三三
三	四	六	八三	三九四	二、〇六	一一九	二七五	二七、一	七、一四
二	五	五	九、二	三九二	一、五九	一一五	二三〇	二四、〇	六、四二
一	六	四	九、一	三九一	一、四八	一〇〇	二四四	二三、九	七、八〇
準	七	三	九、一	三八五	一、四〇	一一六	二五〇	二四、四	五、六四

標	區	號	出穂月日	長		株		穂	
				平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
二〇	一	九	九、一	三九一	一、四九	一〇二	二二三	二六、〇	九、三三
一九	二	八	八、七	三八四	一、四九	一〇〇	二〇五	二三、五	七、四七
一八	三	七	九、一	三八〇	一、六八	一〇六	二一九	二四、八	六、七五
一七	四	六	九、一	三八八	一、九一	一一三	一九七	二七、三	六、一八
一六	五	五	九、一	三九五	一、九一	一一三	一九七	二七、三	六、一八
一五	六	四	九、一	三九五	一、五五	一〇七	二二七	二四、六	六、九九
一四	七	三	九、一	三九一	一、二九	一〇七	二〇七	二五、六	六、八一
一三	八	二	八三	三八八	一、九一	一一三	一九七	二七、三	六、一八
一二	九	一	九、一	三八五	一、五五	一〇七	二〇七	二五、六	六、八一
一一	〇	〇	九、一	三九五	一、七六	一〇〇	二四八	二四、八	六、七二
一〇	一	九	九、一	三九五	一、六八	一〇三	二四九	二四、八	六、七二
九	二	八	九、一	三九一	一、七六	一〇〇	二四八	二四、八	六、七二
八	三	七	九、一	三八八	一、五五	一〇〇	二四八	二四、八	六、七二
七	四	六	九、一	三八八	一、五五	一〇〇	二四八	二四、八	六、七二
六	五	五	九、一	三八八	一、五五	一〇〇	二四八	二四、八	六、七二
五	六	四	九、一	三八八	一、五五	一〇〇	二四八	二四、八	六、七二
四	七	三	九、一	三八八	一、五五	一〇〇	二四八	二四、八	六、七二
三	八	二	九、一	三八八	一、五五	一〇〇	二四八	二四、八	六、七二
二	九	一	九、一	三八八	一、五五	一〇〇	二四八	二四、八	六、七二
一	〇	〇	九、一	三八八	一、五五	一〇〇	二四八	二四、八	六、七二

以上ノ成績ニ據リ一〇、一一、二〇號ノ三種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコトトセリ

丙、中之條種

標	區	號	出穂月日	長		株		穂	
				平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
九	一	九	九、一	三九一	一、五〇	一〇八	二〇三	二二、九	八、四六

以上ノ成績ニ據リ一、五、一〇號ノ三種ヲ選抜シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ
 (四) 國 富
 甲、普 通 種

標 區	號	出 穂 月 日	平 稈		平 一 株		平 一 株	
			均	標準偏差	均	標準偏差	均	標準偏差
一	一	八月	三、八三	〇、六六六	一、三七	二、五〇	二、四二	六、〇九
二	一	八月	三、七九	〇、三八	一、三四	三、二五	二、三三	六、九〇
三	二	八月	三、八三	〇、七四六	一、四五	二、九九	二、二六	六、一五
四	三	八月	三、九一	〇、四九八	一、三七	二、六七	二、二	六、五二
五	四	八月	三、九〇	〇、五八	一、三三	二、二五	二、四〇	七、一一
六	五	八月	三、八六	〇、五〇八	一、三七	二、八三	二、三二	六、七二
七	六	八月	三、七八	〇、四九二	一、三五	二、九五	二、三二	六、二七
八	七	八月	三、八〇	〇、五〇	一、二〇	二、七三	二、四六	一、七七
九	八	八月	三、七六	〇、四九六	一、二八	二、一〇	二、五八	一、八九
一〇	九	八月	三、八五	〇、六六一	一、四六	二、五四	—	—
一	〇	八月	三、八八	〇、六三四	一、三二	二、七九	二、三八	六、六〇
二	一	八月	三、八〇	〇、四六二	一、四四	二、六四	二、三二	五、八八
三	二	八月	三、九三	〇、三〇六	一、三二	二、二七	二、三四	六、九八

標 區	號	出 穂 月 日	平 稈		平 一 株		平 一 株	
			均	標準偏差	均	標準偏差	均	標準偏差
二	一	八月	四、〇一	一、二二	九、四	一、七七	二、六一	六、六六
三	二	八月	三、九三	〇、四六	八、八	二、〇四	二、四八	七、四一
四	三	八月	三、八一	一、五五	九、五	二、一六	二、四二	六、九九
五	四	八月	三、九一	一、六八	九、一	二、〇二	二、五六	七、七四
六	五	八月	三、九二	一、四六	一、〇〇	二、〇四	二、五二	六、五一
七	六	八月	三、九三	一、五〇	一、〇二	二、三六	二、四一	七、七七
八	七	八月	四、二二	一、六八	一、〇二	二、五五	二、三五	八、六四
九	八	八月	四、二二	一、八〇	九、二	一、八八	二、三六	八、一九
一〇	九	八月	四、〇七	〇、八三	一、〇二	二、〇五	二、三八	六、九九
一	〇	八月	四、一三	一、四〇	一、〇〇	二、三四	二、二四	六、二二
二	一	八月	四、一七	一、五六	九、七	一、九九	二、〇七	七、四七
三	二	八月	三、八八	一、四四	九、七	二、二五	二、四四	八、〇一
四	三	八月	三、九四	〇、四九	一、〇	二、一七	二、一〇	四、六五
五	四	八月	四、〇七	一、五〇	一、〇	二、一七	二、五二	八、二五
六	五	八月	三、九八	一、四四	一、〇二	一、九二	二、三四	七、三八
七	六	八月	三、九四	一、二九	九、一	一、六八	二、一九	七、二六
八	七	八月	三、九六	〇、四六	一、〇一	一、七五	二、八一	六、四二
九	八	八月	三、八四	一、三一	一、〇一	二、一〇	二、四四	七、六八
一〇	九	八月	三、八七	一、三六	一、〇三	二、一〇	二、五四	六、九〇

標	區	出穂月日	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差
二〇	五	八月	均	三九四	〇.三八二	株	二二二	二二二	株	二五三	一.六四
一九	四	八月	均	三八九	〇.四九八	株	二四三	二六三	株	二四三	六.四二
一八	三	八月	均	三八五	〇.四五〇	株	二三八	二五〇	株	二〇〇	六.〇九
一七	二	八月	均	三八五	〇.五〇〇	株	二八一	二六九	株	二二二	六.六六
一六	一	八月	均	三九一	〇.四七八	株	二二六	二二八	株	二一〇	六.〇六
一五	準	八月	均	三八三	〇.五二二	株	二三五	二二三	株	二三九	五.〇四
一四		八月	均	三八二	〇.五四八	株	二二二	二七六	株	二五〇	一.八〇
一三		八月	均	三九二	〇.四九二	株	二三〇	二九三	株	二三八	五.四〇
一二		八月	均	三九一	〇.五八六	株	二四〇	二六〇	株	二五〇	七.九八
一一		八月	均	三九五	〇.六五〇	株	二二六	二八四	株	二三〇	六.一二
一〇		八月	均	三九八	〇.五九六	株	二二七	二七二	株	二五二	六.七五
九		八月	均	三九二	〇.五二四	株	二二六	二六〇	株	二五〇	六.六九
八		八月	均	三九二	〇.五八六	株	二二七	二七二	株	二五二	五.四九
七		八月	均	三九二	〇.五二四	株	二二六	二六〇	株	二五〇	六.七五
六		八月	均	三九二	〇.五八六	株	二二七	二七二	株	二五二	六.六九
五		八月	均	三九二	〇.五二四	株	二二六	二六〇	株	二五〇	六.七五
四		八月	均	三九二	〇.五八六	株	二二七	二七二	株	二五二	五.四九
三		八月	均	三九二	〇.五二四	株	二二六	二六〇	株	二五〇	六.七五
二		八月	均	三九二	〇.五八六	株	二二七	二七二	株	二五二	六.六九
一		八月	均	三九二	〇.五二四	株	二二六	二六〇	株	二五〇	六.七五
〇		八月	均	三九二	〇.五八六	株	二二七	二七二	株	二五二	五.四九
九		八月	均	三九二	〇.五二四	株	二二六	二六〇	株	二五〇	六.七五
八		八月	均	三九二	〇.五八六	株	二二七	二七二	株	二五二	六.六九
七		八月	均	三九二	〇.五二四	株	二二六	二六〇	株	二五〇	六.七五
六		八月	均	三九二	〇.五八六	株	二二七	二七二	株	二五二	五.四九
五		八月	均	三九二	〇.五二四	株	二二六	二六〇	株	二五〇	六.七五
四		八月	均	三九二	〇.五八六	株	二二七	二七二	株	二五二	六.六九
三		八月	均	三九二	〇.五二四	株	二二六	二六〇	株	二五〇	六.七五
二		八月	均	三九二	〇.五八六	株	二二七	二七二	株	二五二	五.四九
一		八月	均	三九二	〇.五二四	株	二二六	二六〇	株	二五〇	六.七五
〇		八月	均	三九二	〇.五八六	株	二二七	二七二	株	二五二	六.六九

以上ノ成績ニ據リ五、八、一三、一四、二〇號ノ五種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ

乙、金子種

標	區	出穂月日	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差	平	均	標準偏差
二〇	五	八月	均	三八九	〇.四三六	株	二二七	二六七	株	二四四	七.六二
一九	四	八月	均	三八五	〇.四三〇	株	二二〇	二八二	株	二四〇	六.八一
一八	三	八月	均	三八五	〇.四三三	株	二二二	二七五	株	二三四	六.六六
一七	二	八月	均	三八〇	〇.四八六	株	二二二	二八二	株	二三二	六.六六
一六	一	八月	均	三八四	〇.四四〇	株	二二六	二九一	株	二四八	七.八九
一五	準	八月	均	三八四	〇.四四〇	株	二二五	二九五	株	二三〇	五.五二
一四		八月	均	三八三	〇.五〇六	株	二二八	二七五	株	二五〇	七.三八
一三		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
一二		八月	均	三八三	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
一一		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
一〇		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
九		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
八		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
七		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
六		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
五		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
四		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
三		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
二		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
一		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
〇		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
九		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
八		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
七		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
六		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
五		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
四		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
三		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
二		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
一		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
〇		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
九		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
八		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
七		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
六		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
五		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
四		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
三		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
二		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
一		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三
〇		八月	均	三八五	〇.五二四	株	二二八	二六四	株	二五九	七.八三

以上ノ成績ニ據リ四、一〇、一三、一四、一五號ノ五種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ

(五) 愛國

甲、當場種

標區	號	出穂月日	長		株		穂	
			平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
二〇	九	八二五	三九〇	〇四一〇	一〇三	一八五	二七八	六六九
一	八	八二三	四〇五	〇四四四	一〇一	二二五	二七一	七〇五
一	七	八二五	三九一	〇四五〇	一一二	二〇七	二四〇	九四五
一	六	八二四	三八五	〇四四〇	一〇四	一八九	二六四	六七二
一	五	八二四	四一三	〇四四六	一〇三	二二六	二五六	八一九
一	四	八二五	四〇一	〇四九六	一〇〇	二二〇	二五七	七三八
一	三	八二三	三九八	〇三九〇	一〇二	二二六	二五〇	六六九
一	二	八二三	四〇七	〇五二〇	一〇三	一八七	二〇〇	七二八
一	一	八二五	三九〇	〇四六二	一〇〇	一五七	二四五	七二〇

以上ノ成績ニ據リ一、一五、一七號ノ三種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ

丙、新 田 種

標區	號	出穂月日	長		株		穂	
			平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
二〇	九	八二四	三七八	〇四二八	九七	一九二	二八二	六六三
一	八	八二四	三九一	〇四八〇	一〇六	一九一	二五三	七六二
一	七	八二四	三八一	〇四一四	一〇八	一八八	二五〇	九二七
一	六	八二三	三九〇	〇四四〇	九六	二〇八	二六一	七七二
一	五	八二三	三八二	〇五六〇	九八	一九六	二六〇	八〇七
一	四	八二三	三九一	〇四八二	九一	一九九	二五六	七五〇
一	三	八二三	三九〇	〇四八二	一〇二	一八三	二五五	六六九
一	二	八二三	三九一	〇五七〇	九二	二二三	二四二	九三九
一	一	八二三	三九五	〇四四四	九二	二二三	二四二	七四七
一	〇	八二五	三八四	〇四三六	一〇七	二二二	二八五	四九二
一	九	八二四	三八六	〇四二二	一〇七	二二四	二七八	七〇五
一	八	八二三	三九四	〇四五二	一一一	二六六	二八七	六五七
一	七	八二五	三七一	〇四四〇	一一三	二八〇	二四二	六九三
一	六	八二四	三八二	〇三七四	一〇六	二〇九	二六七	六三九
一	五	八二五	三八二	〇四五〇	一一一	二二八	二六二	六二四
一	四	八二五	三八〇	〇四四六	一一一	二二八	二四二	五六四
一	三	八二四	三七六	〇五八八	一一五	二二〇	二五七	七九二

以上ノ成績ニ據リ二、一三、一五號ノ三種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ

丁、邑 樂 種

區號	出穂月日	長		株數		株重	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
準一	八月三	三七六	〇・六〇八	一〇八	一九一	二三八	七四四
一	八月三	三七五	〇・六〇六	一〇五	一四二	二〇八	九七五
二	八月二	三七三	〇・四八六	一一三	二五七	二四四	八〇七
三	八月二	三七二	〇・六〇八	一一五	二一〇	二三六	七八三
四	八月五	三七二	〇・四八八	一一四	二五八	二三六	七六二
五	八月四	三七六	〇・五七八	一一二	二五八	二六七	八一九
六	八月三	三七六	〇・四四三	一一〇	二五八	二六七	六九三
七	八月三	三七六	〇・四四三	一一〇	二五八	二六七	八一三
八	八月五	三七三	〇・四一四	一一〇	二五八	二六七	八一三
九	八月五	三七三	〇・五五二	一一三	二〇九	二七五	八三七
〇	八月四	三八一	〇・五二二	一一七	二四八	二〇八	六六六
一	八月三	三八一	〇・五〇七	一一七	二五〇	二八六	七六二
二	八月三	三七〇	〇・四一四	一一七	二二三	二三八	七四一
三	八月三	三七〇	〇・五九二	一一七	二二六	二五三	八六四
四	八月三	三八二	〇・五〇二	一一四	一八六	二四四	七八九
五	八月四	三八〇	〇・五五八	一一〇	一七三	二五三	九一五
六	八月三	三七九	〇・四四四	一〇八	二八四	一八〇	八四九
七	八月四	三七九	〇・四四二	一〇八	二二五	二四六	八八八

五十

以上ノ成績ニ據リ七、一九號ノ二種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ
 一四、純系淘汰試験 (其三)
 品種比較試験ノ結果優良ト認メタル左ノ品種ニ就キ純系淘汰第一年ヲ施行セリ

(一) 福 龜
 (二) 廣 德 關 取
 調査ノ成績左ノ如シ

區別	出穂月日	長	分	蘖	穂	重
一八	八月六	三七五	一一二	一九八	二八四	七五九
一九	八月三	三六一	一〇七	二二三	二〇七	七六八
二〇	八月三	四二二	一〇三	二〇八	二七五	七八三
ミ	八月四	三八六	三六五	一四五〇		二一三八二
メ	八月二	三三四	三九九	一三五三		一八六六七
モ	八月二	三九二	三六一	一一九九		一三二三七

調査ノ結果百種ヲ選擇シテ第二年ノ試験ニ供スルコト、セリ

五十一

(二) 廣徳關取

區別	出穂月日	程	長	分	藪	穂	重
ミ	八月五日		三八〇〇		一四五〇		二二五〇
メ	八月五日		三七七七		一三五三		一八六七
モ	八月三日		三三八元		一五九九		二三三七

調査ノ結果百種ヲ選擇シテ第二年目ノ試験ニ供スルコト、セリ

第二、陸 稻

- 一、耕種 梗概
- 一、畦 巾 二 尺
- 一、選 種 比重一、〇八液ヲ以テ比重選ヲ行フ
- 一、播種量 一反歩當三升乃至三升五合トス
- 一、播種方法 麥作間ニ條播ス
- 一、播種期 五月下旬
- 一、除草及ヒ中耕

- 第一回 六月中旬
- 第二回 七月上旬
- 第三回 七月下旬
- 一、肥料 一反歩當用量左ノ如シ

肥料名	用 量	價 額	要 素			加 量
			窒 素	磷	酸 素	
堆肥	100,000	1,000	1,900		0,710	1,000
大豆粕	4,000	0,768	0,167		0,073	0,080
硫酸アンモニア	4,000	3,080	0,833		—	—
強過磷酸	5,000	0,835	—		1,006	—
人糞尿	54,000	1,050	0,576		0,105	0,189
合計		7,733	3,567		2,004	1,269

備考 人糞尿ハ全量ヲ二分シ六月下旬及ヒ七月中旬ノ二回ニ追肥シ其他ハ全部元肥トナス

二、品種 試験

明治三十四年來ノ繼續ニシテ各種ノ陸稻ヲ蒐メ當地方ノ風土ニ適スル良種ヲ選出セントスルモノニシテ三十種ニ就キ試験セリ其ノ成績左ノ如シ

品名	出穂	成熟	稈長	芒長	一歩	反歩	平均	一升重
門馬	八二七	一〇一五	三六〇	二七	一七六	15	一三九四	三七四五
静岡大畑早生	八一九	一〇一七	三八三	二二	二八〇	1	一三九四	三六六〇
白芒	八一九	一〇一七	四一七	二七	一八九	15	一四二二	三七一〇
博覽會	八二二	一〇一七	四一〇	三	一七六	15	一五八八	三七三五
常陸錦	八二六	一〇一五	三五五	〇	一四三	1	一五九	三六一〇
早生江曾島糯	八三三	一〇一九	三三九	六	一八五	10	一五七九	三六二〇
吉川	八四四	一〇一七	四〇八	二六	一八三	1	一五七九	三七七五
當場凱旋糯	八四四	一〇一七	三八〇	六	一八三	1	一五七九	三七七五
新田大黒糯	八二六	一〇一八	三九〇	四	一七四	1	一五七九	三五八五
勢多凱旋糯	八二三	一〇一八	四四〇	二	一八二	1	一五七九	三六一〇
早不知糯	九二二	一〇一七	三六九	二	一七三	15	一六五四	三五五〇
貴姫糯	八二六	一〇一五	四三八	二	一四三	1	一六三	三六六〇
亞米利加糯	八二五	一〇一七	四三二	二	一七〇	1	一六三	三六六〇
夜ノ雪糯	八二二	一〇一五	三九九	八	一六七	1	一六三	三七〇五
邑樂臺糯	八二五	一〇一八	三五六	二	一八五	10	一六三	三六三〇
高砂早糯	八二七	一〇一五	四〇六	二	一八五	3	一六三	三六三〇
改良國富糯	八二六	一〇一〇	四二二	三	二二七	3	二二七	三六三〇
代田選糯	八二九	一〇一五	四五〇	四	一九三	3	一九三	三六八五
埼玉關取	八二七	一〇一八	三九六	三	一九〇	3	一九〇	三七四五

品名	出穂	成熟	稈長	芒長	一歩	反歩	平均	一升重
當場長柄早生	八二六	一〇一八	四一六	二	二〇六	4	二〇六	三六四〇
山田長柄早生	八二四	一〇一七	四三三	〇	二〇四	1	二〇四	三六〇〇
美濃早生	八二五	一〇一六	三九〇	四	二〇四	1	二〇四	三六一〇
邑樂浦次郎	八二六	一〇一九	三九六	七	二〇六	1	二〇六	三六八〇
當場金光坊	八二七	一〇一五	三四〇	〇	二〇二	15	一七八	三七六〇
勢多金光坊	八二五	一〇一五	三三三	〇	二〇二	1	二〇二	三七三五
静岡戰捷	八一九	一〇一五	三六二	二	二〇四	1	二〇四	三六一五
藤藏糯	八二六	一〇一八	四三〇	三	一七八	1	一七八	三六三〇
邑樂戰捷	八一九	一〇一五	三七九	三	二〇三	1	二〇三	三六八五
埼玉戰捷	八二八	一〇一九	三八五	二	二〇三	1	二〇三	三六八五
當場信州早生	八二八	一〇一五	三八九	二	一七五	14	一六六〇	三七三〇
山田信州早生	八二七	一〇一五	四一〇	一	一七五	1	一七五	三七六〇
山田美濃選出	八二五	一〇一六	四〇三	一	一七〇	1	一七〇	三七六〇
淺田都賀賀	八二二	一〇一七	四三三	七	一八八	1	一八八	三七五〇
山田都賀賀	八二六	一〇一八	四一五	一	一九〇	15	一八五	三七〇〇
久樂地澤	八二六	一〇一七	三九〇	三	一九〇	1	一九〇	三六五〇
邑樂地澤	八二三	一〇一七	三九〇	四	一九〇	1	一九〇	三六五〇
やかん	八二六	一〇一七	三六九	九	一六八	15	一五五	三七三〇

前表ノ成績ニ據リ尙ホ早中晩、稈長、品質等ヲ綜合シテ優良種ト認ムルモノハ粳種ニアリテハ金光坊、長柄早生、糯種ニテハ夜ノ雪糯、高砂早生トス其他ハ試験年數少キニヨリ決定スル能ハス

三、純系淘汰試験

(一) 純系淘汰第一年

金光坊 一七〇區
 長柄早生 一一三區
 浦次郎 八二區
 夜ノ雪糯 七一區

調査ノ成績左ノ如シ

品名	種名	區別	稈	分	藥	穗	重
金光坊	メ	メ	三、三三三		六、四七		一四〇〇
	モ	一	三、三三四		五、三三		一二三八
	ミ	ヂ	三、三七〇		六、〇九		一三、四六
長柄早生	メ	メ	四、〇八一		五、七一		二〇、二三
	モ	一	三、九六五		五、〇三		一六、二七
	ミ	ヂ	四、〇三三		五、四八		一八、九二

浦次郎	夜ノ雪糯	區別	稈	分	藥	穗	重
メ	メ	メ	四、〇九三		五、八七		一八、九四
モ	一	一	四、〇二七		三、四三		一五、七六
ミ	ヂ	ヂ	四、〇七一		五、〇九		一七、八八
藤藏糯	メ	メ	三、六四五		三、〇〇		一〇、六〇
	モ	一	三、四三五		一、八八		八、五〇
	ミ	ヂ	三、五七五		二、六五		九、九〇

以上ノ調査ニ據リ各品種十五種宛ヲ選擇シテ第二年ノ試験ニ供スルコト、セリ

(二) 純系淘汰第二年

美濃早生 一〇〇區
 常陸錦 一〇〇區
 藤藏糯 一〇〇區
 静岡戦捷 一〇〇區
 勢多凱旋 一〇〇區
 早生江曾島糯 一〇〇區
 大畑早生 一〇〇區

備考 一區ノ面積ハ二歩トス

調査中「ミーン」ヲ掲クレハ左ノ如シ

品 種 名	出 穂 日	總 穂 量	分	稈 程	長 初 收 量
美濃早生	一五、五三	一九〇、二二	四、九八	三、五五	五、二七
常陸錦	一六、三五	一五〇、〇六	三、二四	三、六五	四、〇四
藤藏糯	二五、五九	一九〇、九二	四、三四	四、〇四	五、〇六
静岡戦捷	二二、四七	二二〇、二六	四、五三	三、六三	六、〇六
勢多凱旋	一五、一五	一九一、六〇	五、一七	三、七三	六、〇六
早生江會島糯	一四、一六	一八九、三五	五、三四	三、七〇	五、二〇
大畑早生	二〇、〇〇	二二〇、一〇	四、五〇	三、六五	六、二六

備考 出穂月ハ八月ナリ

以上調査ノ成績ニ據リ藤藏糯一四、美濃早生一二、大畑早生一二、勢多凱旋一〇、静岡戦捷一〇、早生江會島糯一〇、常陸錦八、種ヲ選擇シテ第三年ノ試験ニ供スルコト、セリ

四、品種育成試験

陸稻ノ極早生種ヲ育種センカ爲水稻ノ極早生種ヲ畑ニ播種シ漸次陸稻ニ馴化セシムルノ方法ニヨリ左ノ五品種ニ就キ試験ヲ行ヘリ

- 一、保村早生

- 二、北海道糯
- 三、坊主
- 四、苗代稻
- 五、早生愛國

第三、大豆

- 一、耕種梗概
- 一、畦幅 二 尺
- 一、選種 平盆選
- 一、肥料 一反歩常木灰十五貫ヲ元肥ニ施ス
- 一、播種量 一反歩當二升乃至三升
- 一、播種 五月二十七日
- 一、中耕、除草
- 第一回 六月十九日(中耕)
- 第二回 七月八日(中耕)

第三回 七月二十六日(除草)
 第四回 八月二十六日(除草)

二、品種試驗

明治三十四年來ノ繼續ニシテ各種ノ大豆ヲ蒐メ當地方ノ風土ニ適スル良種ヲ選出セントスルモノニシテ二十一種ニ就キ試驗セリ其ノ成績左ノ如シ

品 種 名	成 熟 期	長	收			平 均
			大正五年	前年平均	最近三ヶ均年	
改良大豆	九月九日	一七〇	一三三	七	一〇八七	一三六
朽木改良大豆	九月九日	一三七	一四九	一	一〇九五	一〇八八
裸豆	九月九日	一七六	一八〇	七	一〇六一	一〇八八
鬼裸	九月〇	一四七	一三五	一	〇九七五	一三九九
白裸	九月七	一七五	一五〇	七	一〇九七	一三九九
赤還	九月九	一八三	一五五	一	一〇九七	一三九九
赤還	九月九	二二〇	〇九五	一	一〇九七	一三九九
白生	九月九	一八八	一〇五	一	一〇九七	一三九九
生借	九月〇	一六五	一三〇	九	一〇八〇	一三九九
借金	九月八	一八〇	一〇五	一	一〇八〇	一三九九
水	九月八	一六七	一三〇	一	一〇八〇	一三九九

鈴 上 地 枿 實 晚 比 志 地 四	豆 總 藏 木 郎 後 尼 加 藏 茨	九 七	九 二	九 二	九 九	九 九	九 九	九 九	九 九	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二
一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三

前表ノ如ク優良種ト認ムルモノハ借金ナシ、鬼裸ニシテ之ニ亞クハ水潜、上總、裸豆、還俗等ナリ

第四、纖維料作物

一、蒭草ニ關スル試驗

當地方ニ於テ蒭草ヲ栽培シ副業トシテ疊表、吳産類ヲ織成スルノ得失ヲ研究セントスル目的ニテ前年ヨリ繼續試驗ヲ行ヒシニ濕田ニシテ二毛作ヲナシ得サル處若クハ婦人等ノ勞力ヲ利用シ得ル處ニテハ有利ト認メ邑樂、群馬、吾妻、勢多ノ各郡ニ本場養成ノ苗ヲ配布シ試作ヲ行ヘリ

麥類

一、耕種梗概

麥類試驗ハ特別ノモノヲ除クノ外總テ次ノ耕種法ニヨリテ栽培セリ

一、整地 大豆跡地ハ十月中旬南北ニ馬耕ヲ行ヒ同下旬馬鍬ニテ土塊ヲ破碎シ播種前畦幅二尺ノ距離ニ東西ニ作條ヲ設ク陸稻跡地ハ踏鍬ニテ一回耕起シ後チ土塊ヲ碎キ畦巾二尺ノ距離ニ作條ヲ設ク水稻裏作地ハ水稻刈取後直ニ鋤起シ播種前再ヒ耕起シ土塊ヲ粉碎シ畦巾二尺ノ距離ニ作條ヲ設ク

一、肥料

甲、大麥及ヒ裸麥

肥料名	一反歩用量	全上價額	元肥		追肥		所含窒素	所含磷酸	成分里
			第一回	第二回	第一回	第二回			
堆肥	300,000	3,000	300,000				1.610	1.020	1.500
大豆粕	6,000	0.972	6,000				0.441	0.217	0.110
強過磷酸	5,000	0.615	5,000				—	1.053	—
人糞	5,000	1.050	18,000	18,000	18,000	0.691	0.143	0.216	—
計		5,637				2,753	2,503	1,836	

乙、小麥

肥料名	一反歩用量	全上價額	元肥		追肥		所含窒素	所含磷酸	成分里
			第一回	第二回	第一回	第二回			
堆肥	150,000	1,500	300,000				1.350	0.900	1.250
大豆粕	6,000	0.972	6,000				0.441	0.217	0.110
強過磷酸	5,000	0.615	5,000				—	1.053	—
人糞	5,000	1.050	18,000	18,000	18,000	0.691	0.143	0.216	—
計		5,137				2,483	2,333	1,566	

備考 一、甲乙兩表共ニ陸稻跡及ヒ水田裏作ニハ大豆粕四貫目ヲ増施スルモノトス

二、採種用ハ本表ノ堆肥三分ノ一ヲ減ス

- 一、選種 大麥ハ一、一三、小麥及ヒ裸麥ハ一、二三ノ比重液ニテ比重選ヲ行フ
- 一、病害豫防 麥奴及ヒ浴葉病豫防ノ目的ヲ以テ大麥、小麥、裸麥共ニ冷水温湯浸法ヲ行フ
- 一、播種量 一反歩ニ付大麥ハ四升乃至四升五合、小麥、裸麥ハ三升乃至三升五合トス
- 一、播種法 普通ハ條播、採種用ハ二列一粒播ヲ行フ
- 一、播種期 普通小麥、裸麥ハ十月下旬、大麥ハ十一月上旬、採種用ハ十月二十日前後トス

- 一、追肥 第一回十二月、第二回二月
- 一、踏付 第一回十二月、第二回二月、第三回二月乃至三月
- 一、中耕 第一回十二月、第二回二月、第三回三月下旬
- 一、土入 第一回四月上旬、第二回四月中旬、第三回四月下旬
- 一、收穫期 黄熟期ニ刈取ル
- 二、品種試験

明治三十四年以來ノ繼續ニシテ其目的ハ内外各種ノ品種及ヒ人工交配ニヨリテ育成シタル新品種ヲ栽培シ其ノ性状、品質、收量等ノ優劣ヲ比較シ以テ當地方ノ風土ニ適應スル良種ヲ選出センカ爲大麥、裸麥、小麥ニ就キテ試験セリ其ノ成績左ノ如シ

甲、大麥

品種名	出穂	成熟	稈長	芒長	反歩		平均	全上收量順位	一升重	品質
					大正五年前年平均	最近三年平均				
半芒	四月七日	六月二日	四一五	一七	四七九	五二八	四七九	三	三〇五	上
備前早生	四月八日	六月三日	四一〇	一三	四九七	四七六	四七六	九	二九六	上
白麥	四月八日	六月四日	四一〇	三〇	四六〇	四四七	四四七	三	三〇六	上
ボールテンメロン	四月五日	六月八日	四五〇	三五	三八七	三六八	四二二	七	三〇〇	上

品種名	出穂	成熟	稈長	芒長	反歩		平均	全上收量順位	一升重	品質
					大正五年前年平均	最近三年平均				
改良大麥	四月〇日	六月六日	四一五	二九	五〇七	四九七	四七九	一〇	三〇四	中
竹林好	四月八日	六月三日	三九二	一八	五五二	五二二	四五六	二	二九八	上
竹畝四	四月五日	六月五日	三五五	一三	五一〇	四七五	四七五	七	三〇五	中
五石	四月五	六月八	四二五	二五	四六五	四三二	四三六	一四	三〇七	中
辨慶	四月五	六月三	三四五	一七	四三六	四一七	四三七	一五	三〇六	中
彌右衛門	四月九	六月三	四三〇	一四	五二九	五〇八	五二二	二	二九四	中
白穂	四月六	六月四	四一五	一六	四八一	四四二	四六二	二	三〇五	上
岡山	四月九	六月四	三九〇	一五	四九二	四七五	四九一	五	三〇六	中
虎ノ	四月九	六月七	四一五	一六	四九二	四七五	四九一	五	三〇六	中
水品	四月九	六月三	三三三	一七	五〇一	五〇三	四八九	六	二九五	中
奥州	四月三	六月七	四五〇	一三	五〇九	四七〇	四七〇	八	二九八	中
乙六	四月三	六月二	四〇五	三一	三九八	三八四	三八四	八	三〇一	中
丹波白	四月四	六月二	四〇五	三一	三九八	三八四	三八四	八	三〇一	中
丹波白	四月三	六月二	三六〇	二〇	四六一	四二七	四二七	一六	三〇一	中
丹波白	四月三	六月二	三六〇	二〇	四六一	四二七	四二七	一六	三〇一	中
シユキロード	四月二	六月九	四四七	四六	五五八	五五九	五六〇	一	二八八	下

本試験ノ成績ニ據リ收量、品質、草丈、熟期等ヲ綜合シテ優良種ト認ムルハ半芒、備前早生、白麥、竹林等ニシテ半芒ハ草丈中位ニシテ熟期早ク品質、收量等モ最上ナリ備前早生ハ草丈稍長キモ品質良好、白麥ハ收量中位ナルモ品質最モ良好ニシテ日本種ノ最上位ナリ竹林ハ草丈短ク多肥ニ堪ヘ跡作ヲナスニ適ス故ニ以上ノ四種ヲ原種ト定メタリ「シユキロード、シユバリー」ハ收量最多ナルモ品質劣等ニシテ草丈長ク且晩熟ナ

ルヲ以テ跡作ヲナスニ適セス「ゴールデン、メロン」ハ收量少キモ麥酒醸造用トシテ最モ適當ナリ然レトモ
 熟期晚キヲ以テ跡作ノ栽培ニハ不適當ナリ

乙、裸 麥

品 種 名	出 穂	成 熟	稈 長	芒 長	一 反 步 收 量		全 上 收 量 順 位	一 升 重	品 質
					大正五年前年平均	最近三ヶ年平均			
薄皮	四月五日	五月三十一日	四〇三	二七	三五八	三、四三	二	三五九	上
豐年	四月三日	六月三日	四一〇	二〇	三、三八	三、三三	一	三七〇	上
屋根	四月三〇	六月三	三七五	二三	三、三〇	三、二四	四	三七〇	中
郡益	四月三〇	六月三	四八〇	二二	二、九二	二、九五	六	三五〇	上
天寺	四月三〇	六月三	四九四	二二	三、一七	二、九八	五	三五〇	上
小王	四月四	五月三	三七五	二四	三、九一	三、四一	三	三三〇	上

本試験ノ成績ニ據リ收量、品質、熟期、草丈等ヲ綜合シテ優良ト認ムルハ豐年、薄皮ノ二種トス天王寺、郡益ノ二種ハ品質良好ナルモ草丈長クシテ跡作ヲナスニ不適當ナリ

丙、小 麥

品 種 名	出 穂	成 熟	稈 長	芒 長	一 反 步 收 量		全 上 收 量 順 位	一 升 重	品 質
					大正五年前年平均	最近三ヶ年平均			
赤三尺	四月二日	六月七日	三七〇	一四	二、九四	二、〇〇	二七	三六五	中
スネキ	四月二日	六月五	三〇二	一七	二、六三	二、五五	二二	三六五	中
南京坊	五月一日	六月八	三、七五	〇	二、五八	二、四七	三	三三五	中
資選	五月三	六月八	四、〇八	〇	二、八〇	二、七〇	二	三三五	中
柳窪	五月三	六月八	四、〇八	〇	二、八〇	二、七〇	二	三三五	中
細だる	五月三	六月八	四、四四	〇	二、七二	二、六六	二	三三〇	中
赤だる	四月九	六月一	四、五五	一三	二、七二	二、六六	二	三三〇	中
コボ	四月九	六月一	三、三〇	一七	二、五三	二、四四	四	三七五	下
三州小	四月九	六月一	四、四五	一五	二、六二	二、四八	一	三六五	中
赤州	四月二九	六月一	四、四七	〇	二、六六	二、五五	二	三六五	中
西國穂	五月四	六月一	四、二五	〇	二、四六	二、五七	七	三六五	中
改良早	五月四	六月一	四、五七	〇	二、三〇	二、四二	一八	三七五	中
江島	五月七	六月二	五、〇八	〇	二、二七	二、四〇	三	三五五	下
伊賀白無	四月七	六月二	四、七五	三、一	二、二七	二、四〇	八	三七五	中
伊賀白無	四月七	六月二	四、七五	三、一	二、二七	二、四〇	八	三七五	中
筑後カ	四月七	六月二	四、七五	三、一	二、二七	二、四〇	八	三七五	中
七號カ	四月七	六月二	四、七五	三、一	二、二七	二、四〇	八	三七五	中
ホルニア	四月七	六月二	四、七五	三、一	二、二七	二、四〇	八	三七五	中
白小麥	四月九	六月一	四、三〇	一、六	二、五二	二、二四	九	三七五	下

備考 一、甲、乙、丙表中肩ニ數字ヲ附セルハ試作年數ヲ示セルモノナリ

本試験ノ成績ヲ綜合シテ優良種ト認ムルハ新田早生、だるまノ二種ニシテ原種トナセリ赤三尺、スネキリハ普通ノ栽培ニ於テハ收量多カラサルモ草丈短ク強剛ニシテ多肥ニ堪ヘ且跡作ヲナスニ適ス資選ハ收量多キモ穀皮厚ク草丈長クシテ跡作ヲナスニ不適當ナリ

三、豊凶考照試験

明治三十四年以來ノ繼續ニシテ同一ノ土地ニ於テ大麥、小麥、裸麥ノ三種ヲ毎年同一ノ方法ニヨリ栽培シテ其ノ年ノ豊凶ヲ考照セントスルニアリ

本年ノ豊凶考照試験ノ麥ハ十月三十一日播種シ十一月九日發芽セリ播種當時ハ概ネ雨天勝ナリシモ以來天候恢復シ氣温特ニ地温高カシリヲ以テ生育促進シ草丈莖數共ニ良好ナリ然レトモ稍々軟弱ナルヲ免レス二月下旬ヨリ時々降雨アリ加之三月ニ至リ氣温激降セシヨリ是レカ爲生育ヲ阻害セラレタリ春分後ハ天候概ネ適順ヲ缺キ三月ヨリ四月上旬ニ至ルノ間氣温並地温低ク往々寒風ノ襲來セルヲ以テ著シク生育ヲ抑制セラレタルモ其後天候恢復シ四月下旬ニ至リ氣温頓ニ上昇セシヲ以テ出穂期促進セリ其ノ後成熟期ノ氣候良好ナラサリシニヨリ收量平年ヨリ劣レリ今其ノ經過ヲ示セハ左ノ如シ

種	大
別	豆
區別	跡
冬至	
小寒	
大寒	
立春	
雨水	
啓蟄	
春分	
清明	
穀雨	
立夏	
小滿	

陸稻跡

	備前早生	大	麥	裸	麥	小	赤	赤	關
	鬼	鬼	ゴールデンメロン	豊	薄	原	坊	三	取
	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈
	〇、四三	〇、四七	〇、五二	〇、五五	〇、五八	〇、六二	〇、六六	〇、七〇	〇、七四
	〇、五五	〇、六〇	〇、六五	〇、七〇	〇、七五	〇、八〇	〇、八五	〇、九〇	〇、九五
	〇、五九	〇、六四	〇、六九	〇、七四	〇、七九	〇、八四	〇、八九	〇、九四	〇、九九
	〇、七三	〇、七八	〇、八三	〇、八八	〇、九三	〇、九八	一、〇三	一、〇八	一、一三
	〇、八三	〇、八八	〇、九三	〇、九八	一、〇三	一、〇八	一、一三	一、一八	一、二三
	〇、九三	〇、九八	一、〇三	一、〇八	一、一三	一、一八	一、二三	一、二八	一、三三
	一、〇三	一、〇八	一、一三	一、一八	一、二三	一、二八	一、三三	一、三八	一、四三
	一、一三	一、一八	一、二三	一、二八	一、三三	一、三八	一、四三	一、四八	一、五三
	一、二六	一、三一	一、三六	一、四一	一、四六	一、五一	一、五六	一、六一	一、六六
	一、三六	一、四一	一、四六	一、五一	一、五六	一、六一	一、六一	一、六一	一、六一
	一、四七	一、五二	一、五七	一、六二	一、六七	一、七二	一、七七	一、八二	一、八七
	一、五七	一、六二	一、六七	一、七二	一、七七	一、八二	一、八七	一、九二	一、九七
	一、六六	一、七一	一、七六	一、八一	一、八六	一、九一	一、九六	二、〇一	二、〇六
	一、七六	一、八一	一、八六	一、九一	一、九六	二、〇一	二、〇六	二、一一	二、一六
	一、八六	一、九一	一、九六	二、〇一	二、〇六	二、一一	二、一六	二、二一	二、二六
	一、九六	二、〇一	二、〇六	二、一一	二、一六	二、二一	二、二六	二、三一	二、三六
	二、〇六	二、一一	二、一六	二、二一	二、二六	二、三一	二、三六	二、四一	二、四六
	二、一六	二、二一	二、二六	二、三一	二、三六	二、四一	二、四六	二、五一	二、五六
	二、二六	二、三一	二、三六	二、四一	二、四六	二、五一	二、五六	三、〇一	三、〇六
	二、三六	二、四一	二、四六	二、五一	二、五六	二、六一	二、六一	二、六一	二、六一
	二、四六	二、五一	二、五六	三、〇一	三、〇六	三、一一	三、一六	三、二一	三、二六
	二、五六	三、〇一	三、〇六	三、一一	三、一六	三、二一	三、二六	三、三一	三、三六
	二、六六	三、一一	三、一六	三、二一	三、二六	三、三一	三、三六	三、四一	三、四六
	二、七六	三、二一	三、二六	三、三一	三、三六	三、四一	三、四六	三、五一	三、五六
	二、八六	三、三一	三、三六	三、四一	三、四六	三、五一	三、五六	三、六一	三、六一
	二、九六	三、四一	三、四六	三、五一	三、五六	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一
	三、〇六	三、五一	三、五六	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一
	三、一六	三、二一	三、二六	三、三一	三、三六	三、四一	三、四六	三、五一	三、五六
	三、二六	三、三一	三、三六	三、四一	三、四六	三、五一	三、五六	三、六一	三、六一
	三、三六	三、四一	三、四六	三、五一	三、五六	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一
	三、四六	三、五一	三、五六	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一
	三、五六	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一	三、六一
	三、六六	三、七一	三、七六	三、八一	三、八六	三、九一	三、九六	四、〇一	四、〇六
	三、七六	三、八一	三、八六	三、九一	三、九六	四、〇一	四、〇六	四、〇六	四、〇六
	三、八六	三、九一	三、九六	四、〇一	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六
	三、九六	四、〇一	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六
	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六
	四、一六	四、二一	四、二六	四、三一	四、三六	四、四一	四、四六	四、五一	四、五六
	四、二六	四、三一	四、三六	四、四一	四、四六	四、五一	四、五六	四、六一	四、六一
	四、三六	四、四一	四、四六	四、五一	四、五六	四、六一	四、六一	四、六一	四、六一
	四、四六	四、五一	四、五六	四、六一	四、六一	四、六一	四、六一	四、六一	四、六一
	四、五六	四、六一	四、六一	四、六一	四、六一	四、六一	四、六一	四、六一	四、六一
	四、六六	四、七一	四、七六	四、八一	四、八六	四、九一	四、九六	五、〇一	五、〇六
	四、七六	四、八一	四、八六	四、九一	四、九六	五、〇一	五、〇六	五、〇六	五、〇六
	四、八六	四、九一	四、九六	五、〇一	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六
	四、九六	五、〇一	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六
	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六	五、〇六
	五、一六	五、二一	五、二六	五、三一	五、三六	五、四一	五、四六	五、五一	五、五六
	五、二六	五、三一	五、三六	五、四一	五、四六	五、五一	五、五六	五、六一	五、六一
	五、三六	五、四一	五、四六	五、五一	五、五六	五、六一	五、六一	五、六一	五、六一
	五、四六	五、五一	五、五六	五、六一	五、六一	五、六一	五、六一	五、六一	五、六一
	五、五六	五、六一	五、六一	五、六一	五、六一	五、六一	五、六一	五、六一	五、六一
	五、六六	五、七一	五、七六	五、八一	五、八六	五、九一	五、九六	六、〇一	六、〇六
	五、七六	五、八一	五、八六	五、九一	五、九六	六、〇一	六、〇六	六、〇六	六、〇六
	五、八六	五、九一	五、九六	六、〇一	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六
	五、九六	六、〇一	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六
	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六	六、〇六
	六、一六	六、二一	六、二六	六、三一	六、三六	六、四一	六、四六	六、五一	六、五六
	六、二六	六、三一	六、三六	六、四一	六、四六	六、五一	六、五六	六、六一	六、六一
	六、三六	六、四一	六、四六	六、五一	六、五六	六、六一	六、六一	六、六一	六、六一
	六、四六	六、五一	六、五六	六、六一	六、六一	六、六一	六、六一	六、六一	六、六一
	六、五六	六、六一	六、六一	六、六一	六、六一	六、六一	六、六一	六、六一	六、六一
	六、六六	六、七一	六、七六	六、八一	六、八六	六、九一	六、九六	七、〇一	七、〇六
	六、七六	六、八一	六、八六	六、九一	六、九六	七、〇一	七、〇六	七、〇六	七、〇六
	六、八六	六、九一	六、九六	七、〇一	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六
	六、九六	七、〇一	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六
	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六	七、〇六
	七、一六	七、二一	七、二六	七、三一	七、三六	七、四一	七、四六	七、五一	七、五六
	七、二六	七、三一	七、三六	七、四一	七、四六	七、五一	七、五六	七、六一	七、六一
	七、三六	七、四一	七、四六	七、五一	七、五六	七、六一	七、六一	七、六一	七、六一
	七、四六	七、五一	七、五六	七、六一	七、六一	七、六一	七、六一	七、六一	七、六一
	七、五六	七、六一	七、六一	七、六一	七、六一	七、六一	七、六一	七、六一	七、六一
	七、六六	七、七一	七、七六	七、八一	七、八六	七、九一	七、九六	八、〇一	八、〇六
	七、七六	七、八一	七、八六	七、九一	七、九六	八、〇一	八、〇六	八、〇六	八、〇六
	七、八六	七、九一	七、九六	八、〇一	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六
	七、九六	八、〇一	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六
	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六	八、〇六
	八、一六	八、二一	八、二六	八、三一	八、三六	八、四一	八、四六	八、五一	八、五六
	八、二六	八、三一	八、三六	八、四一	八、四六	八、五一	八、五六	八、六一	八、六一
	八、三六	八、四一	八、四六	八、五一	八、五六	八、六一	八、六一	八、六一	八、六一
	八、四六	八、五一	八、五六	八、六一	八、六一	八、六一	八、六一	八、六一	八、六一
	八、五六	八、六一	八、六一	八、六一	八、六一	八、六一	八、六一	八、六一	八、六一
	八、六六	八、七一	八、七六	八、八一	八、八六	八、九一	八、九六	九、〇一	九、〇六
	八、七六	八、八一	八、八六	八、九一	八、九六	九、〇一	九、〇六	九、〇六	九、〇六
	八、八六	八、九一	八、九六	九、〇一	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六
	八、九六	九、〇一	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六
	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六	九、〇六
	九、一六	九、二一	九、二六	九、三一	九、三六	九、四一	九、四六	九、五一	九、五六
	九、二六	九、三一	九、三六	九、四一	九、四六	九、五一	九、五六	九、六一	九、六一
	九、三六	九、四一	九、四六	九、五一	九、五六	九、六一	九、六一	九、六一	九、六一
	九、四六	九、五一	九、五六	九、六一	九、六一	九、六一	九、六一	九、六一	九、六一
	九、五六	九、六一	九、六一	九、六一	九、六一	九、六一	九、六一	九、六一	九、六一
	九、六六	九、七一	九、七六	九、八一	九、八六	九、九一	九、九六	十、〇一	十、〇六
	九、七六	九、八一	九、八六	九、九一	九、九六	十、〇一	十、〇六	十、〇六	十、〇六
	九、八六	九、九一	九、九六	十、〇一	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六
	九、九六	十、〇一	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六
	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六	十、〇六
	十、一六	十、二一	十、二六	十、三一	十、三六	十、四一	十、四六	十、五一	十、五六
	十、二六	十、三一	十、三六	十、四一	十、四六	十、五一	十、五六	十、六一	十、六一
	十、三六	十、四一	十、四六	十、五一	十、五六	十、六一	十、六一	十、六一	十、六一
	十、四六	十、五一	十、五六	十、六一	十、六一	十、六一	十、六一	十、六一	十、六一
	十、五六	十、六一	十、六一	十、六一	十、六一	十、六一	十、六一	十、六一	十、六一
	十、六六	十、七一	十、七六	十、八一	十、八六	十、九一	十、九六	十一、〇一	十一、〇六
	十、七六	十、八一	十、八六	十、九一	十、九六	十一、〇一	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六
	十、八六	十、九一	十、九六	十一、〇一	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六
	十、九六	十一、〇一	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六
	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六	十一、〇六
	十一、一六	十一、二一	十一、二六	十一、三一	十一、三六	十一、四一	十一、四六	十一、五一	十一、五六
	十一、二六	十一、三一	十一、三六	十一、四一	十一、四六	十一、五一	十一、五六	十一、六一	十一、六一
	十一、三六	十一、四一	十一、四六	十一、五一	十一、五六				

種別	大 麥 三 種 平 均															
	大	正	五	年	平	一	年	比	較	增	減					
種別	備前早生	鬼	豊	薄	原	赤	赤	關	備前早生	鬼	豊	薄	原	赤	赤	關
區別	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈
冬至	〇.四六	〇.四八	〇.五〇	〇.五二	〇.五四	〇.五六	〇.五八	〇.六〇	〇.六二	〇.六四	〇.六六	〇.六八	〇.七〇	〇.七二	〇.七四	〇.七六
小寒	〇.五二	〇.五四	〇.五六	〇.五八	〇.六〇	〇.六二	〇.六四	〇.六六	〇.六八	〇.七〇	〇.七二	〇.七四	〇.七六	〇.七八	〇.八〇	〇.八二
大寒	〇.五八	〇.六〇	〇.六二	〇.六四	〇.六六	〇.六八	〇.七〇	〇.七二	〇.七四	〇.七六	〇.七八	〇.八〇	〇.八二	〇.八四	〇.八六	〇.八八
立春	〇.六四	〇.六六	〇.六八	〇.七〇	〇.七二	〇.七四	〇.七六	〇.七八	〇.八〇	〇.八二	〇.八四	〇.八六	〇.八八	〇.九〇	〇.九二	〇.九四
雨水	〇.七〇	〇.七二	〇.七四	〇.七六	〇.七八	〇.八〇	〇.八二	〇.八四	〇.八六	〇.八八	〇.九〇	〇.九二	〇.九四	〇.九六	〇.九八	一.〇〇
啓蟄	〇.七六	〇.七八	〇.八〇	〇.八二	〇.八四	〇.八六	〇.八八	〇.九〇	〇.九二	〇.九四	〇.九六	〇.九八	一.〇〇	一.〇二	一.〇四	一.〇六
春分	〇.八二	〇.八四	〇.八六	〇.八八	〇.九〇	〇.九二	〇.九四	〇.九六	〇.九八	一.〇〇	一.〇二	一.〇四	一.〇六	一.〇八	一.一〇	一.一二
清明	〇.八八	〇.九〇	〇.九二	〇.九四	〇.九六	〇.九八	一.〇〇	一.〇二	一.〇四	一.〇六	一.〇八	一.一〇	一.一二	一.一四	一.一六	一.一八
穀雨	〇.九四	〇.九六	〇.九八	一.〇〇	一.〇二	一.〇四	一.〇六	一.〇八	一.一〇	一.一二	一.一四	一.一六	一.一八	一二.〇	一.二二	一.二四
立夏	一.〇〇	一.〇二	一.〇四	一.〇六	一.〇八	一.一〇	一.一二	一.一四	一.一六	一.一八	一二.〇	一.二二	一.二四	一.二六	一.二八	一.三〇
小滿	一.〇六	一.〇八	一.一〇	一.一二	一.一四	一.一六	一.一八	一二.〇	一.二二	一.二四	一.二六	一.二八	一.三〇	一.三二	一.三四	一.三六

種別	大 麥 三 種 平 均															
	大	正	五	年	平	一	年	比	較	增	減					
種別	備前早生	鬼	豊	薄	原	赤	赤	關	備前早生	鬼	豊	薄	原	赤	赤	關
區別	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈	草丈
冬至	〇.四六	〇.四八	〇.五〇	〇.五二	〇.五四	〇.五六	〇.五八	〇.六〇	〇.六二	〇.六四	〇.六六	〇.六八	〇.七〇	〇.七二	〇.七四	〇.七六
小寒	〇.五二	〇.五四	〇.五六	〇.五八	〇.六〇	〇.六二	〇.六四	〇.六六	〇.六八	〇.七〇	〇.七二	〇.七四	〇.七六	〇.七八	〇.八〇	〇.八二
大寒	〇.五八	〇.六〇	〇.六二	〇.六四	〇.六六	〇.六八	〇.七〇	〇.七二	〇.七四	〇.七六	〇.七八	〇.八〇	〇.八二	〇.八四	〇.八六	〇.八八
立春	〇.六四	〇.六六	〇.六八	〇.七〇	〇.七二	〇.七四	〇.七六	〇.七八	〇.八〇	〇.八二	〇.八四	〇.八六	〇.八八	〇.九〇	〇.九二	〇.九四
雨水	〇.七〇	〇.七二	〇.七四	〇.七六	〇.七八	〇.八〇	〇.八二	〇.八四	〇.八六	〇.八八	〇.九〇	〇.九二	〇.九四	〇.九六	〇.九八	一.〇〇
啓蟄	〇.七六	〇.七八	〇.八〇	〇.八二	〇.八四	〇.八六	〇.八八	〇.九〇	〇.九二	〇.九四	〇.九六	〇.九八	一.〇〇	一.〇二	一.〇四	一.〇六
春分	〇.八二	〇.八四	〇.八六	〇.八八	〇.九〇	〇.九二	〇.九四	〇.九六	〇.九八	一.〇〇	一.〇二	一.〇四	一.〇六	一.〇八	一.一〇	一.一二
清明	〇.八八	〇.九〇	〇.九二	〇.九四	〇.九六	〇.九八	一.〇〇	一.〇二	一.〇四	一.〇六	一.〇八	一.一〇	一.一二	一.一四	一.一六	一.一八
穀雨	〇.九四	〇.九六	〇.九八	一.〇〇	一.〇二	一.〇四	一.〇六	一.〇八	一.一〇	一.一二	一.一四	一.一六	一.一八	一二.〇	一.二二	一.二四
立夏	一.〇〇	一.〇二	一.〇四	一.〇六	一.〇八	一.一〇	一.一二	一.一四	一.一六	一.一八	一二.〇	一.二二	一.二四	一.二六	一.二八	一.三〇
小滿	一.〇六	一.〇八	一.一〇	一.一二	一.一四	一.一六	一.一八	一二.〇	一.二二	一.二四	一.二六	一.二八	一.三〇	一.三二	一.三四	一.三六

今本年ノ收量ヲ平年(前七ケ年中最豊凶ニケ年ヲ除キ五ケ年ノ平均)ニ比スレハ大麥ハ一割八分、裸麥ハ一割二分、小麥ハ一割五分減ナリ尙ホ詳細ヲ示セハ左表ノ如シ

裸麥三種平均	二,五五四	三七四	二,九〇〇	三七六	〇,三六六	二
小麥三種平均	二,〇九一	三七三	二,四五二	三七〇	〇,三六一	二

備考 一、表中△印ハ減ヲ示ス

四、肥料配合試験

麥作ヲ行フニ當リ如何ナル肥料配合カ肥効最モ高クシテ經濟的ナルヤヲ知ラントスルモノニシテ供試肥料ノ三要素ノ量ヲシテ窒素二貫五百目、磷酸二貫、加里一貫七百目ノ標準量ニ近カラシメテ十區ニ就キ試験セリ其ノ成績左ノ如シ

區別	肥料名	反當施肥量	全上價額	反當收量	肥料一圓ニ對スル收量
一	硫酸アンモニア	二八六七	八〇六八	五,二八三	〇,四七二
	強過磷酸加里	九,九七〇	一,二二六		
計		三,五〇二	一,九〇四		
二	智利硝石	一六,五五六	七,一一九	五,〇一三	〇,四八九
	強過磷酸加里	九,九七〇	一,二二六		
計		三,五〇二	一,九〇四		

三	大豆粕	一六,九八四	二,七五一	五,二七一	〇,五六六
	硫酸アンモニア	六,四三三	四,〇三三		
計		八,一五七	一,〇〇三		
四	大豆粕	一六,九八四	二,七五一	五,四二四	〇,六四四
	智利硝石	八,二七六	三,五六〇		
計		八,一五七	一,〇〇三		
五	大豆粕	一三,五八七	二,一〇一	四,八二五	〇,五五六
	硫酸アンモニア	六,四七五	四,〇六〇		
計		六,一三九	一,四九八		
六	大豆粕	八,一五三	一,三二二	五,四四五	〇,五四七
	菜種粕	二,一三三	二,四〇五		
計		七,〇五九	一,五八八		
六	大豆粕	八,一五三	一,三二二	五,四四五	〇,五四七
	蠶蛹粕	三,三三五	二,〇八五		
計		三,三三五	二,〇八五		

區別	大正五年		前二ヶ年		平均	
	反當收量	對肥料一圓收量	反當收量	對肥料一圓收量	反當收量	對肥料一圓收量
八	五、二八三	〇、四七二	五、三三七	〇、四八八	五、三三九	〇、四八三
七	五、〇一三	〇、四八九	四、八六六	〇、四三〇	四、九一五	〇、四五〇
六	五、二七一	〇、五五六	五、五六七	〇、五一八	五、五三五	〇、五三四
五	五、四四一	〇、六一四	五、四二一	〇、四八七	五、四三三	〇、五二九
四	四、八一五	〇、五五六	四、四二四	〇、四八七	四、六八七	〇、四八八
三	五、四四五	〇、五四七	五、四七一	〇、四六二	五、四六三	〇、四九〇
二	五、二五六	〇、五〇九	四、五六一	〇、四四二	四、七九三	〇、四五五
一	五、二八五	〇、五七六	五、四六九	〇、四七三	五、五二二	〇、五〇七

區別	大正五年	前二ヶ年	平均
反當收量	對肥料一圓收量	反當收量	對肥料一圓收量
九	二、二七五	二、六四七	二、四六二
八	六、〇〇六	三、七六六	四、八八六
七	八、四四六	二、〇六一	一、五〇三
六	三、四〇四	一、八五一	〇、四六一
五	一、四七〇	一、〇三三	〇、六一一
四	八、二七八	三、三〇九	〇、四八八
三	八、六四八	三、五六〇	〇、四八八
二	三、三七九	一、〇六四	〇、四六一
一	二、二九三	一、八三八	〇、四六一

一〇九

四六七一
四九九九

〇八四三
〇七九四

五二〇一
五二八六

〇八七三
〇八四七

五〇〇四
五一八七

〇八六三
〇八二五

右ノ成績ニ據レハ反當收量ニ於テハ第三區最モ優リ第八區、第六區、第四區之ニ順次シ第五區最モ劣レリ而シテ特ニ注意スヘキハ磷酸ヲ骨粉ノミニテ給セシ第五區、第七區ノ不良ナルニアリ又肥料價額一圓ニ對スル收量ニ於テハ自給肥料ヲ別トシテハ第三區ノ大豆粕ト硫酸アンモニア及ヒ第四區ノ大豆粕ト智利硝石ヲ配合シタルモノ成績佳ナリ而シテ自給肥料ノ堆肥並人糞尿ヲ主トシテ施用セシ第九區、第十區ノ成績ハ金肥ノミノ配合ニ遙カニ優ルヲ以テ宜シク自給肥料ノ製造施用ニ努メ收益ノ増加ト金肥ノ節約トヲ計ルヘシ

五、磷酸効力試験
大麥ニ對シ水溶磷酸ト不溶磷酸トノ肥効ヲ知ラントスルモノニシテ水溶磷酸ハ過磷酸石灰、不溶磷酸ハ木灰中ニ含有セルモノヲ以テ給セリ一反歩用量左ノ如シ

區號	區別	肥料名	反當用量	窒素	磷酸	成加	分里
一	水溶磷酸區	水溶磷酸 硫酸アンモニア 硫酸加里	二〇〇〇 二二八七 三五〇二	二五〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一七〇〇

區號	區別	肥料名	反當用量	窒素	磷酸	成加	分里
二	不溶磷酸區	不溶磷酸 硫酸アンモニア 硫酸加里	二〇〇〇 二二八七 三五〇二	二五〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一七〇〇

試驗成績
大正五年前
年
平均
比
率

一	水溶磷酸區	四七三二	六四四四	五五七六	一〇〇
二	不溶磷酸區	四〇五九	五〇一六	四五三八	八二

前表ニ據レハ不溶磷酸ハ水溶磷酸ニ比シ其ノ効力約二割少キモノトス

六、加里肥効試験

大麥ニ對シ加里肥料ノ効力ヲ知ラントスル目的ヲ以テ左ノ區別ニヨリ試験セリ

區號	區別	肥料名	反當用量	窒素	磷酸	成加	分里
一	無肥料區			〇	〇	〇	〇

二	三	四	五
堆肥、硫酸、 過磷酸區	堆肥、硫酸、 過磷酸、硫酸 加用區	堆肥、硫酸、 過磷酸、硫酸 加用區	硫酸、 過磷酸區
堆肥、 硫酸アンモニア 肥	堆肥、 硫酸アンモニア 肥	堆肥、 硫酸アンモニア 肥	硫酸アンモニア
計	計	計	計
100,000 7,500 10,000 10,000 10,000	100,000 7,500 10,000 10,000 10,000	100,000 7,500 10,000 10,000 10,000	10,276
0.540 1.457 1.997	0.540 1.457 1.997	0.540 1.457 1.997	1.997
0.360 1.943 2.303	0.360 1.943 2.303	0.360 1.943 2.303	2.303
0.500 0.500 0.500	0.500 0.500 0.500	0.500 0.500 0.500	2.426

六	一	二	三	四	五	六
硫酸、 過磷酸 加用區						
硫酸アンモニア						
計						
5,000	3,000	3,400	3,100	3,300	3,500	3,450
1.853	1.997	1.997	1.997	1.997	1.997	1.997
2.303	2.303	2.303	2.303	2.303	2.303	2.303
2.426	2.426	2.426	2.426	2.426	2.426	2.426

本表ニ據レハ加里肥料即チ硫酸加里ヲ増施スルトキハ堆肥ノ施用如何ニ係ハラス稈量ニ於テハ何レモ多少ノ増加ヲ見ル特ニ穀ノ容重量ニ於テ堆肥區ノ硫酸加里四貫加用區ハ却テ減收ヲ來セルハ異例トスル所ナリ尙ホ研究ノ結果其ノ理由ヲ確ムヘシ

七、二毛作田大麥栽培法試驗

水田裏作トシテ大麥ノ各種栽培法ニ就キ研究セントスルモノニシテ左ノ區別ニヨリ試驗セリ

第一、普通法 當場普通栽培法ニヨル
 第二、移植法 十月三十日一坪當二合ノ割合ヲ以テ播種シタル苗ヲ他法播種ト同日株間五寸一株十本宛移植シ尙ホ覆土ヲナシ足ニテ株際ヲ踏壓ス
 第三、二列播法 畦巾二尺五寸ニシテ一作條中ニ二列播トス
 第四、萌芽法 播種十日前一晝夜間水ニ浸漬シタル種子ヲ別ニ造リタル床上ニ五分ノ厚サニ併列シ其ノ上ニ蠶網ヲ被ヒ薄ク覆土シ發芽セシメテ他法ト同日播種シタルモノナリ

一、品種 備前早生
 一、播種 十一月二十五日
 試驗成績

區別	出穂期	成熟期	收量	
			大正五年	前年平均
普通法	四月二六日	六月七日	二五八石	五二九石七六
移植法	四月二二日	六月三日	二八五石	五三四石二七
二列播法	四月二五日	六月七日	二六五石	五三三石九五
萌芽法	四月二六日	六月七日	二七四石	五三二石九七
均				二九二石

本成績ニ據レハ普通法ニ比シ何レモ成績佳良ナルヲ以テ播種期ノ遅ル、場合例ヘハ水田裏作トシテ麥ヲ栽培スル等ニハ移植其他ノ方法ニ據ルヲ得策トス就中二列播法ハ畦巾廣キヲ以テ牛馬耕ニヨリ中耕ヲナスコトヲ得勞力ヲ節約スル点ニ於テ利益アリ

八、裏作麥多收競作試驗

水田ノ裏作トシテ大麥ヲ栽培スルニ當リ如何ニシテハ最多收ニシテ且經濟的ナルヤヲ知ラントスル目的ニテ左ノ八區ニ就キ練習生ニ競作セシメタリ

試驗區別

- 第一、當場普通法畦巾二尺條播
- 第二、畦ノ方向ハ東西ニシテ畦巾ハ三尺ト一尺トノ交互トナシ播巾五寸ニシテ二列播トス
- 第三、畦ノ方向ハ東西ニシテ畦巾二尺播巾五寸ニシテ一條ハ條播ヲナシ一條ハ二列播トシテ交互ニ播種ス
- 第四、畦ノ方向ハ東西ニシテ畦巾二尺五寸播巾七寸ノ條播トス
- 第五、畦ノ方向ハ東西畦巾二尺五寸ト一尺二寸トノ交互ニシテ播巾五寸ニ列播トス
- 第六、畦ノ方向東西ニシテ畦巾二尺五寸ト一尺ト交互ニシテ播巾五寸ノ二列播トス
- 第七、畦ノ方向東西、畦巾二尺五寸ト一尺ノ交互ニシテ條播トス
- 第八、畦ノ方向東西、畦巾二尺五寸播巾六寸ニシテ二列條播トス

肥料用量並價額

區別	用量價額	肥料			
		堆肥	大豆粕	強過磷酸	人糞尿
肥					
木					
灰					
菜種粕					
料					

第	第	第	第	第	第	第	第
八	七	六	五	四	三	二	一
價用	價用	價用	價用	價用	價用	價用	價用
額量	額量	額量	額量	額量	額量	額量	額量
三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇
一,二九八	八,〇〇〇	八,〇〇〇	八,〇〇〇	一〇,〇〇〇	八,〇〇〇	九,〇〇〇	一〇,〇〇〇
〇,七三八	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
一,〇五〇	五,四〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五,四〇〇	五,六〇〇	五,四〇〇
〇,二〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	加 里 四,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇	—
〇,八六四	—	〇,六四八	—	加 里 一,五七五	〇,八六四	—	—
七,一五〇	五,九七九	七,二四五	六,五九七	—	七,一五〇	六,二六二	六,二六五

試驗ノ成績及ヒ收支計算左ノ如シ

區	別	反當收量	全上價額	反當肥料價額	肥料代金	全上順位	收量順位
第	一	三,二二五	二,二五五	六,二八五	一六,二九〇	—	—
第	二	二,九四七	二,〇六九	六,二六二	一四,三六七	—	—
第	三	二,六〇三	一,八二二	七,一五〇	一一,〇七一	—	—
第	四	三,一九三	二,三五二	一〇,五六七	一一,七四四	—	—
第	五	二,五四七	一,七八九	六,五九七	一一,一三三	—	—
第	六	二,三六七	一,六五九	七,二四五	九,三三四	—	—
第	七	二,五五三	一,七八七	五,九七九	一一,八九二	—	—
第	八	二,七四〇	一,九一八	七,一五〇	一一,〇三〇	—	—

前表ニ據レハ收量並肥料代差引殘額共ニ第一區第一位ヲ占メ第六區最モ劣レリ而シテ肥料代金差引殘額ニ於テ最多最少ヲ比較スルトキハ實ニ六圓九拾六錢六厘ノ差アルヲ以テ見レハ肥料ノ選擇配合並ニ栽培法ノ如何ニヨリ多大ノ得失アルヲ知ルニ足ラム

九、三要素適量試驗

當地方ノ土壤ニ於テ三要素ハ幾何量ヲ以テ適度ト爲スヤヲ參觀人ニ實見セシムカ爲ニシテ窒素ヲ無窒素及ヒ窒素二貫、二貫五百目、三貫、三貫五百目、四貫ノ六區トシ磷酸ヲ無磷酸及ヒ磷酸一貫、一貫五百目、二貫、二貫五百目ノ五區トシ加里ヲ無加里及ヒ加里五百目、一貫、一貫五百目、二貫ノ五區トシ其他三要素單用及

ヒ無肥料ノ四區ヲ面積八千分ノ一反歩ノ「ポット」ニ於テ試驗シタリ其成績ハ窒素ニアリテハ三貫區磷酸ニアリテハ二貫五百目區加里ニアリテハ二貫區最モ多收ナリ

一〇、大小麥純系淘汰試驗

品種比較試驗ノ結果優良ト認メタル左記品種ニ就キ純系淘汰第二年ヲ施行セリ

彌右衛門		關取系		(一) 大麥	
虎ノ尾	南橋白麥	水竹	久保田	田部井	
白麥系	神流穂揃	品林	田	井	
白	惣社	品	田	井	
麥	麥	品	田	井	
		五三區	一八區	六〇區	三五區
		三七區	二九區	五〇區	四九區
		二九區	六〇區	五〇區	四九區
		五〇區	六〇區	五〇區	四九區
		五三區	一八區	六〇區	三五區

二一	區號	出穂月日	程	長	程	剛	性	百粒重量	總重量(七〇.六坪)	一條列ノ粒數
四三	四月二日	四月二日	二九〇	三〇〇	二九	二七	三九五	四〇五	二七二	一七二
五畝四石	結城	半芒	備前早生	備前早生	名古屋備前	(二) 小麥	美九里白坊主	赤坊主系	神	高
五八區	五〇區	四四區	五〇區	六〇區	六〇區	六〇區	六〇區	五八區	四五區	四五區

田部井關取(調査ノ一部分ヲ示ス他ノ品種ハ略之)

調査ノ結果左ノ如シ

惣社麥	八種	白麥	九種
結城	八種	五畝四石	一〇種
半芒	九種	新田備前早生	七種
備前早生	一〇種	名古屋備前	一〇種
美九里白坊主	一〇種	神流赤坊主	六種
高田赤坊主	九種		

一一、大小麥雜種比較試驗

農事試驗場畿内支場ノ育成ニ係ル大小麥新品種ト在來種トノ比較試驗ヲ行ヘリ其ノ成績左ノ如シ

(一) 大麥

番號	品名	試驗地	出穗期	成熟期	反當收量	一升重	品質	將來ノ見込
三	丹波白×ハンヘン	全田	四月三日	六月八日	三二二三	二九二〇	上	見將來ノ
八	仁多福×獨乙一號	全田	四月七日	六月七	二〇七九	三〇〇〇	上	見將來ノ
三	三月フルトン×フルトン三月	全田	四月六	六月七	三九五五	三〇一五	中	見將來ノ
一五	オーダー丹波白×六角シエバリ	全田	四月六	五月三〇	三二六四	三〇五五	中	見將來ノ
一七	オーダー×オーダー丹波白	全田	四月九	五月三〇	三八一九	二九九〇	上	見將來ノ
三	坊主オーダー×ハンヘン	全田	四月八	五月三〇	三八九三	三二一五	上	見將來ノ

(二) 小麥

番號	品名	試驗地	出穗期	成熟期	反當收量	一升重	品質	將來ノ見込
一	伊賀筑後×オレゴン	田	五月三日	六月三日	一八九六	三四五〇	中	見將來ノ
二	十條×フロ	田	五月三	六月三	二二〇五	三四七〇	中	見將來ノ
三	十條×佛二六號	田	五月四	六月三	二二八三	三三八〇	上	見將來ノ
四	佛四號×赤小麥	田	五月三	六月四	二二六〇	三五六〇	中	見將來ノ
九	白小麥×白姫	田	五月三	六月五	二二七〇	三五七〇	上	見將來ノ
二八	二八十條×佛二六號	田	五月五	六月五	二〇一一	三三五〇	上	見將來ノ

二六	四一五	四二五	二	二四	二二〇	二	三二八	九八一〇	二九七五
三三	四一九	三六八	四	二七	三〇三	一五	三〇三	九一八〇	三〇〇五
三五	四二六	四八〇	六	三〇	二九〇	一六	二九〇	九〇二〇	三〇九五
三七	四二六	四三〇	六	二九	三〇〇	一五	三〇〇	九四三〇	二七七〇
四一	四二七	四四〇	六	三三	三〇九	一六	三〇九	一〇五七〇	三〇二〇
四二	四二三	三八〇	六	二八	二八〇	一五	二八〇	九〇〇〇	二八九五
四四	四二四	四四五	六	二四	二〇〇	一五	三二二	九九〇〇	二八八〇
四六	四二七	四四〇	六	二九	二二〇	一六	三二二	九一七〇	二九一五

右ノ成績ニ據リ二、一七乙一九號ノ三種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ

(二) ゴールデンメロン×備前早生 (試験三區 固定二區)

番號	出穂月日	稈長	分蘗	穂條列	穂長	芒長	粒一條列數	穀二歩容歩ノ量	全重量	一升重
四一	四月三日	三六五	二	六	二二	三三	九粒	三二六	九〇三〇	二九七五
四二	四月九日	三九五	九	六	一五	三五	一五粒	二四〇	七三三〇	三二三五

右ノ成績ニ據リ四一號ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ

(三) ゴールデンメロン×半芒 (試験一區 固定一區)

番號	出穂月日	稈長	分蘗	穂條列	穂長	芒長	粒一條列數	穀二歩容歩ノ量	全重量	一升重
一五	四月十日	三九〇	六	二	六分	一八分	一七粒	二二九	七六〇	三三八〇

尙ホ次年ノ繼續試験ニ供スルコト、セリ

(四) ゴールデンメロン×珍好 (試験五區 固定四區)

番號	出穂月日	稈長	分蘗	穂條列	穂長	芒長	粒一條列數	穀二歩容歩ノ量	全重量	一升重
三	四月九日	四七〇	一	六	二五分	四分	一四粒	三〇一	八五〇〇	二七九〇
二四	四月三	四〇〇	九	六	一八	一八	一五	三二七	九三六〇	二九四〇
四〇	四月七	四〇二	六	六	一八	一六五	一八	三〇三	一〇七一〇	三〇一五
四五	四月三	四三〇	二	六	一三	一八	一四	三二九	九五七〇	二八八〇

以上ノ成績ニ據リ二四、四〇、四五號ノ三種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ

(五) ゴールデンメロン×關取 (試験二區 固定二區)

番號	出穂月日	稈長	分蘗	穂條列	穂長	芒長	粒一條列數	穀二歩容歩ノ量	全重量	一升重
二九	四月九日	三六六	八	二	一七五分	二四分	一七粒	二二七	六五四〇	二九八五
四八	四月九日	三八〇	二	六	一九〇	一八〇	一七粒	二八二	九〇一〇	三〇六五

以上ノ成績ニ據リ二種トモ尙ホ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ

(六) 珍好×半芒 (試験一七區 固定一三區)

番號	出穂月日	稈長	分蘗	穂條列	穂長	芒長	粒一條列數	穀二歩容歩ノ量	全重量	一升重
----	------	----	----	-----	----	----	-------	---------	-----	-----

番 號	出穂月日	稈 長	分 蘖	穂 條 列	穂 長	芒 長	粒 一 條 列 數	穀 容 步 量	全 重 量	一 升 重
一	四月三日	三八八	二二	六	一五	二二	一〇	三二四	九八〇	三〇〇
二	四月三日	四一六	二二	六	二〇	三五	一〇	三二七	九六七〇	二九三
三	四月四日	四一〇	二二	六	一五	三〇	一〇	三二〇	九六四〇	二九四
四	四月四日	四〇二	二二	六	一五	三〇	一〇	三二〇	九六四〇	二九四
五	四月四日	四〇二	二二	六	一五	三〇	一〇	三二〇	九六四〇	二九四
六	四月四日	三九〇	二二	六	一四	二九	一〇	三二〇	九六四〇	二九四
七	四月五日	四〇二	二二	六	一五	三〇	一〇	三二〇	九六四〇	二九四
八	四月五日	三九〇	二二	六	一四	二九	一〇	三二〇	九六四〇	二九四
九	四月五日	三九〇	二二	六	一四	二九	一〇	三二〇	九六四〇	二九四
一〇	四月五日	三九〇	二二	六	一四	二九	一〇	三二〇	九六四〇	二九四

以上ノ成績ニ據リ六、七、九號ノ三種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ

(二) 竹林 × 白麥 乙 (試験一區區)

以上ノ成績ニ依リ一、四、六、七號ノ四種ヲ選擇シテ次年ノ試験ニ供スルコト、セリ

(三) 雜種 第一代

品 種 名 稱	長 分	蘖 穂 條 列	穂 長	芒	長 一 列 粒 數
白麥 × 五畝四石	三三〇	二	二	六	三
白麥 × 原町	三五〇	二	二	六	三
白麥 × 備前早生	三四〇	二	二	六	三
白麥 × 豐年	三三〇	二	二	六	三
白麥 × 虎ノ尾	三三〇	二	二	六	三
白麥 × 竹林	三三〇	二	二	六	三
白麥 × 改良大麥	三四〇	二	二	六	三
白麥 × 水晶	三三〇	二	二	六	三
白麥 × 半芒	二九〇	二	二	六	三

第二代ニ於テ分離ノ狀況ヲ調査シ新種ヲ育成セントス

一三、燕麥品種試験

明治四十二年來ノ繼續ニシテ十品種ニ就キ其ノ性状、收量、品質等ノ優劣ヲ比較シ以テ良種ヲ選定セントス
ルモノニシテ肥料ハ反當堆肥百貫過磷酸五貫ヲ元肥トシテ給スルノミニシテ十一月四日播種シ三月下旬迄ニ
二回ノ中耕及ヒ踏壓ヲ行ヘリ其ノ成績左ノ如シ

品名	出穂	成	熟	稈	反當	
					大正五年	前年平均
オーケット、オート	五月二日	七月三日	六〇	二四五	6	一七〇三
クライデス、デール	五月二日	七月三日	六〇五	四〇五五	7	三四九三
オレゴ	五月二日	七月三日	五七五	三六一〇	6	三三六三
ダニツシ、アイランド	五月二日	七月四日	五八〇	三六九〇	6	三二八五
カリホルニア	五月二日	七月三日	五五〇	四〇一五	7	三六二〇
グアーシニア、ウキンター	五月二日	七月三日	五五〇	四四四五	6	三六二三
ゴールデン	五月二日	七月三日	五六〇	三八七〇	7	三八六一
ホワイト、チャンピオン	五月二日	七月三日	五三〇	三七〇五	7	三五七五
ビクトリア、ブライス	五月二日	七月三日	五三〇	四〇九〇	7	三八二六
アメリカン、ビュート	五月二日	七月三日	五六五	四二四〇	7	三九八二
備考 「オーケット、オート」ハ裸麥ナリ						
前表ニ示スカ如ク「アメリカン、ビュート」、「ビクトリア、ブライス」及ヒ「ゴールデン」ハ收量多ク優良種ニ屬ス						
						四、〇〇二

第六 依托試驗

一、藥用人參栽培試驗

前年ヨリ利根郡農會ニ依托シ繼續試作ヲ爲シ明年ニ至リ收穫ノ上其成績ヲ調査スヘシ

二、淡水養魚試驗

淡水養魚ニ付前年ニ付キ前年ニ繼續シ前橋市大島卷太郎ニ依託シ本年ハ全一ノ池ニ就キ鰻鯉三種ヲ放養シ試驗ヲ行ヘリ

(イ) 鰻
鰻兒ハ遠隔地へ輸送スルハ極メテ困難ニシテ未タ實行セシモノナカリシカ本年水産講習所ト連絡試驗ヲナセシニ其成績極メテ良好ナリ其大要ヲ左ニ記サン

一、大正五年四月十八日午後一時三十分上野發汽車ニテ獨逸式運搬器ニ收容セルおぼこヲ客車便ニテ發送全日午後五時七分前橋驛ニ着セリ前橋驛ヨリ放養池迄ハ約五町ニシテ午後六時十分池ニ放養セリ放養池ハ六十坪ニシテ放養時ノ水温ハ攝氏十六度ナリ而シテ運搬中ノ水質ハ食塩〇、五八%ヲ含有セリ

運搬總數 二百五十六尾
内 生存數 二百二十九尾 死亡數 二十七尾
即チ運搬中ノ死亡數ハ一割〇五厘ニ過キス
一、以上ノ如ク四月十八日放養十月十八日捕獲セシニ生長ノ程度左ノ如シ

區別	放		捕		獲		周	時
	体	長	体	長	体	高		
大	1.15	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
中	1.15	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
小	1.00	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07

生長ノ狀況ハ前表ノ如クナレトモ經濟的關係ニ至リテハ未ダ一ケ年ノ試験ナルヲ以テ十分ノ成績ヲ掲クル能ハス尙ホ次年ノ試験ヲ俟テ確ムヘシ

鰻放養池ト全一池ニ鰻兒ヲ七月八日放養シ十月十八日捕獲セリ其ノ生長ノ程度左ノ如シ

區別	放養時		捕獲時	
	長	體量	長	體量
大	一・三	二・六五	一・五〇	一・四〇
中	一・〇	三・〇	一・三〇	一・一五
小	一・〇七	一・八〇	一・一五	一・〇五

三、寒天製造試験

寒天製造ハ前年來ノ試験ニヨリ農家ノ副業トシテ適スルヲ確メ碓氷郡臼井町大字横川寒天製造組合ニ依託シテ製造ヲ行ヘリ其ノ成績左ノ如シ

一、寒天製造ニ使用シタル海藻

伊豆産晒 二百四十貫 相房産晒 三百八十貫 ヲ晒 四百四十貫 馬足晒 三十貫

計 一千九十貫

一、寒天製造日數 大正五年十二月二十六日ヨリ大正六年二月二十三日迄六十日間

一、寒天製造高 細寒天 四百十六貫 角寒天 製造セス

四、蘭栽培試験

邑樂郡農會ニ委託セシ蘭草栽培試験成績左ノ如シ

一、位置 反別 擔當人

館林町大字館林字城沼二千七百番	四〇	石川九五郎
赤羽村大字赤生田字中島	一五	鹽田吉郎次
郷谷村大字四ッ谷字村東	三〇	坂村甚八
全 村大字當郷字白毛	三〇	宇治川重佐

一、耕種方法

刈取	除草	灌漑	植付	整地	担当者
七月十六日刈取即日乾燥ス	第二第三補肥ニ先チ施行セリ	植付當時ヨリ節分迄深水トシ 爾後淺水トシ第三回補肥即チ 最初ノ施肥後水ヲ排除ス	十二月二十八日株間畦行共ニ 五寸一坪ニ付百四十四株ノ割 合ニ植付一株ノ本數五六本	水稻栽培ノ整地ト全様ノ方法 ニヨリ十二月二十五日勸起シ 原肥ヲ施シ丁寧ニ整地ス	石川九五郎
七月七日刈取即日乾燥ス	全 上	全 上	全 上	水稻栽培ノ整地ト全様ノ方法 ニヨリ十二月二十七日原肥ヲ 施シ整地ス	鹽田吉郎次
七月二十八日刈取二十八日二 十九日ノ兩日乾燥ス	全 上	植付當時ヨリ四月二十日迄深 水トシ五月十五日ヨリ二寸トシ	十二月二十五日株間畦行共ニ 五寸一坪ノ本數五十六本宛 付一株ノ本數五十六本トス	水稻栽培ノ整地ト全様ノ方法 ニヨリ十二月二十五日原肥ヲ 施シ整地ス	坂村甚八
七月二十五日刈取即日乾燥ス	全 上	全 上	十二月二十九日株間畦行共ニ 五寸一坪百四十四株ノ割合ニ植 付一株ノ本數五六本トス	十二月二十八日耕起シ水ヲ注 キ原肥ヲ施シ整地ス	宇治川重佐

染土法
 染土ハ栃木縣栃木町産出ノサ
 粉末トシ之ヲ刈取リタルモノ
 ニ撒布シツ、之ヲ柔ミ乾燥ニ
 附ス

肥料	元肥	補第一肥	補第二肥	補第三肥	元肥	補第一肥	補第二肥	補第三肥	原肥	補第一肥	補第二肥	補第三肥	原肥	補第一肥	補第二肥	補第三肥
堆肥	八〇〇〇〇				三〇〇〇				二五〇〇				六〇〇〇			
人糞尿	九〇〇〇				一〇〇〇〇				一七〇〇〇				九〇〇〇			
大豆粕	一三〇〇	一六〇〇			六〇〇				三〇〇〇				一〇〇〇			
過磷酸					六〇〇				三〇〇				一〇〇〇			
木灰					三〇〇				六〇〇				三〇〇			
硫酸加里					七〇〇				六〇〇				三〇〇			
硫酸アンモ									六〇〇				三〇〇			
大豆									六〇〇				三〇〇			

蘭草栽培跡作成蹟

整地	刈取跡地ハ直チニ雜草ヲ定メテ踏込ミ鋤起セス整地ス	石川九五郎	鹽田吉郎次	坂村甚八	宇治川重佐
植付	イ、毎年植付スル時期育五日	イ、六月一日	イ、六月一日	イ、六月十八日	イ、六月二十七日
付	イ、七月十七日	イ、七月九日	イ、七月十八日	イ、七月十八日	イ、七月二十五日

肥料	イ、毎年施肥量五圓乃至六圓	イ、無肥料	イ、無肥料	イ、六圓五十錢
植付迄苗ノ處理	苗ヲ本田ニ密植シ置キ刈取後直チニ定植ス	苗代ニ植付迄置キ別假植セス	苗代ニ植付迄置キ別假植セス	苗ヲ本田ニ密植シ置キ刈取後直チニ定植ス
植付ノ株數	一坪六十株一株五六本植	全上	全上	全上
收穫期	イ、普通作ノ場合十月十日	イ、十一月五日	イ、十一月十日	イ、十月二十日
收穫量	イ、普通作始ノ場合一石六斗	イ、一石四斗	イ、一石六斗	イ、一石四斗
品質ノ良否	イ、普通作	イ、良	イ、良	イ、稍良
植付後ニ於ケル手入方法	七月三十日及八月十日ノ二回除草ヲ行フ	全上	全上	全上

五、水稻純系淘汰試驗

利根、吾妻郡ノ如キ山間地方ニ於テハ氣温低ク稻ノ生育期間短キ故普通平坦地方ニ栽培スル水稻ヲ栽培スルトキハ十分ニ登熟セサル虞レアルモノナリ從テ當場ノ如キ平坦部ノ試驗地ニテ山間地方ニ適スル良品種ヲ選擇スルハ困難ナルヲ以テ特ニ利根郡農會ニ委託シ水稻純系淘汰試驗ノ第二年ヲ行ヒ山間地方ニ適スル良品種ヲ選擇セントス其ノ耕種梗概ハ大略本場ニ準セリ其成績左ノ如シ

- 一、播種期 五月二日
- 一、插秧期 六月十二日

一、供種品種 八種ニシテ一種二十區、一區二坪宛ニシテ畦間一尺、株間六寸(一坪六十株)ノ一本植ヲ

行ヘリ

(一) 明治坊主

區號	出穂月日	長		株		莖		穂	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
一	八月三日	三、九〇七	一、七五九	八、九二四	二、二三五	二、七七四	一、一〇二		
二	八月四日	四、一六八	一、五五四	八、九三五	一、八五八	二、九七九	一、〇二二		
三	八月二日	三、八三七	一、六二四	八、五七一	一、八九九	二、七二五	九、〇三三		
四	八月四日	三、八五五	一、三二二	七、六六七	二、二三二	—	—		
五	八月二日	三、七四五	一、七四七	七、六八〇	二、二四八	二、三、四七	一、一八七五		
六	八月二日	三、八七四	一、六〇四	七、五五三	一、八〇一	二、二六七	八、二四		
七	八月四日	三、九四〇	一、五五四	七、九一八	二、〇二八	二、三九六	六、五六		
八	八月五日	三、八四八	二、三三五	七、三九二	二、三三八	二、二一八	一、〇三三		
九	八月五日	三、七二四	一、二〇一	七、八六三	一、九〇九	二、三二六	七、四九		
一〇	八月五日	三、七二七	一、五七八	七、九三六	二、四七九	二、三、四〇	八、八八		
一一	八月三	三、七五七	一、八九二	七、〇八五	二、三五二	二、三九二	一、〇一九		
一二	八月三	三、八〇九	一、六〇〇	七、九七九	二、五八八	二、三八三	九、四七		
一三	八月二	三、八五九	一、二四三	八、八八五	二、一九八	二、二八八	九、五一		

以上ノ成績ニ據リ一、二、六、九、一六號ノ五種ヲ選擇シ第三年ノ試験ニ供スルコト、セリ

(二) 坊主二本三

區號	出穂月日	長		株		莖		穂	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
一	八月八日	三、二六四	一、五二四	二、〇七五	三、二六七	二、三〇〇	二、一三五		
二	八月九日	三、三〇四	一、三〇一	二、五六三	二、四三二	二、六〇四	九、三八		
三	八月八日	三、二八九	一、二七二	二、三四四	二、九六三	二、四、一三	八、二八		
四	八月八日	三、二八七	一、八八〇	二、五二〇	二、六五八	二、三、四六	九、九七		
五	八月九日	三、二八一	一、二五四	二、九五六	二、九七一	二、二、四〇	八、三三		
六	八月〇日	三、二四三	一、二六四	三、一一二	三、五二九	二、〇、二二	六、九三		
七	八月九日	三、二九六	一、二六八	三、〇二七	三、〇三〇	一、八、六五	七、〇七		

(四) 陣場

區號	出穂月日	稈		株均	莖數		株均	穂量	
		平均	標準偏差		平均	標準偏差		平均	標準偏差
一	八月一日	四〇三五六	一、三八四	九、〇五八	二、六一五	二、三三三	八、四三		
二	八月二日	四、〇九七九	一、四二二	九、〇八一	二、四五六	二、三九六	九、七三		
三	八月三日	四、〇三九六	一、六一一	七、一四三	二、一〇九	二、二八四	八、七三		
四	八月四日	四、一八四〇	一、七五四	六、八八〇	二、二二三	二、二〇三	九、五二		
五	八月五日	四、一五一九	一、七七一	八、〇〇〇	二、七〇一	二、二七三	一、〇四		
六	八月六日	四、〇八九六	二、一〇〇	九、三九六	三、二六七	二、四二九	一、〇一〇		
七	八月七日	三、九八四四	一、九八八	九、九五五	三、一八八	一、六六〇	八、八一		
八	八月八日	四、三二一一	一、五三八	七、四三三	二、六五六	二、三三九	一、〇二五		
九	八月九日	四、〇七三八	一、八〇〇	八、〇〇〇	三、一七七	二、三九	一、〇七三		
〇	八月十日	四、〇六五六	一、九七九	八、一七	二、八五	二、三六五	一、〇二八		
一	八月十一日	三、九八七三	二、三三	九、〇〇〇	三、〇二六	二、〇一六	八、五八		
二	八月十二日	四、一三〇四	一、六二三	七、九三〇	二、八五八	二、五九六	一、〇七三		
三	八月十三日	四、〇七五三	一、二〇七	九、二四二	三、一五九	二、三六二	八、五五		
四	八月十四日	四、二三三三	一、五六七	七、七七四	二、三〇九	二、三七五	九、二七		
五	八月十五日	四、二二七五	一、八二三	九、四八四	二、四九三	二、二五〇	八、二		
六	八月十六日	四、一四七一	一、四一八	七、四〇〇	一、六〇六	二、三七〇	六、三		

以上ノ成績ニ據リ、六、一二、一六、一九號ノ五種ヲ選擇シ第三年ノ試験ニ供スルコ、セリ

(五) 雲雀

區號	出穂月日	稈		株均	莖數		株均	穂重	
		平均	標準偏差		平均	標準偏差		平均	標準偏差
一	八月七日	四、三〇四三	一、六八〇	八、二六一	二、七九三	二、八四八	一、〇八二		
二	八月八日	四、二五〇	一、二九五	八、四六三	二、七三四	二、五二二	一、〇一五		
三	八月八日	四、二八三	一、五七二	七、九三九	二、五六八	二、〇〇〇	八、六三		
四	八月八日	四、〇六七	一、四四	九、二〇〇	三、〇二九	二、五四五	一、〇、九六		
五	八月八日	四、二四七一	一、六一二	八、〇七七	三、〇七五	二、三六〇	一一、二三		
六	八月八日	四、二七三	一、五〇五	八、五四五	二、六五八	二、四七七	九、六四		
七	八月九日	四、二八二	一、三三七	八、四四二	三、二二〇	二、二四〇	九、五四		
八	八月九日	四、四七八	一、四〇八	七、九三五	二、三六二	二、二三〇	八、七三		
九	八月九日	四、一六五四	二、二二六	八、三〇八	二、六五四	二、六〇八	一〇、八六		
〇	八月八日	四、八二八	一、八九四	八、三七九	二、九〇八	二、三二二	八、九二		

區號	出穂月日	稈		株		平	均	標準偏差
		均	標準偏差	均	標準偏差			
一	八、八	四、二八六	一、七九	八、五六一	二、九六二	二、三八〇	一〇、七九	
二	八、八	四、一六〇	一、三七四	九、二六〇	二、七三三	二、四五一	九、三五	
三	八、八	四、一八一	一、五二	九、六九一	三、四三九	二、四一五	九、八七	
四	八、八	四、三〇六	一、九三	九、四一九	二、四三三	二、二六一	六、七六	
五	八、八	四、二七二	一、五三八	八、六八五	三、三三	二、二五九	八、七七	
六	八、七	四、二〇五	一、六九	七、五五四	二、三三	二、二四〇	九、七〇	
七	八、七	四、二九一	一、六九三	九、三九〇	二、二二	二、三九〇	九、九一	
八	八、九	四、四〇三	一、八四三	八、〇〇〇	二、四九九	二、四八三	九、二二	
九	八、六	四、四二七	一、七四	八、〇一八	二、二二	二、三六七	七、九四	
一〇	八、七	四、四三七	二、〇六	六、四二六	一、七四一	二、二五八	九、〇五	

以上ノ成績ニ據リ、四、八、九、一九號ノ五種ヲ選擇シテ第三年ノ試験ニ供セリ

(六) 白毛

區號	出穂月日	稈		株		平	均	標準偏差
		均	標準偏差	均	標準偏差			
一	八、三	三、五八〇	一、四一五	六、八二〇	一、九四六	三、三〇五	七、七六	
二	八、三	三、七八四	一、五四九	六、七二〇	二、二六	二、六八九	八、二	
三	八、三	三、五七〇	一、三九八	六、三四六	一、七六三	三、三六一	六、〇七	
四	八、三	三、五三六	二、三五三	五、九四二	一、九六五	一、八八七	七、〇四	

區號	出穂月日	稈		株		平	均	標準偏差
		均	標準偏差	均	標準偏差			
一	八、三	三、六一九	二、二八四	六、六八七	二、〇四二	三、三八〇	八、九五	
二	八、四	三、五九〇	一、七六一	六、五八五	一、六〇四	二、〇三二	六、二九	
三	八、三	三、五四八	二、〇八〇	六、七二二	一、七三	一九、一六	五、八四	
四	八、三	三、五四八〇	一、四四五	六、六五三	一、九五四	一九、一五	七、四三	
五	八、三	三、四六二	一、六七八	六、六八三	二、一〇一	一七、九五	五、八四	
六	八、三	三、六六二	三、五五一	六、五六七	二、五〇五	一九、六八	一〇、三四	
七	八、九	三、七六四	二、六二四	六、四七八	一、九四二	二二、五二	八、二七	
八	八、〇	三、八六二	一、七二	七、〇三二	一、九八八	二七、三二	八、二〇	
九	八、九	三、九六二	二、一〇九	七、一九七	一、八二七	二二、八九	九、八五	
一〇	八、〇	三、九五二	二、六九二	六、八〇二	二、五九七	二二、七〇	一〇、四四	
一一	八、〇	三、七四一	二、五二五	六、二五〇	二、五〇六	二二、七一	八、九九	
一二	八、七	三、七八三	二、〇〇六	六、五二五	二、一六三	二二、四三	八、一	
一三	八、七	三、七七三	二、三六六	六、九八九	二、二二九	二二、九〇	八、六五	
一四	八、三	三、五〇九五	二、〇九八	五、二二五	一、五五九	一七、七六	五、八八	
一五	八、三	三、五〇九	二、五二四	五、八九九	一、三四一	一八、〇七	六、六三	
一六	八、三	三、六四九	二、〇九八	六、二八八	一、七七五	二〇、六六	六、一四	

以上ノ成績ニ據リ、三、二、一、二、二〇號ノ五種ヲ選擇シテ第三年ノ試験ニ供スルコト、セリ

(七) 越後早生

區 號	出 穂 月 日	平 稈		長	平 一 株		標 莖 數	平 一 株		標 穂 重
		均	標準偏差		均	標準偏差		均	標準偏差	
一	八月三	四,一〇四	二,一九四	七,八六〇	二,四六六	二,六二	二,四六六	二,六二	一,七六	
二	八月四	四,二二三	一,七七七	七,五三二	二,四五〇	二,四七	二,四五〇	二,四七	八,一三	
三	八月〇	四,〇〇〇	一,九六一	九,二二八	三,四七	二,一〇七	三,四七	二,一〇七	一〇,一九	
四	八月五	四,八四三	二,三三二	六,七〇四	二,二〇七	二,三二四	二,二〇七	二,三二四	五,三九	
五	八月二	四,五〇〇	一,五五七	七,二二五	二,二〇二	二,二二四	二,二〇二	二,二二四	九,三三	
六	八月三	四,四八七	一,五五七	七,二二五	二,二〇二	二,二二四	二,二〇二	二,二二四	七,一九	
七	八月二	四,四四六	一,九四九	七,〇〇〇	二,五六九	二,五六九	二,五六九	二,五六九	一一,二四	
八	八月三	四,四三〇	一,七九八	七,七〇六	二,四八一	二,四八一	二,四八一	二,四八一	九,五八	
九	八月八	四,四三三	一,七六七	八,〇九五	二,七九	二,七九	二,七九	二,七九	一〇,四四	
〇	八月六	四,四八四	二,二七五	七,〇七九	二,五五三	二,五五三	二,五五三	二,五五三	九,七四	
一	八月三	四,〇五九	一,八六〇	八,六八一	三,〇三八	三,〇三八	三,〇三八	三,〇三八	九,七四	
二	八月三	四,二〇〇	一,五三二	八,〇九二	二,三七八	二,三七八	二,三七八	二,三七八	九,一〇	
三	八月〇	四,一〇九	一,九八二	八,四九三	三,四四八	三,四四八	三,四四八	三,四四八	八,七六	
四	八月三	四,一八九	一,七七〇	八,九〇〇	二,五〇一	二,五〇一	二,五〇一	二,五〇一	八,四六	
五	八月三	四,一六三	二,〇四三	七,四八五	二,四八八	二,四八八	二,四八八	二,四八八	八,〇五	
六	八月三	四,二〇四	一,八四五	八,八二二	二,一〇〇	二,一〇〇	二,一〇〇	二,一〇〇	五,五四	
七	八月五	四,一九三	二,〇〇一	八,二五〇	一,九〇三	一,九〇三	一,九〇三	一,九〇三	七,九四	
八	八月三	四,二五八	二,〇〇四	七,七八〇	二,三三九	二,三三九	二,三三九	二,三三九	六,三三	

以上ノ成績ニ據リ六、七、一四、一六、一七號ノ五種ヲ選擇シ第三年ノ試験ニ供スルコト、セリ
(八) 蒲原糯

區 號	出 穂 月 日	平 稈		長	平 一 株		標 莖 數	平 一 株		標 穂 重
		均	標準偏差		均	標準偏差		均	標準偏差	
一	八月二	四,四一五	一,四八九	五,四九	二,二五二	二,二五二	二,二五二	二,二五二	一一,三八	
二	八月三	四,四一七	一,九三九	五,四四三	二,三三九	二,三三九	二,三三九	二,三三九	七,四三	
三	八月八	四,二九四	一,五二九	五,五〇八	二,二一八	二,二一八	二,二一八	二,二一八	七,四三	
四	八月三	四,三九三	一,八〇九	五,八六七	一,九六一	一,九六一	一,九六一	一,九六一	七,四六	
五	八月四	四,二七七	一,六四五	五,五〇〇	二,三〇六	二,三〇六	二,三〇六	二,三〇六	一一,一四	
六	八月二	四,一八四	二,四三三	五,九六六	二,二六三	二,二六三	二,二六三	二,二六三	九,三三	
七	八月四	四,二六八	一,六四三	六,〇六八	二,四六三	二,四六三	二,四六三	二,四六三	一一,四七	
八	八月〇	四,三三三	一,四二二	五,四六六	二,一八四	二,一八四	二,一八四	二,一八四	一〇,一七	
九	八月三	四,二九四	二,八四七	五,四二六	二,〇三六	二,〇三六	二,〇三六	二,〇三六	一一,三六	
〇	八月三	四,二九四	二,八四七	五,四二六	二,〇三六	二,〇三六	二,〇三六	二,〇三六	九,六九	
一	八月〇	四,三〇六	二,二九八	五,四八〇	一,八五七	一,八五七	一,八五七	一,八五七	八,〇六	

三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
八二	八二	八三	八二	八三	八二	八三	八二	八三	八二
四三三	四〇九	四二二	四三三	四二二	四三三	四二二	四三三	四二二	四三三
一六四	三九五	一六三	二〇九	一七四	一九一	一四九	一八五	一五六	一八七
五八三	五五〇	五二七	六二二	五三九	六四三	五二九	六五三	五五八	六二七
一八七	二〇八	一七四	二七五	一九七	一八四	二三三	二五八	二五八	二八七
三三	二九四	二〇六	二四五	二四五	二五八	二二九	二五〇	二五〇	三二一
九三	一一七	八七	一〇七	一〇七	九〇	一一〇	一一七	一一七	九三

以上ノ成績ニ據リ一二、一五、一七、一八、二〇號ノ五種ヲ選擇シ第三年ノ試験ニ供スルコト、セリ

第七、桑 樹

一、春秋兩用種類試驗
 本試驗ハ春秋兩蠶期兼用桑樹ヲ仕立ツルニ如何ナル品種最適良ナルヤヲ知ラントスル目的ヲ以テ行ヒタルモ
 ノニシテ明治四十五年ノ各地生産ノ桑樹二十二種ヲ栽植シ大正三年ヨリ試験ニ着手セリ本年及三ヶ年平均ノ
 成績ヲ示セハ左ノ如シ
 一、春蠶期成績

品種名	發芽早晚	發芽期	開葉期	八十八夜 全長芽 葉數	一條 株數	全枝 長條一尺間 數	總量	新梢付 葉量	葉量	古條量	消耗量
露國野桑	中	四一七	四一九	一〇	一七	一	五二四〇八〇	二五九、三五三	一七九、二〇八	二四九、三三九	五、三九八
清國野桑	中	四一八	四二〇	一六	一八	一	四四四、九六〇	一八五、五四八	一一一、三三九	二四三、六二六	一、五七九
甘樂桑	中	四一六	四一八	二〇	九	一	四三三、三六〇	二二八、四五四	一七三、五七九	二〇一、〇九六	三、八一〇
荆桑	中	四一七	四一九	二六	二二	一	五五二、九六〇	二五二、一五〇	一八四、〇七〇	二九八、五九八	二、二二二
伊達赤木	中	四二三	四二五	二二	一七	一	四三三、〇〇〇	二〇五、八四八	一五六、四四四	二二、四八〇	三、六七二
榮治	早	四一七	四二〇	三〇	一〇	一	五五二、九六〇	二六六、八〇四	一九四、七六六	二八三、三九一	二、七六五
長沼	中	四一九	四二二	一七	一四	一	四八八、一六〇	二七二、三九三	二〇九、七四三	二一三、五七〇	二、一九七
護東	晚	四二三	四二五	二二	一四	一	四三六、三二〇	二二二、八三三	一五五、三四六	二〇〇、七〇七	一、一七一
阪東	晚	四二三	四二五	一七	一四	一	三八〇、一六〇	二〇一、一〇五	一三六、四一	一四、五六〇	三、六四五
高助	晚	四二三	四二五	二二	九	一	四四四、九六〇	二二六、七〇七	一七六、八三一	二二六、九一八	一、三三五
丸桑	晚	四二二	四二四	二二	九	一	四四六、五六〇	二四二、二二	一三〇、二五四	二二五、七八四	九、五六四
大和	早	四二二	四二四	二七	一四	一	四六六、五六〇	二四四、七七	一八五、八〇二	一九五、九五六	二、二二七
奧州大葉	晚	四一八	四二〇	二八	一〇	一	五〇九、七六〇	二六七、一四	二〇三、〇〇七	二二二、二二五	九、四三二
大達	晚	四一九	四二二	二八	一〇	一	四三三、〇〇〇	二二六、八〇〇	一六二、〇一八	二〇一、九六〇	三、二四〇
柳田	中	四一七	四二〇	三〇	一三	一	六二七、七六〇	二九七、七六〇	二二〇、三四二	二九三、四三六	二、六五四
布切	晚	四二二	四二四	二〇	一三	一	二九八、〇八〇	一四八、一四六	一一三、五九一	二二五、一九四	二、四七四
落井	中	四二三	四二五	二〇	一四	一	四一〇、四〇〇	二二五、三二〇	一七五、七四二	一六二、一〇八	二、九八二
金色蕉	中	四一九	四二二	三〇	一四	一	五五五、六八〇	二五五、九六四	二二三、五三三	二二四、九八六	二、九七三

本年春蠶期ニ於ケル成績ハ總量ニ於テ最多キハ柳田ニシテ荆桑、榮治、金芭蕉、露國野桑、奥州大葉等之ニ順次シ布切最少ク葉量ニ於テモ柳田首位ヲ占メ金色蕉、長沼、奥州大葉等之ニ次キ布切又最下位ニアリ

二、春蠶期收穫三ヶ年平均成績

品名	總量		新梢付葉量		葉量	
	前二ヶ年平均	大正五年	前二ヶ年平均	大正五年	前二ヶ年平均	大正五年
露國野桑	五二一、一六〇	五二四、〇八〇	二二二、七〇九	二二九、三三三	一七一、九二二	一七九、一〇八
清國野桑	三八五、五六〇	四四四、九六〇	一四二、四八二	一八五、五四八	九七、三三八	一一一、三三九
甘樂桑	三七五、三〇〇	四三三、三六〇	一九六、四六四	二二八、四五四	一五〇、一〇六	一七二、五七九
荆桑	四〇二、八三〇	五五二、九六〇	一七六、四三九	二五二、一五〇	二四、五二九	一八四、〇七〇
伊達赤木	三五八、五六〇	四三三、〇〇〇	一八六、七二三	二〇五、八四八	一三三、七七一	一五六、四四四
榮治	四七六、二八〇	五五二、九六〇	二三五、五五四	二六六、八〇四	一六八、八四四	一九四、七六六
長沼	四三八、四八〇	四八八、一六〇	二四六、八八五	二七二、三九三	一九五、〇五七	二〇九、七四三
讓東葉	三六三、九六〇	四三六、三三〇	二〇二、四九一	二二三、八三三	二九、九六三	二二五、三四六
高助	四三三、四〇〇	四四四、九六〇	二二〇、九五二	二二六、七〇七	一五七、六三九	一七六、八三二
九葉	三六六、一一〇	四六六、五六〇	一九九、六〇〇	二四一、二二二	一三〇、六一九	一三〇、七五四
大和	三〇一、三三〇	四六六、五六〇	一六二、二七三	二四四、四七七	二四、二五一	一八五、八〇二
奥州大葉	三七八、〇〇〇	五〇九、七六〇	一九〇、二九六	二六七、一一四	一四三、六三三	二〇三、〇〇七
大達	七九七、三三〇	四三三、〇〇〇	二〇五、四五七	二二六、八〇〇	一四五、二八八	一六一、〇二八

品名	總量		新梢付葉量		葉量	
	前二ヶ年平均	大正五年	前二ヶ年平均	大正五年	前二ヶ年平均	大正五年
柳田	三五九、六四〇	六二七、七六〇	四四五、六八〇	一七六、一九七	二九七、七六〇	二八〇、五二一
布切	二二七、六〇〇	二九八、〇八〇	二五七、七六〇	一〇五、九七〇	一四八、一四六	二〇〇、二一九
落井	二九二、六八〇	四一〇、四〇〇	三三二、九二〇	一五六、七五八	二三五、三二〇	一七九、六〇九
金色蕉	四四八、二〇〇	五三五六八〇	四七七、三六〇	二五九、一六五	二六〇、九六四	二六六、四三二

三ヶ年平均ニ依レハ總量最多キハ大達ニシテ露國野桑ハ之ニ次キ榮治、金芭蕉、長沼、荆桑又多ク葉量ニアリテハ金芭蕉最多ク長沼、榮治露國野桑等之ニ次キ清國野桑、讓東葉等最少キ成績ヲ示シタリ

三、秋蠶期收穫三ヶ年平均成績

品名	前二ヶ年平均		大正五年		平均	
	前二ヶ年平均	大正五年	前二ヶ年平均	大正五年	前二ヶ年平均	大正五年
露國野桑	二二九、四〇〇	一六、一〇〇	二二九、四〇〇	一六、一〇〇	二二九、四〇〇	一六、一〇〇
清國野桑	一六二、三六〇	七三、四四〇	一六二、三六〇	七三、四四〇	一六二、三六〇	七三、四四〇
甘樂桑	一三七、九六〇	一一、五〇〇	一三七、九六〇	一一、五〇〇	一三七、九六〇	一一、五〇〇
荆桑	一九六、五六〇	八六、四〇〇	一九六、五六〇	八六、四〇〇	一九六、五六〇	八六、四〇〇
伊達赤木	一八九、〇八〇	九六、二二〇	一八九、〇八〇	九六、二二〇	一八九、〇八〇	九六、二二〇
榮治	一八二、八八〇	九九、九〇〇	一八二、八八〇	九九、九〇〇	一八二、八八〇	九九、九〇〇
長沼	一〇一、二四〇	七八、三〇〇	一〇一、二四〇	七八、三〇〇	一〇一、二四〇	七八、三〇〇
讓東葉	七九、二〇〇	一〇一、〇六〇	七九、二〇〇	一〇一、〇六〇	七九、二〇〇	一〇一、〇六〇
奥州大葉	九八、二八〇	八三、七〇〇	九八、二八〇	八三、七〇〇	九八、二八〇	八三、七〇〇

品名	春蠶期收葉量	秋蠶期收葉量	合計
九葉和	108,000	91,800	101,500
八葉和	84,960	74,500	81,880
七葉和	105,663	110,700	107,333
六葉和	114,480	66,200	108,360
五葉和	99,720	77,300	92,300
四葉和	63,360	50,700	59,160
三葉和	33,120	101,500	115,920
二葉和	11,456	19,800	114,264

秋蠶期ニ於ケル收葉量ハ本年ニアリテハ露國野桑最多クシテ甘樂桑、荆桑、金芭蕉、奥州大葉等之ニ順位シ
布切最少ク三ヶ年ノ平均成績ニアリテモ亦露國野桑首位ニシテ甘樂桑之ニ次キ荆桑、榮治、長沼等又多ク布
切最下位ニアリキ

四 自大正三年至大正五年三ヶ年平均春秋兩蠶期收葉量成績

品名	春蠶期收葉量	秋蠶期收葉量	合計
露國野桑	174,983	233,600	388,583
清國野桑	101,928	131,700	234,628
甘樂桑	157,597	206,700	364,297
荆桑	14,376	171,500	315,916

品名	春蠶期收葉量	秋蠶期收葉量	合計
伊達赤木	141,995	94,127	126,123
榮治	177,471	164,700	141,131
長沼	199,952	155,200	135,172
讓東	218,424	94,160	122,684
阪東	21,792	86,800	115,612
高助	164,036	93,400	117,456
丸和	140,497	101,500	113,997
大和	147,768	81,480	116,248
奥達	163,411	107,342	117,073
大田	150,555	108,360	118,895
柳切	152,269	92,200	114,489
布井	149,993	59,160	109,153
落井	139,395	115,920	115,335
金芭蕉	101,100	114,264	116,464

試驗着手以來三ヶ年ニ於ケル春秋兩蠶期ノ收葉量ノ合計成績成立ヲ見ルニ露國野桑優位ヲ占メ奥州大葉、甘
樂桑、長沼、榮治等之ニ次テ多ク布切最モ劣リタル成績ヲ示シタリ

第八 氣象觀測

農作物ト氣候トノ關係調査ノ資ニ供センカ爲メ本場試驗田地ノ中央部ニ觀測所ヲ設ケ毎日午前八時午後八二

時全八時ノ三回ニ觀測ヲ行ヘリ大正五年中ノ氣象概要左ノ如シ
大正五年氣象表 其ノ一

月次	一月				二月				三月				月次	
	上旬	中旬	下旬	平均	上旬	中旬	下旬	平均	上旬	中旬	下旬	平均		
溫度	六二	四八	五五	五五	四六	三七	五五	四五	六六	四〇	七七	六四	九四	一三八
	最高	一〇三	一〇三	一〇三	八六	八六	八三	八八	一〇一	八四	八四	一〇三	一四〇	一四〇
最低	二九	〇八	一一	〇八	二七	一〇	〇七	〇七	〇八	〇六	〇二	〇四	三	六
	氣濕度	六三	五〇	五三	六三	五五	六五	六四	四六	六七	五三	五五	五五	六四
降水量	七	一	一	七	二六	一	二	三	九	二六	〇	〇	三	五
蒸發量	二八	三八	三九	三五	二七	三九	二七	三一	六七	二四	六〇	四九	六〇	五一
天氣	快晴	六	六	六	二	一	五	二	一	一	一	一	一	一
	晴日數	四	六	六	四	五	五	二	一	一	一	一	一	一
風向	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
	最多	一	一	一	四	一	一	一	二	二	二	二	二	二
強風以上ノ日	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

月次	四月				五月				六月				七月				八月				
	上旬	中旬	下旬	平均	上旬	中旬	下旬	平均	上旬	中旬	下旬	平均	上旬	中旬	下旬	平均	上旬	中旬	下旬	平均	
溫度	一五	一三	一一	一三	一六	一七	一九	一七	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	
	最高	一八	一七	一七	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
最低	九	七	六	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
	氣濕度	七一	六三	六三	七〇	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一
降水量	五	五	五	五	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
蒸發量	三一	四七	四八	四四	四八	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五
天氣	快晴	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	晴日數	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
風向	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
	最多	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
強風以上ノ日	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

月次	月				土壤温度	田	地	中	温	度	用水	田	水			
	四	三	二	一												
旬次	上	中	下	平	上	中	下	平	上	中	下	平	上	中	下	平
表面	10.4	7.7	4.9	4.9	5.4	4.0	4.9	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4
最低	2.0	1.9	2.7	2.7	2.2	2.2	2.7	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2
表面	10.9	6.3	4.0	4.0	5.6	4.0	5.3	4.1	5.2	4.1	5.2	4.1	5.2	4.1	5.2	4.1
一粉	1.7	7.2	5.0	5.0	5.2	3.8	5.0	5.7	3.8	5.2	3.8	5.2	3.8	5.2	3.8	5.2
二粉	8.9	7.2	5.0	5.0	5.7	4.1	5.2	4.5	5.7	4.5	5.7	4.5	5.7	4.5	5.7	4.5
一尺	9.1	6.3	5.3	5.3	6.4	5.5	5.9	6.0	5.1	6.4	5.5	5.9	6.0	5.1	6.4	5.5
二尺	9.1	7.4	7.0	7.0	8.0	7.7	8.3	7.9	8.0	7.9	8.0	7.9	8.0	7.9	8.0	7.9
三尺	9.4	8.9	8.7	8.7	10.3	9.5	10.4	9.8	10.3	9.8	10.3	9.8	10.3	9.8	10.3	9.8
用水																
田																
水深																

月次	月				土壤温度	田	地	中	温	度	用水	田	水			
	十二月	十一月	十月	九月												
旬次	上	中	下	平	上	中	下	平	上	中	下	平	上	中	下	平
表面	13.4	10.9	10.4	10.4	15.4	14.0	15.3	14.1	15.2	14.1	15.2	14.1	15.2	14.1	15.2	14.1
最低	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
表面	17.4	15.3	15.0	15.0	18.6	17.4	18.1	17.7	18.6	17.7	18.6	17.7	18.6	17.7	18.6	17.7
一粉	8.4	7.7	7.0	7.0	8.0	7.7	8.0	7.7	8.0	7.7	8.0	7.7	8.0	7.7	8.0	7.7
二粉	11.3	10.5	10.5	10.5	12.1	11.3	12.1	11.3	12.1	11.3	12.1	11.3	12.1	11.3	12.1	11.3
一尺	12.6	11.3	11.3	11.3	13.1	12.6	13.1	12.6	13.1	12.6	13.1	12.6	13.1	12.6	13.1	12.6
二尺	13.4	12.6	12.6	12.6	14.7	13.4	14.7	13.4	14.7	13.4	14.7	13.4	14.7	13.4	14.7	13.4
三尺	14.2	13.4	13.4	13.4	15.5	14.2	15.5	14.2	15.5	14.2	15.5	14.2	15.5	14.2	15.5	14.2
用水																
田																
水深																

大正五年氣象表

其ノ二

◎園藝部
第一、蔬菜

一、葱

耕種梗概

一、畦幅 二尺五寸

一、株間及本數

一、肥料

肥料名	追肥			三素	磷	酸	加分
	第一回	第二回	第三回				
堆肥	300,000			2190		1,500	1,500
木灰	11,000					0,174	0,958
人糞	60,000	60,000	60,000	2,224		0,972	0,468
計				4,344		2,446	2,926

一、播種 大正四年九月十四日
一、植付 五月二十六日

一、中耕及追肥

第一回 六月十九日 第二回 七月五日 第三回 八月二十四日

一、土寄 第一回 九月七日 第二回 十月六日

一、收穫 十二月二日

品種試驗

二種ニ付試驗セリ其成蹟左ノ如シ

品種名	大正五年	四年	三年	二年	元年	平均
千住	751,000	540,000	740,000	1,035,000	745,000	745,000
下仁田	490,000	310,000	456,000	510,000	410,000	491,100

右成蹟ニ依レハ收量ハ千住多ク品質ハ下仁田優レリ

二、薑

耕種梗概

一、種類 金時

一、畦幅 二尺

一、株間 八寸

一、種 薑 一株十五匁内外ニシテ二三芽ヲ附シタルモノヲ用フ

肥料名	追肥			三素成			加分量
	元肥	第一回	第二回	窒素	磷	酸	
堆肥	300,000			21,900		1,100	1,500
米糠	20,000			0,783		1,280	0,410
菜粕	10,000			0,547		0,153	0,150
木灰	11,000					0,274	0,958
人糞		90,000		1,061		0,486	0,134
計				45,622		3,493	3,262

一、植 付 四月二十三日
一、中 耕 第一回 六月二十日 第二回 七月十八日

一、追 肥 六月二十日
一、收 穫 十一月五日
一、收 量 六百六十貫

三、葱 頭

耕種梗概

一、畦 幅 一 尺

一、株 間 四寸乃至五寸

一、肥 料

肥料名	追肥				三素成			加分量
	元肥	第一回	第二回	第三回	窒素	磷	酸	
堆肥	250,000				18,500		1,000	1,500
強過燐	6,000						1,108	
木灰	6,000						0,137	0,479
人糞		90,000			4,248		1,944	0,936
計					6,073		4,289	2,665

一、整 地 圃地ハ耕起シテ土塊ヲ碎キ元肥ヲ全面ニ撒布シ能ク耕土ト混和シ均平セリ

一、播 種 大正四年九月二十日

一、播種法 一尺ノ距離ニ繩ニテ筋ヲ附シ之ヲ中心トシテ鍬ニテ壓シ少シク低クシ反當種子二升五合ノ割ニテ作線ノ兩側(鍬ノ及幅)條播シ種子ノ見エサル程度ニ篩又ハ手ニテ被土シ後麥稈ニテ覆ヲ施セリ

一、追肥 第一回 十二月二十五日 第二回 三月十八日 第三回 四月十八日
 第四回 五月九日

一、間引 三月十八日麥稈ヲ除キ四五寸ノ千鳥形一本立トナス

一、收穫 七月四日

品種試驗

三種ニ就キ試驗セリ其成績左ノ如シ

品名	反當收量
黃葱頭	一、四四〇、〇〇〇
丸葱頭	九二七、〇〇〇
赤葱頭	八一〇、〇〇〇

四、雜

耕種梗概

葱頭栽培ト同シ

反當收量 八五〇、〇〇〇

第二、果樹

内外各種ノ果樹ヲ栽植シ當地方ニ適スル良種ヲ選出シ是等ニ就テ適當ナル剪定、整枝、肥料等ヲ研究セントスルモノニシテ種類及品種左ノ如シ

一、日本梨 獨逸、長十郎、早生赤、太白、明月、世界一、巾着叩、晚三吉、赤龍、日ノ丸、二十世紀太平、今村秋、今村夏

二、西洋梨 ボンデゼー、キーフアー、ボレーテヂール、バレーデビンソ、ホワイトドアイアンヌ、ボレーアーヂー、バートレット、ウキンターネリス、ルイスボンドジェルシー、オノングガ、ラフランヌ、バツスグラツサン

三、桃 トライアンブ、アーリークロホード、天津水蜜、上海水蜜、アーリーリバース、金桃、銀桃、土用水蜜、離核水蜜、アムスデンジュン、蟠桃、ブリツクメー、アレキサダー、サルウエー、銀桃、アーリークロホード

四、蘋果 紅魁、紅玉、柳玉、祝、紅絞、倭錦、中畑、國光、日ノ本、セントローレンス、クーバース、アーリー、小錦

五、柿 堂上蜂屋、衣紋、核ナシ、身不知、大蜂屋、江戸一、禪寺丸、富有、天神御所

六、李類 寺田李、鹿兒島米桃、萬左衛門、市成李、西田李、黃巴丹杏、大統巴丹杏

七、梅 豊後、養老
 八、櫻桃 那翁、養老、大紫、黄玉
 九、其他 枇杷、杏、柑橘、無花果、栗
 右ハ何レモ樹齡稚クシテ結果十分ナラズ

(一) 葡萄
 一、植付 明治四十四年三月
 一、整枝法 橋根作
 一、畦幅及株間 六尺、五尺(反當三百六十本)

品名	大正五年收量	大正四年收量	大正三年收量	平均	品質
アイヲナ	四〇三、二〇〇	二九六、〇〇〇	三三四、八〇〇	三四四、六六七	
ブライトン	七三九、〇八〇	七〇五、六〇〇	六二二、〇〇〇	六八五、五六〇	
ゼビールス	六六六、〇〇〇	五五四、四〇〇	四八〇、二四〇	五六六、八八〇	
ガバナロツス	四三三、〇〇〇	六〇五、八八〇	三七八、〇〇〇	四七一、九六〇	
ハイランド	六五五、二〇〇	七〇九、二〇〇	一、〇五四、八〇〇	八〇六、四〇〇	
ビッグエキストラ	六六二、四〇〇	八六四、〇〇〇	八六四、〇〇〇	七九六、八〇〇	
レデーワシントン	七七七、六〇〇	九六八、四〇〇	七〇三、四〇〇	八二六、三六〇	

(二) 日本梨

一、植付 大正元年三月
 一、整枝法 棚造
 一、畦幅及株間 二間、二間(反當七十五本)

品名	大正五年收量	大正四年收量	平均	一個平均重量
ベールコン	七七七、六〇〇	一、三二四、〇〇〇	一、三二四、〇〇〇	一、一三五、二〇〇
ミルオン	四六〇、八〇〇	八六一、一〇〇	七六六、八〇〇	六九六、〇〇〇
チャンピオン	七〇二、〇〇〇	六七三、二〇〇	五四〇、〇〇〇	六三八、四〇〇
カールマン	五五四、四〇〇	六四六、五六〇	五二二、〇〇〇	五七四、三〇〇
ハーバート	七二一、〇〇〇	七二二、八〇〇	六六二、四〇〇	六九五、四〇〇
早生赤	七八〇〇	一三、五〇〇	一〇、六五〇	六〇
明月吉	三、三七四	一八七、五〇〇	一一、〇六三	一一〇
三着	八、七五	一四、四七五	一一、六〇〇	一一五
巾着	二、八五〇	一五、三七五	九、二一三	七五
長郎	一一、二一〇	二二、一五〇	一六、二八〇	七五
太白	九、六〇〇	一七、九五	一三、七六三	七六
獨逸	七、三四〇	六四、五〇	六、八九五	四五

今村秋	八七〇〇			二二	二二
二十世紀	六〇〇				
(三) 桃					
一、植付 大正元年三月					
一、整枝法 盃狀形					
一、畦幅及株間 二間、二間(反當七十五本)					
品名	大正五年收量	大正四年收量	平均	均	一個平均重量
土用水蜜	一三七五	二六、四七五	二〇、一〇〇	二〇、一〇〇	七二
金桃	九三七五	二五、八七五	一七、六二五	一七、六二五	七五
銀桃	一三七五	二二、一〇〇	一七、九六三	一七、九六三	五三
アムスデンジュン	六四五〇	一一、六二五	九、〇三八	九、〇三八	三三
蟠桃	八五〇〇	九、二二五	八、八七二	八、八七二	三三
上海水蜜	九三四〇	一五、七五〇	一一、五四五	一一、五四五	三三
アレキサンダー	三、三七五	二、四〇〇	二、八八八	二、八八八	六三
アークロホード	九三五	一、八七五	一、四〇五	一、四〇五	三六
天津水蜜	二、七五〇	一、五〇〇	一、三二五	一、三二五	三六
アーリーリバー	九〇七五	二、三二五	五、〇〇七	五、〇〇七	三六

(四) 洋梨

一、植付 明治四十三年四月
一、整枝法 圓錐形

品名	收量	平均	一個平均重量
パツスクラツサン	二、三二五	二、三二五	一六〇
ラフランダス	二、三二五	二、三二五	四四
ヲノンダガ	一、二二五	一、二二五	四七
ルイスボンダジェル	四、五七五	四、五七五	五五
ウキンターネリス	三、〇〇〇	三、〇〇〇	五五
バードレツド	九〇〇	九〇〇	五五
ポーレーアーヂ	三、三七五	三、三七五	五五
ホワイトドアイアンス	六、三七五	六、三七五	五五
ハイレデービソン	一、九五〇	一、九五〇	三六
ボレーヂール	一、七五	一、七五	三五
キーフ	九、三七五	九、三七五	三五

品名	收量	一個平均重量
日之本	二二七五	四
祝錦	一五七五	七
倭綾	一五七五	七
紅玉	一三五〇	二
紅パール	二七〇〇	七
クーパー	四二〇〇	四
寺田李	六〇〇〇	三
成田李	三九〇〇	三

一、植付 明治四十四年四月
一、整枝法 盃狀形

(六) 李
一、植付 明治四十四年四月
一、整枝法 盃狀形

第三、依托試驗

一、果樹

剪定整枝ノ模範ヲ示サンカ爲依托試驗地ヲ設置セリ其所在地及果樹ノ種類品種左ノ如シ

勢多郡木瀬村

一、日本梨 早生赤、長十郎、太白、獨逸、明月

一、苹果 紅魁、紅玉、祝、旭

一、桃 天津水蜜、離核水蜜、土用水蜜、アムスデンジユン

二、蔬菜

蔬菜栽培ノ模範ヲ示シ良種ノ普及ヲ計ランカ爲縣内 所ニ之ヲ設置セリ其所在地及成蹟左ノ如シ

群馬郡古卷村

北甘樂郡富岡町

碓氷郡安中町

山田郡廣澤村

新田郡鳥之郷村

佐波郡殖蓮村

反當收量

多野郡藤岡町

種類名	群馬	北甘樂	碓氷	山田	新田	佐波	多野
寒土當歸	一六〇,五〇〇	一四〇,〇〇〇		一一〇,〇〇〇	七九,〇〇〇		千住 六〇,〇〇〇
葱	千住 七〇,〇〇〇	下仁田 二五,〇〇〇			千住 四〇,〇〇〇	下仁田 四〇,〇〇〇	千住 六〇,〇〇〇
薑	六四,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	早生 二八,〇〇〇 金時 五四,〇〇〇	早生 四一,〇〇〇	早生 三五,〇〇〇	下仁田 四六,〇〇〇	千住 五三,〇〇〇
胡瓜	一六二				一七五		
金州白菜	一五二,二五〇	七〇〇,〇〇〇	一三二,三〇〇	七二,〇〇〇	二二〇,〇〇〇	一七五,〇〇〇	一七六,〇〇〇
葱頭	六三,〇〇〇	七〇,〇〇〇	花魁 六八,〇〇〇 白 六一,〇〇〇 紅赤 五九,〇〇〇		七〇,〇〇〇		
甘藷		四七,〇〇〇	五五,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	五九,〇〇〇	四五,〇〇〇	
落花生						九二	
蘿芋					唐早生 七〇,〇〇〇 六〇,〇〇〇		
羅里		聖護院 一六〇,〇〇〇					

◎農藝化學部

第一、試驗事項

一、窒素吸收率査定試驗

(イ) 大麥窒素吸收率査定試驗

本試驗ハ前年來ノ繼續ニシテ試驗ノ目的、方法及成蹟左ノ如シ

一、目的 當地方ニ於ケル大麥ノ各種肥料ノ窒素ニ對スル吸收率ヲ査定シ併セテ其肥効ヲ比較セントスルニアリ

二、方法 一反歩ノ二萬分ノ一磁製有底ポットニ底部一寸五分砂利ヲ滿テ其上ニ連年無肥料栽培ヲ行ヒタル畑ノ土壤ヲ篩別シ三貫五百匁ヲ填充シ前年ノ如ク普通ナル肥料九種ヲ選ミ、窒素〇、二五瓦ニ相當スル量ヲ施セルモノト、窒素〇、五瓦ニ相當スル量ヲ施セルモノトノ二様ニ區ヲ設ケ別ニ無窒素區ヲ置キ標準トシタリ、補助肥料トシテハ磷酸曹達五瓦、硫酸加里二、五瓦、肥料用石灰四瓦ヲ施用シ大麥竹林種ヲ十一月月中旬一ポットニ對シ五粒ツ、三株ニ播種セリ

三、成蹟 收穫物ハ全部之ヲ分析ニ附シ其窒素量(總量)ヲ求メ各區窒素量ヨリ夫々無窒素區收量ノ窒素量ヲ減シ其差ヲ施用セル窒素量ニテ除シ窒素ノ吸收率ヲ求メ尙大豆粕區收量ヲ標準トシテ肥効率ヲ求メタリ

即次ノ如シ

(一)

生育概況及收量

區名	草丈	穂數	地上部全体	子實	葉	稈	芒
智利硝石 少量區	二〇六	二六	六〇	三三	二二	二〇	四
智利硝石 多量區	二〇六	二六	六〇	三三	二二	二〇	四
硫安 少量區	一九五	二〇	四五	二五	一六	一七	三五
硫安 多量區	二〇一	一九	四三	二八	一七	一〇	三五
大豆粕 少量區	二二〇	二九	五二	二八	一九	一八	三五
大豆粕 多量區	二二〇	二九	五二	二八	一九	一八	三五
菜種粕 少量區	二二二	二六	三六	二二	一三	一五	四〇
菜種粕 多量區	二二二	二六	三六	二二	一三	一五	四〇
鯨粕 少量區	二二二	二六	三六	二二	一三	一五	四〇
鯨粕 多量區	二二二	二六	三六	二二	一三	一五	四〇
人糞尿 少量區	二二六	二五	四〇	二二	一四	一五	二六
人糞尿 多量區	二二六	二五	四〇	二二	一四	一五	二六
蠶糞 少量區	二二三	二六	三五	二一	一四	一五	二五
蠶糞 多量區	二二三	二六	三五	二一	一四	一五	二五

(二)

收量百分率 (大豆粕區ヲ標準トス)

區名	子實收量百分率		無窒素區差引增收歩合 (肥効率)	
	大正四年	大正五年	大正四年	大正五年
堆肥 多量區	二二七	一八	一七	一五
堆肥 少量區	二二六	一四	一七	一五
無窒素 甲	二一〇	一三	一五	一四
無窒素 乙	二一〇	一三	一七	一四
智利硝石 多量區	一一三	二〇	一八	一四
智利硝石 少量區	一一三	二〇	一八	一四
硫安 多量區	一〇八	九	一三	一三
硫安 少量區	一一七	九	一三	一三
大豆粕 多量區	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
大豆粕 少量區	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
菜種粕 多量區	九二	八五	八六	七〇
菜種粕 少量區	九三	八三	八五	七〇
鯨粕 多量區	八六	二四	七九	一七
鯨粕 少量區	九五	九六	八九	一三
人糞尿 多量區	九三	一四	九〇	一三
人糞尿 少量區	九三	一四	九〇	一三
蠶糞 多量區	九〇	一〇	八〇	一三
蠶糞 少量區	九〇	一〇	八〇	一三

(三) 收穫物中ノ窒素量

區名	子收穫物		中ノ窒素		糶素量		肥料中ヨリ吸收セル窒素	
	%	量	%	量	%	量	%	量
智利硝石 少量區	1.357	0.4695	0.1287	0.0169	0.6271	0.2767	0.3548	
智利硝石 多量區	1.281	0.3647	0.1006	0.0124	0.4867	0.179	0.224	
硫安 少量區	1.374	0.3566	0.1036	0.0101	0.4804	0.1638	0.1011	
硫安 多量區	1.163	0.2651	0.0969	0.0101	0.383	0.073	0.109	
大豆粕 少量區	1.309	0.3770	0.1195	0.0111	0.5176	0.1842	0.2453	
大豆粕 多量區	1.19	0.333	0.1026	0.015	0.4408	0.1104	0.1685	
菜種粕 少量區	1.444	0.380	0.0733	0.0169	0.4181	0.1352	0.1458	
菜種粕 多量區	1.184	0.192	0.074	0.0178	0.3394	0.0564	0.0671	

(四) 窒素吸收率及肥効率

區名	窒素吸收率		吸收率		吸收率比較		肥効率		兩者平均	
	大正五年平均	大正四年平均	大正五年平均	大正四年平均	(豆粕標準)	(大正五年)	(大正五年)	(比較的平均)	(比較的平均)	(比較的平均)
鯀粕 少量區	1.124	0.4380	0.1311	0.0141	0.5942	0.2452	0.3219			
鯀粕 多量區	1.184	0.2871	0.089	0.0120	0.320	0.0943	0.197			
蛹粕 少量區	1.136	0.4324	0.1192	0.0150	0.5766	0.2396	0.3043			
蛹粕 多量區	1.163	0.2893	0.0792	0.0169	0.3854	0.0965	0.131			
人糞尿 少量區	1.110	0.3861	0.1301	0.0117	0.5380	0.1933	0.2657			
人糞尿 多量區	1.133	0.2839	0.0829	0.0159	0.3827	0.0911	0.1104			
蠶糞 少量區	1.124	0.1582	0.0754	0.0144	0.3480	0.0654	0.0757			
蠶糞 多量區	1.137	0.1399	0.0738	0.0153	0.3390	0.0471	0.0567			
堆肥 少量區	1.131	0.1267	0.0704	0.0135	0.3066	0.039	0.0483			
堆肥 多量區	1.145	0.122	0.0624	0.016	0.2878	0.0339	0.0483			
無窒素區(平均)	1.174	0.192	0.0677	0.0118	0.2733	0.0100	0.0155			

人糞尿
蠶糞
堆肥
智利硝石

1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	3	4	5	6	7	8

備考 一、肥効率ハ各區收量ヨリ無窒素區收量ヲ差引タル殘數中大豆粕ノモノヲ一〇〇トシテ示シタル數ナリ(本場肥料種類試驗ニ於ケル肥効率ト算出ノ方法異ル)

二、比較的價値ハ吸收率中大豆粕ニ於ケルモノヲ一〇〇トシタル比較數ト肥効率ヲ平均セルモノナリ

本試驗ハ二萬分ノ一反有底磁製ポットニテ一作毎ニ無肥料栽培地土壤ヲ詰換ヘ施行セルモノナレハ吸收率ハ第一作ニ對スル率ヲ表スルモノニシテ可吸養分ノ全量ヲ示スモノニ非ス從テ堆肥、蠶糞等ノ遲効肥料ハ吸收率甚タ低ク速効肥料ハ之ニ反ス、又ポットハ有底ナルカ故實際圃場ニ於ケル狀態ト異ルモノアルヘキヲ以テ尙更ニ實際ニ近キ狀態ニ於テ數作ニ亘リ査定セル吸收率ヲ必要トスルカ故ニ本年度ヨリ無底圓筒ヲ以テ別項奏効率査定試驗ヲ新設セリ今茲ニハ本試驗ノ目的トスル第一作ニ對スル吸收率ノ成績ヲ論シテ結論トスヘシ

右成績ニ據レハ水稻、大麥ヲ通シ肥料中ノ所含窒素量ノ一作ニ吸收利用セラルヘキ歩合(吸收率)ハ大豆粕、鯀粕、蠶糞、下肥ニ於テ約六割、菜種粕ハ四割ナリ又蠶糞及堆肥ニアリテハ水稻ニ於テ三割、麥ニ對シテ

二割弱ヲ示シ硫酸アンモニアハ之ニ反シ水稻ニ於テ三割、大麥ニテ五割ノ吸收歩合ナリ、概シテ吸收率ハ水稻ニ高クシテ大麥ニ低キ傾向アリ之レ水稻成育ノ時期カ高温ニシテ肥料分ノ分解速ナルニヨルモノナラン斯クノ如ク肥料中ニ含有セラル、窒素分カ第一作ニ表ス奏効ノ程度ハ其形態ノ異ルニ從ヒ區々ナルカ故窒素ノ含有量ヲ以テ直チニ其肥料ノ効果ヲ判定スル能ハス而テ窒素ノ有効量(奏効量)ハ成分量ニ吸收率ヲ乘シテ求ムヘキナリ、肥料施用量或ハ配合量等ノ計算ハ奏効量ニ據ルヲ可トス、註、以上記載ノ吸收率ハ第一作ニ於ケルモノナリ數作ニ亘ル吸收率ニ關シテハ別項奏効率査定試驗ニ於テ調査シツ、アリ

二、水田ニ於ケル窒素奏効率査定試驗

本試驗ハ本年度ノ新設ニシテ各種肥料中ニ含有セラル、窒素分中作物ニ吸收利用セラルヘキ量ハ其何割ナルヤヲ査定シ、所含窒素%ト相俟テ其肥料中ノ奏効窒素量ヲ求メ以テ施肥量ノ決定及肥料眞價ノ算定等ノ便ニ供セム爲數ケ年ニ亘リ表裏兩作ニテ繼續試驗セントスルモノナリ今其方法ノ大要ヲ述ムニ

(甲) 稻作窒素奏効率査定試驗

- 一、容器ハ五千分ノ一反歩素燒無底圓筒ノ内面ニバラピンヲ被覆シ水分ノ透過ヲ防キタルモノヲ用イ表面ニ寸ヲ現シテ埋沒シ之レニ底土八寸ヲ入レ更ニ表土ノ篩別セルモノヲ一尺填充シ水田狀態トセリ
- 二、肥料ハ供試肥料トシテ大豆粕、硫酸アンモニア、蠶糞、鯀粕、鯀粕、菜種粕、蠶糞、堆肥、人糞尿、綠肥及石灰窒素ノ十種ヲ選ミ反當ニ貫々ノ窒素ニ相當スル分量ヲ施シ別ニ無窒素區ヲ設ケ標準トシ何レモ各二

區ノポットヲ設ケテ平均ヲ採ルコト、セリ、補助肥料トシテハ炭酸加里(反當加里二貫五百匁相當量)強過磷酸(反當磷酸三貫匁相當量)及炭酸石灰(反當三十貫)ヲ施用セリ

三、耕種法ハ本場普通法ニ據ル、苗ハ普通苗代ニ仕立ラタル國富種ニシテ二本ツ、四株トセリ、植付ハ七月

三日、刈取ハ十月二十四日ニシテ刈取後耕起シテ大麥ヲ播下スル準備ヲナセリ

斯クシテ栽培セル收穫物中地上部全体ヲ分析ニ附シ窒素ノ含有量ヲ求メ無窒素區收穫物中ノ窒素量ヲ減シ其差ヲ施用セル窒素量ニテ除シ第一年目ニ於ケル窒素ノ吸收率ヲ求メ尙大豆粕區ヲ標準トシテ肥効率ヲモ求メタリ即チ別表ノ如シ

註、根株ハ分析ニ附セス跡作肥料トシテ敷込ミタリ

(一) 生育概況及收量

區名	草丈	穗數	地上部全体	粗	玄米	藁	稈	碎	米
硫安	三、四五	六九	三、四〇	一五、八〇	二五、四五	一五、九〇	一、二七		一、二七
大豆粕	三、三三	六七	三、〇〇	一五、〇〇	二一、八〇	一四、九〇	一、五〇		一、五〇
鱒粕	三、三七	六九	三、〇一〇	一四、九〇	二七、二六	一三、四〇	一、四一		一、四一
	三、三六	七四	三、三七〇	一六、一〇	二四、七八	一五、六〇	一、五〇		一、五〇
	三、三三	六三	三、三三〇	一四、九〇	二一、〇七	一五、五〇	一、四一〇		一、四一
	三、三八	七三	三、三二〇	一六、〇〇	二五、二二	一四、一〇			一、四四

區名	(二) 收量百分率		子實收量百分率 (大豆粕標準)	無窒素區ニ對 スル增收量	全上增收歩合 (肥効率)
	平均收量	收率			
菜種粕	三、三五	六一	二四、一〇	九、一〇八	一一、〇
人糞尿	三、四三	六〇	二八、一〇	一〇、八六	一三、〇
綠肥	三、五〇	六三	二九、六〇	一一、九二	一三、〇
石灰窒素	三、三三	六二	二九、〇〇	一一、〇六	一四、〇
蠶糞	三、三三	六二	二九、〇〇	一一、〇六	一四、〇
堆肥	三、三三	六二	二九、〇〇	一一、〇六	一四、〇
鱒粕	三、三三	六二	二九、〇〇	一一、〇六	一四、〇
鱒粕	三、三三	六二	二九、〇〇	一一、〇六	一四、〇
無窒素	三、三三	六二	二九、〇〇	一一、〇六	一四、〇

區名	收穫物		中ノ窒素量		肥料中ヨリ吸 收セル窒素量	窒素吸收率
	窒素%	窒素含量	稈	穀殼其他		
硫安	13.2	0.875	0.62	0.82	1.545	101
大豆	11.0	0.875	0.92	0.17	2.849	100
菜種	9.7	1.708	0.87	0.16	2.754	99
人糞	10.6	1.411	0.76	0.14	2.308	99
蠶糞	12.4	1.105	0.75	0.14	2.575	99
綠肥	11.1	1.015	0.75	0.14	2.575	99
堆肥	10.8	1.015	0.75	0.14	2.575	99
無窒素	12.7	1.015	0.75	0.14	2.575	99
石灰	15.8	1.015	0.75	0.14	2.575	99

(三) 收穫物中ノ窒素量

區名	收穫物		中ノ窒素量		肥料中ヨリ吸 收セル窒素量	窒素吸收率
	窒素%	窒素含量	稈	穀殼其他		
硫安	13.4	0.875	0.62	0.82	1.545	101
大豆	11.4	0.875	0.92	0.17	2.849	100
菜種	13.9	1.708	0.87	0.16	2.754	99
人糞	14.3	1.411	0.76	0.14	2.308	99
蠶糞	14.0	1.105	0.75	0.14	2.575	99
綠肥	15.4	1.015	0.75	0.14	2.575	99
堆肥	15.4	1.015	0.75	0.14	2.575	99
無窒素	15.4	1.015	0.75	0.14	2.575	99
石灰	15.4	1.015	0.75	0.14	2.575	99

備考 石灰窒素區ノ生育ハ甚タ佳良ニシテ從テ含有窒素量甚タ多ク其使用量以上ニ及ヘリ斯カル結果ヲ來

タセルハ如何ナル原因ニヨレルカ明ナラス

右成蹟ヲ通覽スルニ窒素吸收率ハ一般ニ別項有底ポットニテ査定セルモノニ比シ高ク就中蠶糞粕ノモノ最高ニシテ九割ヲ示シ、硫酸アンモニア之ニ次キ八、五割ニシテ大豆粕、鱈粕、人糞尿等ハ約八割、綠肥約七割、菜種粕、蠶糞五割ニシテ堆肥ハ最も多ク貳割五分ニ過キス、次ニ大豆粕ヲ標準トシタル肥料率ハ石灰窒素區最モ高ク鱈粕、蠶糞、人糞尿、硫安、大豆粕ハ肥効略相等シク綠肥、蠶糞、菜種粕之ニ次キ堆肥最モ低シ、尙試験ヲ繼續シ表裏兩作ニ於ケル吸收率ヲ算出シ然ル後其奏効率ヲ定ムヘシ

(乙) 裏作大麥窒素奏効率査定試験

前記水稻奏効率試験跡地ヲ耕起粉碎シ前者ト全ク同一設計ニヨリ大麥竹林種ヲ十一月二十五日十粒ツ、四株

ニ播種シ後間引キテ一株五本立トセリ成蹟調査未済ナリ

三、畑ニ於ケル窒素奏効率査定試験

本試験ハ本年度ノ新設ニシテ前者ト同様各種肥料中ニ含マル、窒素ノ作物ニ吸收セラル、量ヲ數ケ年ニ亘リ表裏兩作ニテ査定シ奏効率ヲ求ムカ爲施行セルモノニシテ其方法ハ水田ニ於ケルモノト殆ト同シク試験肥料ハ硫酸アンモニア、智利硝石、大豆粕、蠅ノ粕、鯀ノ粕、菜種粕、蠶糞、堆肥、石灰窒素ノ十種ニシテ其施用分量及補助肥料ノ分量等前者ト同一ナリ、大麥ハ竹林種ヲ十粒ツ、四株ニ播下シ翌春五本ツ、ニ間引シタリ其他ノ栽培方法ハ普通耕種法ニ據レリ、成蹟調査ハ未済ナリ

四、三要素適量試験

(イ) 試験ノ目的及方法ノ概要

本試験ハ從來施行セル三要素適量試験ノ設計ヲ變更シ本年度ヨリ實施セルモノニシテ水田及畑ニ於テ水稻及麥ニ對スル三要素ノ適量ヲ査定シ併セテ土壤中可吸態養分量並ニ三要素試験成蹟ト本試験成蹟トノ關係ヲ調査セン爲施行セルモノナリ其試験方法ノ大要ヲ述フレハ先ツ容器トシテ八分ノ一反(經二尺三寸)深サ二尺ノ無底釉藥引土管ヲ埋没シ底土八寸表土(篩別セルモノ)一尺ヲ填充シ肥料ハ次ノ標準量(反當)ヲ施用セリ

- 窒素 四貫匁(硫酸アンモニア) 磷酸 四貫匁(強過磷酸)
- 加里 四貫匁(炭酸加里) 炭酸石灰 二十貫匁

試験區別次ノ如シ、但シ各區共二個ノポットヲ使用シ其平均成蹟ヲ採ルコトシタリ

- 窒素 一貫匁區、一貫五百匁區、二貫匁區、二貫五百匁區、三貫匁區、三貫五百匁區、四貫匁區
- 磷酸 五百匁區、一貫匁區、一貫五百匁區、二貫匁區、二貫五百匁區、三貫匁區
- 加里 一貫匁區、二貫匁區

註、從來ノ三要素適量試験ト本年度ヨリ實施スルモノトノ差異点ハ一區ニ就テ二個ノポットヲ用キテ平均ヲ採レルト、標準肥料用量多キト、加里適量區ノ減少ト、肥料反應矯正材料トシテ炭酸石灰ヲ使用セルトニアリ

(ロ) 水田ニ於ケル三要素適量試験

本場水田ニ於テ水稻及裏作大麥ニ就テ三要素ノ適量ヲ査定センカ爲施行セリ

(甲) 水稻ノ部

水稻國富種ヲ七月二日一鉢二本ツ、三株栽植シ肥料以外ハ一般耕種法ニテ栽培シ十月二十四日刈取乾燥調製セリ其成蹟次ノ如シ

(一) 生育概況及收量

區	名	草	丈	全收穫物	玄	米	葉	稈	籾	殼	碎	米	芒	稈
---	---	---	---	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

無底油藥引土管ヲ埋没シ底土八寸及篩別セル表土一尺ヲ填充シ肥料ハ次ノ標準量ヲ補給セリ(反當數量)

窒素 四貫匁(硫酸アシモニア) 磷酸 四貫匁(強過磷酸)

加里 四貫匁(炭酸加里) 炭酸石灰二十貫

試驗區別ハ次ノ如シ、但シ各區共二個ノポットヲ使用シ成績ハ其平均ヲ採レリ

- 一、無肥料區(炭酸石灰ノミ施用ス)
- 二、完全區(肥料ハ全部標準量施用)
- 三、無窒素區(窒素ノミ施用セス)
- 四、無磷酸區(磷酸ノミ施用セス)
- 五、無加里區(加里ノミ施用セス)

(ロ) 水田ニ於ケル三要素試驗

本場水田ニテ水稻及裏作大麥ニ就テ本試驗ヲ施行シ肥料ノ要求量及土中ノ可吸態養分量ヲ査定センカ爲施行セリ

(甲) 水稻ノ部

水稻國富種ヲ七月二日一ポットニ二本ツ、三株栽植シ普通耕種法ニヨリ栽培シ十月二十四日刈取乾燥調製シタリ其成績左表ノ如シ

(一) 生育概況及收量

區名	草丈	全收穫物	玄米	葉	稈	粗	穀	碎	米	芒	稈
----	----	------	----	---	---	---	---	---	---	---	---

無肥料區	甲	31.1	7.0	37.5	41.0	11.0	0.5	0.4	0.5	0.4
	乙	30.0	9.2	31.6	45.0	8.9	0.5	0.5	1.5	0.5
無窒素區	甲	30.0	15.0	40.7	50.0	11.3	0.4	0.3	0.5	1.0
	乙	30.0	9.2	33.8	45.0	8.9	0.3	0.3	0.5	1.0
無磷酸區	甲	35.0	18.0	53.5	81.0	19.7	0.8	0.3	0.8	4.0
	乙	33.0	15.0	48.0	75.0	16.2	0.8	0.3	0.8	2.5
無加里區	甲	34.0	22.0	56.0	99.0	24.6	1.1	0.7	1.1	2.0
	乙	34.0	22.0	56.0	99.0	24.6	1.1	0.7	1.1	2.0
完全區	甲	38.0	25.0	63.0	115.0	28.1	1.5	1.0	1.5	3.5
	乙	33.0	22.0	55.0	90.0	25.0	1.5	1.0	1.5	3.5

備考 ポットハ甲列ヨリモ乙列カ低位置ニアリタル爲全成績ヲ通シ收量少シ

(二) 三要素要求比

區名	玄米平均收量 (ポット)	全上反當量	葉平均收量 (ポット)	完全區玄米收量 ニ對スル百分比	全上完全區ニ 對スル減收比	全上無窒素區ニ 對スル百分比
無肥料	34.5	15.2	43.0	100	3	100
無窒素	37.2	16.3	47.5	105	5	100
無磷酸	36.2	29.5	78.0	107	25	100
無加里	37.8	38.6	97.0	108	2	100
完全肥料	39.2	39.2	106.5	108	1	100

右表ニ據レハ三要素要求比ハ窒素一、〇ニ對スル磷酸〇、四加里〇、〇三ナリ

(三) 收穫物中ノ養分量(ポット收量)

區名	養分	玄米所含養分量	藁所含養分量	粗穀、芒、枇所含養分量	合計
無肥料	加 磷 窒 素	0.043	0.301	0.067	0.411
無窒素	加 磷 窒 素	0.110	0.047	0.024	0.181
無磷酸	加 磷 窒 素	0.096	0.365	0.054	0.515
無加里	加 磷 窒 素	0.511	0.332	0.063	0.906
完全肥料	加 磷 窒 素	0.137	0.052	0.033	0.222
	加 磷 窒 素	0.104	0.044	0.054	0.202
	加 磷 窒 素	0.939	0.546	0.128	1.613
	加 磷 窒 素	0.499	0.086	0.045	0.630
	加 磷 窒 素	1.329	0.663	0.105	2.097
	加 磷 窒 素	0.555	0.679	0.159	1.393
	加 磷 窒 素	0.246	0.107	0.054	0.407
	加 磷 窒 素	1.247	0.824	0.124	2.195
	加 磷 窒 素	0.543	0.745	0.166	1.454
	加 磷 窒 素	0.543	0.117	0.058	0.718
	加 磷 窒 素	0.149	0.905	0.132	1.186

備考 平均成分%ヨリ算出セリ

右表中無窒素區ノ窒素量、無磷酸區ノ磷酸量、無加里區ノ加里量ハ肥料ニ據ラスシテ土壤中及灌漑水中ヨリ吸收セル養分ノ天然供給量ナリ即チ次表ノ如シ

(四) 養分天然供給量

成分	ポット中ノ天然供給量	全上一反歩面積ニ換算量	一反歩當リ普通植ニ換算セル場合ノ天然供給量
加 磷 窒 素	0.916	1.949	1.559
里 酸 素	0.540	1.149	0.919
加 里	1.194	2.542	2.033

備考 ポットハ苗ヲ密植セル爲面積ニ比シ收量多シ故ニ反當ニ換算スル場合ニハ之ヲ普通植收量ニ訂正スル要アルヲ以テ圃場試験ニ於ケル密植ニ對スル普通植ノ減收率ヲ乘シテ反當量ヲ求メタリ

右成績中各區ノ收量ヲ比較スルニ穀實、藁共ニ無肥料區ノ收量最少ニシテ無窒素區殆ト之ト相伯仲セリ無磷酸區ハ前者ニ比シ收量約二倍ニ達シ土中ニ於ケル磷酸ノ供給量窒素ヨリモ多キヲ示セリ、無加里區ハ完全區ト遜色ナキ故加里ノ供給最モ潤澤ニシテ殆ト補給ノ必要ヲ認メス、完全區ハ無肥料區ニ比シ二倍強ノ增收ニシテ肥料補給ノ効果顯著ナルヲ示ス、而シテ肥料分要求ノ割合ハ窒素一、ニ對スル磷酸〇、四ニシテ加里ハ殆ト補給ヲ要セサルカ如シ、之ノ成績ヲ三要素適量試驗成績ト比較スルニヨク其結果ノ一致セルヲ認ム、供試

土壤ハ無肥料區ニテモ反當一石五斗ノ收量アリテ養分ノ天然供給量豐富ナリ然レトモ無肥料區ニ對スル完全區ノ增收歩合高キカ故増肥ニ對スル收益大ナリ尙試驗ヲ繼續シテ正確ヲ期スヘク又土中有効養分量ト本試驗ノ關係及ヒ三要素適量試驗トノ關係ハ調査中ニ屬ス

(乙) 大麥ノ部

水田狀態ポットニ於テ水稻ニ就キ三要素試驗ヲ施行シ收穫セル跡地ヲ耕起シ前者ト全ク同一ナル設計ニ基キ裏作大麥ノ三要素試驗ヲ施行ス其成績調査未濟ナリ

(ハ) 畑ニ於ケル三要素試驗

本場畑ニ於テ大麥及裏作種ニ就テ本試驗ヲ施行シ肥料ノ要求量及土中ノ可吸態養分量ヲ査定センカ爲施行ス

(甲) 大麥ノ部

大麥竹林種ヲ十一月苗床ニ播下シ翌年三月二十六日之ヲポットニ移植セリ(註、直播セサリシハポットノ埋沒遅レタル爲ナリ)肥料栽培方法其他ノ設計ハ總テ前者ニ準シタリ、成績調査未濟トス

六、肥料反應試驗

當場ノ如キ土壤ニ於テ肥料ノ反應カ作物ニ及ホス影響ヲ知り併セテ如何ナル方法ニ依リ其ノ反應ヲ矯正シ得ルヤヲ知ラムカ爲施行セルモノニシテ二萬分ノ一亞鉛有底ポットヲ使用シ次表ノ如キ酸性若シクハ鹽基性肥料ヲ施シ之ニ對シ反應ヲ矯正セル區ヲ設ケテ其ノ收量ヲ比較セリ

甲、大麥 (第三作目)

十一月十七日竹林種ヲ一ポットニ十粒宛播種シ翌年六月三日ニ收穫セリ

成績摘要

區名	施用肥料	草丈	穀實	稈	收穫	反應
一	硫酸、過磷酸、硫加全 石灰加用	一、八	二、〇	三、〇	無	強酸性
二	硫酸、過磷酸、木灰全 石灰加用	一、五	二、〇	四、〇	無	中酸性
三	全 石灰加用	一、四	三、五	四、〇	七、五	中酸性
四	硝石、磷曹、炭加全 石膏加用	一、四	二、五	三、〇	五、〇	強鹽基性
五	全 石膏加用	一、三	二、〇	二、〇	四、〇	中酸性
六	豆粕、過磷酸、硫加全 石灰加用	一、三	二、〇	三、〇	四、〇	中酸性
七	豆粕、過磷酸、木灰全 石灰加用	一、四	二、〇	三、〇	四、〇	中酸性
八	豆粕、過磷酸、木灰全 石膏加用	一、六	二、〇	三、〇	三、〇	弱鹽基性
九	豆粕、骨粉、木灰全 石膏加用	一、六	二、〇	三、〇	三、〇	中酸性
〇	全 石灰加用	一、五	四、〇	三、〇	無	中酸性
一	全 石灰加用	一、五	三、〇	三、〇	無	中酸性
二	全 石灰加用	一、五	三、〇	三、〇	無	中酸性
三	全 石灰加用	一、五	三、〇	三、〇	無	中酸性
四	全 石灰加用	一、五	三、〇	三、〇	無	中酸性

一五	全 石膏加用	一、八三	三〇	四〇	中 鹽 基	性
一六	下肥、骨粉、木灰	一、六三	三〇	五〇	中 鹽 基	性
一七	全 石膏加用	一、八五	四〇	五〇	中 鹽 基	性
一八	下肥、過磷酸、硫加	一、六〇	三〇	九〇	中 酸 性	性
一九	全 石灰加用	一、八三	六〇	三〇	中 鹽 基	性
二〇	下肥、過磷酸、木灰	一、六三	六〇	三〇	中 鹽 基	性
二一	全 石膏加用	一、八〇	三五	四〇	中 鹽 基	性
二二	堆肥、過磷酸、木灰	一、八一	二〇	三〇	中 鹽 基	性
二三	全 石膏加用	一、九五	一、五	三五	中 鹽 基	性
二四	無 肥料			三五	中 酸 性	性

右成績ハ第三作ナルヲ以テ收量遠ニ減シ結果判然タラサレトモ概シテ礦物性強酸性肥料(硫酸、硫酸加里)ヲ使
 用セルモノハ收量最モ少ク甚タシキハ收穫皆無ナルアリ然レトモ其反應ヲ石灰ニテ中和シタルモノハ收量多
 シ、次ニ礦物性強アルカリ肥料(硝石、磷酸ソーダ)ヲ使用セルモノハ收量少ク之ニ石膏ヲ加用シ中性トセル
 モノハ收量多シ、次ニ性緩和ナル礦物肥料(過磷酸、木灰)ノ反應ハ收量ニ大ナル關係ヲ及ホサ、ルカ如ク又
 植物性及動物性肥料ハアルカリ性ト酸性トヲ問ハス收量ニ關係スル處甚タ少キカ如シ殊ニアルカリ性有機質
 肥料ハ矯正材料タル石膏ノ効果少ク或物ハ爲メ反テ減收セルアリ、以上ヲ概言スレハ硫酸、硫酸加里等ハ酸性
 強ク作物ヲ害スルカ故石灰ヲ加用(混施ヲ避ク)シテ酸性ヲ矯正スヘク智利硝石、磷酸ソーダ等ノ強アルカリ

肥料ハ前者ヨリ程度低ケレトモ作物ヲ害スルカ故ニ石膏ヲ加ヘ反應ヲ矯正スルヲ可トス尙有機質肥料ニハ特
 ニ反應矯正材料ヲ加用スルノ必要少シ
 乙、水 稻 (第四作目)
 七月四日ニ國宮種ヲ一ポットニ對シ二本宛三株植付十月二十四日ニ收穫セリ其試驗成績左ノ如シ

區名	施用肥料	草	丈	玄米收量	反應矯正歩合	反應
一	硫酸、過磷酸、硫加		三、一	五〇、二	減 〇、六	中 強 酸 性
二	全 石灰加用		三、二	四九、九	減 〇、六	中 強 酸 性
三	硫酸、過磷酸、木灰		三、三	五六、四	減 〇、六	中 強 酸 性
四	全 石灰加用		二、九	二二、〇	減 〇、六	中 強 酸 性
五	硝石、燐曹、炭加		三、二	五三、五	減 〇、六	中 強 酸 性
六	全 石膏加用		三、五	四七、七	減 〇、六	中 強 酸 性
七	豆粕、過磷酸、硫加		三、一	五八、四	減 〇、六	中 強 酸 性
八	全 石灰加用		三、一	四九、四	減 〇、六	中 強 酸 性
九	豆粕、過磷酸、木灰		三、二	四二、〇	減 〇、六	中 強 酸 性
一〇	豆粕、骨粉、木灰		二、九	一七、三	減 〇、六	中 強 酸 性
一一	全 石膏加用		三、三	五二、二	減 〇、六	中 強 酸 性
一二	鯀粕、過磷酸、硫加		三、四	四六、〇	減 〇、六	中 強 酸 性
一三	全 石灰加用		三、三	五〇、四	減 〇、六	中 強 酸 性

一四	鮮粕、骨粉、木灰	三、三	四九、四	中鹽	基	性
一五	全 石膏加用	三、三	五五、〇	中鹽	基	性
一六	下肥、骨粉、木灰	三、二	五〇、〇	中鹽	基	性
一七	全 石膏加用	三、〇	五三、七	中鹽	基	性
一八	下肥、過磷酸、硫加	三、〇	四三、八	中酸	性	性
一九	全 石灰加用	三、二	四九、六	中鹽	基	性
二〇	下肥、過磷酸、木灰	三、三	四五、四	中鹽	基	性
二一	全 石膏加用	三、二	六一、五	中鹽	基	性
二二	堆肥、過磷酸、木灰	三、〇	三〇、八	中鹽	基	性
二三	全 石膏加用	三、〇	二八、〇	中鹽	基	性
二四	無 肥料	二、八	一四、二	中鹽	基	性

右試驗成績ハ生育ニ格段ナル差異ナシ、蓋シ其原因ハ一ハ水稻カ酸性ニ對スル抵抗力強キ爲ト一ハ麥作ニ於テ減收セル酸性區ニハ養分カ吸收セラレス殘留シ爲メニ稻ノ生育可良トナレルモノナルヘク殊ニ反應矯正區カ減收セルヲ以テ見ルモノノ關係アルヲ知ル要スルニ水稻ニ對シテ肥料ノ反應ハ其生育ニ大ナル支障ヲ生セサルモノ、如シ尙繼續試驗セントス

七、肥料施用方法ニ關スル試驗

(甲) 大豆粕施用方法試驗

麥作ニ對スル大豆粕ノ有利ナル施用方法ヲ知ランカ爲前年ニ繼續シ施行セルモノニシテ大麥竹林種ヲ八千分ノ一反無底圓筒ニ十五粒ヲ三株ニ播下シ翌春間引キ一株七本立トシ、肥料ハ大豆粕ヲ主要肥料トシ不足成分ヲ強過磷酸及炭酸加里ニテ反當窒素二貫五百匁、磷酸二貫匁、加里一貫七百匁ニナルカ如ク施シタリ(但シボツト施用量ハ二割ヲ増肥セリ)

試驗區別

一、大豆粕ヲ其儘施シタルモノ 二、大豆粕ニ水ヲ加ヘ二週間醱酵セシメタル後施シタルモノ
 三、全前米糠(大豆粕ノ二十分ノ一)ヲ加用シ醱酵セシメタルヲ施セルモノ 四、大豆粕ニ水ヲ加ヘ一週間醱酵セシメ施シタルモノ 五、全前米糠ヲ加用シ醱酵セシメ施シタルモノ

區	大豆粕處理方法	穗數	稈程	重	穀實容量	穀實重量	大正四年度穀實重量	平均
一	豆粕其儘施用	四七		一八〇	〇六二	一八〇	二三〇	二〇五
二	二週間醱酵後施用	三三		一八〇	〇四一	一一〇	二七〇	一九〇
三	全 米糠加用	三七		一七〇	〇六〇	一七〇	二三五	二〇一
四	一週間醱酵後施用	四五		一五〇	〇五三	一五〇	二二〇	一八五
五	全 米糠加用	四三		一八〇	〇六一	一七〇	二九〇	二三〇

備考 本年度試驗成績ハ鳥蟲害ノ爲メニ判然タル結果ヲ得ス殊ニ二區及四區ニ於テ甚タシ

右成蹟ハ本年度ニ於テ鳥蟲害ヲ受ケタル爲結果ニ誤差ヲ生シ的確ナル判斷ヲ下ス能ハサレトモ大麥ノ如キ生育時期ノ長キ作物ニ向テハ大豆粕ヲ其儘施用スルモ醱酵セシメ用ウルモ効能ニ大差ナキカ如ク、醱酵セシムル場合ニハ一割内外ノ米糠ヲ加用スレハ肥効増大スルカ如シ是レ米糠中ノフイチン分解酵素カ大豆粕中ノフイチンニ作用シテ之ヲ無機形可溶磷酸ニ變シ從テ磷酸ノ肥効ヲ増大セシムルニ據ルナラムカ

(乙) 蠶糞施用法試験

蠶糞ノ麥作ニ於ケル有利ナル施用法ヲ驗知センカ爲前年ニ繼續シ八千分ノ一反無底ボットニ竹林種ヲ播下シテ試験セリ、肥料トシテハ蠶糞ヲ以テ窒素ノ全部ヲ給シ磷酸曹達及炭酸加里ヲ以テ養分ノ不足ヲ補ヒ反當窒素二貫五百匁、磷酸二貫匁、加里一貫七百匁ナラシメ且石灰ヲ使用シテ反應ヲ矯正セリ、蠶糞ハ一、乾燥ノ儘施用 二、二倍ノ水ヲ加ヘ一週間醱酵ノ後施用 三、水ヲ加ヘ二週間醱酵ノ後施用ノ三通リニ處理施用シ外ニ標準區トシテ蠶糞ニ代フルニ大豆粕ヲ施用セル區ヲ設ケタリ試験成蹟次ノ如シ

區	試驗區別	稈重	穀實容量	全重量	大正四年度 穀實重量	平均	第一區ニ對スル 増收歩合
一	蠶糞乾燥ノ儘施用	一五〇	〇四〇	九〇	一五〇	二二〇	一〇
二	水ヲ加ヘ一週間醱酵ノ後施用	九〇	〇二七	七〇	二二〇	一五〇	二五
三	全 二週間醱酵施用	一三〇	〇四五	一一〇	二八〇	二〇〇	六六
四	標準區(蠶糞ヲ用イス)	一〇〇	〇三七	一〇〇	二四〇	一七〇	四一

備考 本年度試験成蹟ハ鳥蟲害等ノ爲結果判然タラス二區ノ如キハ甚ダシキモノナリ

右成蹟ニ據レハ蠶糞ハ之ヲ乾燥ノ儘施用スルモノニ比シ水ヲ加ヘ醱酵セシメ施用シタルモノ遙ニ効果大ナリ蓋シ蠶糞ハ醱酵セシムル時ハ尿酸鹽カ作物ニ無害ナルアモニア鹽類ニ化成スルカ爲ナルヘシ

(甲) ラジウム礦肥施用量試験

大麥ニ對スルラジウムシユラムノ刺戟的効果ヲ驗シ併セテ其施用ニ適量ヲ驗知センカ爲施行セルモノニシテ八千分ノ一反無底ボットニ大麥竹林種ヲ播種ス、肥料ハ反當大豆粕三十二貫、硫安四貫、強過磷酸十二貫炭酸石灰四貫トシ尙其上ニラジウムシユラム反當千瓦、二千瓦、四千瓦、四百八十瓦ノ四種ニ施シ外ニ標準區トシテ使用セサル區ヲ設ケタリ今成蹟ヲ示セハ次ノ如シ

區	ラジウム施用量	穂數	稈重	穀實容量	全重量	標準區 對スル増減
一	施用セス	五二	二二	〇七五	二二〇	—
二	四百八十瓦施用	三三	一八	〇四二	一一〇	減 一〇.〇
三	千瓦施用	三三	一九	〇五九	一六〇	減 六.〇
四	二千瓦施用	三三	二〇	〇三〇	七〇	減 一五.〇
五	四千瓦施用	五〇	二〇	〇八〇	二三〇	増 一〇.〇

備考 本試験成蹟ハ鳥蟲ノ食害ヲ受ケ試験誤差大ナリ殊ニ四區ニ於テ甚ダシ

右成績ニ據レハラジュームノ加用ハ反テ收穫ノ減少ヲ來タセリ然レトモ鳥蟲害ニヨル誤差大ナリシヲ以テ尙
試驗ヲ繼續シテ其眞否ヲ確メムトス

(乙) 硫黃肥効試驗

麥作ニ於テ硫黃ノ刺戟的効果ヲ驗シ併セテ其施用適量ヲ驗知センカ爲施行セルモノニシテ容器、肥料、方法
等ハ前項ラジューム試驗全様ナリ而シテ加用セル硫黃ハ微細ナル粉末ニシテ其反當用量ハ一貫匁、二貫匁、
三貫匁、四貫匁ノ四種ニ使用シ外ニ使用セサル標準區ヲ置キ比較セリ

區	硫黃施用量	穗	數	稈	重	穀實容量	穀實重量	標準區 對スル 増減
一	施用セス		五		二二〇	〇・八〇	二二〇	—
二	一貫匁加用		四		二二〇	〇・六七	二一〇	減 九〇
三	二貫匁加用		五		二五〇	〇・八二	二三〇	増 一〇
四	三貫匁加用		五		一九〇	〇・七〇	二〇〇	減 二〇
五	四貫匁加用		四		二〇〇	〇・六一	一五〇	減 七〇

右成績ニ據レハ硫黃二貫匁加用區ハ之ヲ施サ、ルモノニ比シ稍增收ナリト雖モ其他ハ何レモ之ヲ施サ、ルニ
比シ減收ナリ是如何ナル原因ニ據ルカ重テ試驗シ其眞疑ヲ確メム

九、蠶糞貯藏試驗

蠶糞ノ貯藏中ニ於ケル窒素ノ損失ヲ簡易ニ防止シ得ヘキ方法ヲ驗知セシカ爲本年度新設セルモノニシテ五齡
期ニ於テ日々產出スル新鮮蠶糞ノ一部ヲ採リ順次硫酸中ニ投シ窒素ノ損失ヲ防キタルモノ(標準區)ト生産セ
ルモノヲ種々ナル方法ニ據リ逐次貯藏シ一定期日ヲ經タルモノトヲ分析比較シ損失セル窒素量ヲ求メ貯藏法
ノ優劣ヲ比較セル試驗ニシテ春蠶及秋蠶ニ就テ施行セリ

甲、春蠶糞貯藏試驗

五齡起除ヨリ日々生産スル蠶糞(蠶沙)總量ノ二十五分ノ一ツ、ヲ次ノ試驗區別ニヨリ貯藏シ五十日ヲ經過セ
ル後之ヲ分析シ標準區ノ窒素量ト比較セリ而シテ蠶糞生産ノ割合(但シ對蠶量一匁)次ノ如シ

日 (起除ヨリ)	順	蠶糞生産量
一日	一	一・五七
二日	二	二・一一
三日	三	一・六六
四日	四	二・六六
五日	五	四・〇四
六日	六	二・四二
七日	七	二・六七
八日	八	一・八八
九日	九	〇・六九
計		二〇・〇〇

試驗區別 (蠶糞處理方法) 次ノ如シ

- 第一區 生産スルト同時ニ薄ク攤ケ日乾ス
- 第二區 過磷酸二%ヲ混シ堆積ス
- 第三區 二倍量ノ土ト混シテ堆積ス
- 第四區 二倍量ノ水及二%ノ過磷酸ヲ混シ溜トス
- 第五區 其儘堆積ス
- 第六區 同量ノ藁ト混シ堆積ス

右試驗區別ニヨリ貯藏シタル成績次ノ如シ(對蠶量七匁)

區	處理法摘要	貯藏後ノ窒素量 (混濁物ノ窒素ヲ除ク)	貯藏ニヨル 窒素減損量	蟻量一匁ニ對スル 糞ノ減損窒素	糞對百匁 減損窒素	全上價格
一	日 乾	一四九七	〇四三	六・六	三〇八・〇	〇七四
二	過磷酸ヲ混シ堆積	一五九七	〇二八	四・六	二二三・〇	〇五一
三	土ヲ混シ堆積	一六三三	〇二五	三・三	一八一・五	〇四三
四	水及過磷酸ヲ混シ溜	一七三四	〇一五	二・八	一〇九・〇	〇一六
五	其儘堆積	一一九六	〇六九	九・八	四九四・〇	一一八
六	糞ト堆積	一七三六	〇一五	二・四	一〇七・〇	〇一六

備考 一、新鮮糞一貫匁中ニ含有セラル、窒素ハ十三匁三分ニシテ標準區中ノ窒素量ハ一貫八百八十七匁ナリ

二、窒素一貫匁價格ヲ二圓四十錢ト假定シ計算シタリ

右成績ニ據レハ糞糞ハ糞等ト混合シ堆肥トスル時ハ窒素ノ損失最モ少ク其儘堆積シタルモノニ比シ五分ノ一弱ノ窒素ヲ減損セシニ過キス過磷酸及水ヲ加ヘテ溜トセルモノ之ニ次キ土ト混合堆積セルモノ更ニ之ニ次ク然レトモ之ノ兩者ハ何レモ著シク重量ヲ増加スルノ缺点アリ日乾セルモノハ窒素ノ減損量稍多シト雖モ操作取扱ニ便ナルカ故其儘堆積スルモノニ比シ良好ナル方法ナリ此試驗ハ尙繼續シテ確ムル處アラントス

乙、秋糞貯藏試驗

秋糞五齡盛食期ノ糞沙ヲ篩過シ糞糞ノミヲ集メ次ノ試驗區別ニヨリ五十日間貯藏シ然ル後之ヲ新鮮態ニテ分

析セル標準區ノ窒素量(糞糞百匁中八百三十匁)ト比較シ損失セル窒素量ヲ求メタリ其成績次ノ如シ

區	試驗區別(糞糞處理方法)	百匁ノ生糞糞ヲ五十 日間貯藏後ノ全窒素	全上損失窒素量	全上價格
一	其儘天日ニテ乾燥ス	四九九七	三三〇・六	〇七三
二	二倍量ノ水ト二%ノ過磷酸ヲ加ヘ溜トス	九九三・三	〇六六・八	〇一六
三	過磷酸二%ヲ加ヘ混合堆積ス	七三三・三	四〇一・一	〇九六
四	其儘堆積	四九二・二		

註、容器ニ桶ヲ用イタルタメ之カ水分ヲ吸收シ成分濃厚トナシ結果ニ誤差ヲ生シタリ

右成績ニヨレハ第二區最モ全窒素量多ケレトモ容器カ吸水セル爲養分濃厚トナリタル形跡アリ其他ノモノニ就テハ過磷酸ヲ加ヘ堆積セルモノ最モ損失少ク之ヲ春糞貯藏試驗ニ於ケル同方法ニ比シ遙ニ減損量少ナキハ盛食期ノ熟糞ニ近キ糞糞ヲ用ヒタル爲ナルヘク更ニ天日ニテ乾燥セル區ノ窒素損失量ヲ春糞糞ノ同試驗ニ比較スルニ遙ニ多キヲ以テ見ルモ其然ルヲ知ル(註熟糞糞中ニハ多量ノアモニア性窒素ヲ含ム)由テ盛食期以後ノ糞糞ハ日乾貯藏スルハ甚タ不利ナリ

一〇、不良土改良ニ關スル栽培試驗

本試驗ハ本年度新設不良土改良試驗ノ一部ニシテ管内ニ於テ五十町歩以上ノ圃地ヲナシ作物ノ生育著シク不良ナル箇所ヲ選定シ別項ニ於ケルカ如ク現地調査ヲ行ヒ且土壤ヲ採集シ分析調査ヲナセリ本試驗ハ之ト附帶シテ施行スル栽培豫備試驗ニシテ得タル成績ト分析調査ノ結果トヲ綜合シテ改良方法ノ大綱ヲ定メム爲施行

スルモノトス其方法ノ概要ハ現地ノ表土約五十貫ヲ乾燥搬入シ二萬分ノ一反有底磁製ポットノ下底ニ砂ヲ敷ケルモノニ約三貫五百匁ヲ填充シ大麥ヲ播下シ次ノ試驗ヲ施行セリ 一、地力試驗 二、石灰効能試驗 三、磷酸効能試驗 四、有機物効能試驗、而シテ特別ノモノヲ除ク外肥料ノ標準量ハ反當窒素三貫五百匁、磷酸二貫匁、加里一貫五百匁、炭酸石灰二十貫ヲ施ストシタリ、但シ本年度肥料ハ都合上三月中旬ニ施用セリ又堆肥ハ窒素ヲ三倍トシテ施セリ蓋シ初年度ニ於ケル堆肥ノ窒素吸收率ハ硫安ノ三分ノ一ニ過サルカ爲ナリ

(甲) 新田郡藪塚本町大久保土壤栽培試驗

大麥竹林種ヲ十二月三日ニ播種シ三月施肥ヲナス試驗區別次ノ如シ
無肥料區、無窒素區、無磷酸區、無加里區、完全區(以上石灰加用) 完全無石灰區(磷酸肥料ハ此區ノミ磷酸曾達) 磷酸多量區(標準量ノ三倍) 加里多量區(標準量ノ三倍) 有機質肥料區(窒素ヲ堆肥ニテ給ス) 石灰多量區(石灰五倍量)ノ十區トシ試驗成績調査未濟ナリ

(乙) 碓氷郡松井田町大字新堀土壤栽培試驗

耕種方法及試驗區別前者ニ等シ但シ加里多量區ヲ缺ク、試驗成績調査未濟ナリ

(丙) 山田郡矢場川村大字谷中土壤栽培試驗

試驗成績調査未濟

(丁) 吾妻郡澤田村美野原土壤栽培試驗

試驗成績調査未濟

第貳、調査事項

一、販賣肥料價格調査

縣下ニ於テ販賣セラル、各種肥料ニ就キ其ノ施用期即チ稻肥、麥肥、桑肥ノ各需要期ニ於テ市價及當場肥料試驗ノ成績ニ鑑ミ廉否ヲ判定シテ其ノ結果ヲ印刷物トシ各郡市農會長ヲ經テ町村ニ配布シ一般當業者ニ周知セシメテ肥料購入ノ參考ニ資セリ、
今其大要ヲ記セン

一、肥料價格ノ調査 縣下重要集散地八ヶ所ニ於テ二月、五月、九月ノ各需要期ニ肥料ノ市價(小賣相場ノ平均)ヲ調査セリ

二、眞價決定法 窒素質肥料トシテ大豆粕、磷酸質肥料トシテ強過磷酸石灰、加里質肥料トシテ木灰ヲ標準肥料トナシ之レヨリ當場肥料試驗成績ニ據リテ各種成分ノ眞價ヲ算出セリ

三、廉否計算 肥料ノ市價ト眞價トノ比ヲ採リ眞價ニ對スル市價ノ比ノ小ナルモノヲ廉價ナルモノトセリ次ニ各肥料ノ市價及廉否率(眞價ニテ市價ヲ除シタル商)ノ各需要期ニ於ケル變動ヲ表記センニ

練			菜			蛹		
粕			粕			粕		
稻肥	桑肥	麥肥	稻肥	桑肥	麥肥	稻肥	桑肥	麥肥
廉否	十貫市價	廉否	廉否	十貫市價	廉否	廉否	十貫市價	廉否
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
〇九三	一五五	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇

硫酸アムモニア			粒狀大豆粕類			大豆粕		
桑肥	麥肥	稻肥	桑肥	麥肥	稻肥	桑肥	麥肥	稻肥
廉否	十貫市價	廉否	廉否	十貫市價	廉否	廉否	十貫市價	廉否
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇
一〇〇	一六七	一三〇	四〇〇	一三〇	一四〇	二五〇	一五〇	二二〇

窒素價格 大豆粕ノモノ 貳圓八拾九錢 粒狀大豆粕ノモノ 參圓參拾七錢 硫安ノモノ 參圓九拾六錢

米粕ノモノ 參圓貳拾五錢 菜種粕ノモノ 四圓六拾參錢 鱒粕ノモノ 四圓拾參錢

磷酸價格 二〇%ノ過磷酸ノモノ 八拾壹錢 一七%ノ過磷酸ノモノ 八拾七錢 蒸骨粉ノモノ 七拾參錢

米糠ノモノ 九拾四錢

加里價格 木灰ノモノ 六拾錢

二、屋外堆肥ニ關スル調査

堆肥ハ舍内ニ於テ製造スルヲ原則トスルモ堆肥舍ノ設備ナキモノ或ハ堆肥舍狹クシテ多量ヲ製造シ能ハサルモノニアリテハ從來露天ニ堆積シ風雨ノ曝露ニ委シ空シク肥料分ヲ損失セシモノ尠カラス由テ注意シテ行ヒタル舍外堆積ニ於ケル養分ノ損失量ハ幾何ノ程度ナルカラ調査シ堆肥舍ノ設備ナクシテ而モ肥料分ノ流亡少キ方法ヲ驗知センカ爲屋外ニ於テ二種ノ堆積方法ヲ試ミ主トシテ窒素ノ損失量ヲ調査セリ

(甲) 第一法 (圓筒形堆積)

原料ハ藁紫雲英ヲ主要ノモノトシ之ニ飽和スル迄注水シ外ニ養分吸收ノ目的ニテ土ヲ用ウ、堆積ノ方法ハ六尺直徑ノ圓ニ地均シヲ行ヒ少シク勾配ヲ附シ竹ヲ並ヘテ床トナシ周圍ニ溝ヲ掘リ低キ部分ニ一尺ノ深サニ溜ヲ掘リ堆積ノ際水ノ注入ニ便ス、中央ニハ高サ六尺ノ竹束ヲ立テ、空氣ノ流通ニ便シ其周圍ニ放射狀ニ原料ヲ堆ミ五寸毎ニ十分灌水シ且土ヲ載ス一尺堆ミタル時ニ周圍ヲ藁ニテ編メル緣ヲ取り順次斯ク堆積シ六尺ニ

及ヒ藁ニテ屋根ヲ作り且周圍ヲ藁ニテ包ミ水分ノ發散ヲ防キ堆積中ハ切返シヲ行ハス百十五日ヲ經タル後其一部ヲ切り取り分析ニ附シタリ其成績次ノ如シ

製	品	品	百分中窒素含量	貫	數	含有窒素量	備	考
原	料	藁	0.63%		二九	八二	外ニ水ヲ使用セリ其見積貫數三百貫	
		紫雲英(生)	0.53		二九	六二		
	土		0.145		七六	一一		
	計				三六	一、五四三		
製	品	堆肥	0.3元		四一〇	一、五九九	差引製品中ノ窒素増量	
						五十六匁		

右試驗ニ據レハ堆肥ハ屋外ニ堆積スルモ注意シテ取扱フトキハ成分ノ損失少シトス、但シ屋外堆肥腐熟ノ程度及品質ハ舍内ニ於テ完全ニ製造セルモノニ比シ遙ニ遜色アリ殊ニ之ノ堆積法ハ切返シヲ行ハサリシ爲製品ノ腐熟一樣ナラスシテ品質劣等ナリ由テ堆肥ノ製造ハナルヘク舍内ニ於テスルヲ理想トスルモ之カ設備ヲ缺クモノニアリテハ從來ノ如ク徒ニ風雨ニ曝露セス斯ノ如キ堆積法ニ據ルヘク殊ニ遠隔ナル耕地ヲ有スル場合ニハ之ノ法ニヨリ現地ニテ堆肥ヲ製造スルヲ可トス

(乙) 第二法 (方形堆積)

原料ハ前者ト全様ナレトモ堆積ノ方法ヲ異ニス即チ一間半方形ニ地均ヲナシ竹ヲ並ヘ床トナシ其上ニ藁ヲ敷

キ周圍ニ溝ヲ掘リ溜ヲ設クルコト前法ノ如クシ之レニ藁及紫雲英ヲ堆ミ五寸毎ニ灌水シツ、堆積シ四尺ノ高サトシ上部及周圍ヲ藁ニテ覆ヒ屋根ハ棒ヲ組ミテ骨格ヲ作り藁ニテ葺ケル運搬容易ナル形式ノモノトシテ堆積ノ上部ニ載セタリ、一ヶ月半ノ後切返ヲ行ヒ堆積ヨリ百三十日目ニテ總量ヲ秤リ之ヲ分析ニ附セリ其結果次ノ如シ

製 品 名	百分窒素含量	貫 數	含有窒素量	備 考
紫雲英	0.63	二二〇	一二五 ^分	原料トシテ外ニ水七百五十二貫ヲ使用ス
	0.52	一六〇	八三	
土 計	0.15	三三	四七	被覆用トシテ上部ニ撒布セルモノ
	—	四〇	一一〇〇	
製 品 堆 肥	0.34	六六〇	二二四	差引製品ノ窒素増量四十四匁

右成績ニ據レハ堆肥ハ之ニ運搬ヲナシ得ル屋根ヲ設ケ堆積ノ上部ニ載セ又周圍ヲ藁ニテ被覆シ雨露ヲ避クル時ハ普通ノ堆積法ニヨリ切返シヲ行ヒ、土ヲ混セサルモ養分ノ損失大ナラス而シテ製品ハ前法ニ比シ腐熟一様ニシテ且十分ナリ據テ堆肥舍ノ設備ヲ缺ク農家ニアリテハ斯ノ如キ方法ニ據リ堆積スレハ養分ノ損失ヲ少ナカラシメ得ヘシ但シ其品質ハ舍内堆積ノモノニ比シ劣ルカ故優良ナルモノヲ得ルニハ堆肥舍ノ設備ヲ要スル事論ヲ俟タス

三、不良土壤調査

縣下ニ於テ五十町歩以上ノ一團地ヲナシ作物ノ生育著シク不良ナル農耕地ヲ選定シ土壤ノ現地調査及分析ヲ行ヒ其成績ニ鑑ミ原地土壤ヲ採集シテポットニテ不良土ノ改良試驗ヲ施行セン爲本年度ヨリ調査ニ着手セリ調査未タ完成セサレトモ其一部ヲ掲ク

甲、現地調査

現地ノ實地踏査ヲ行ヒ表土、心土ノ状態、農作物耕種肥培狀況等ヲ現地數ヶ所ニ於テ調査セリ今其成績ヲ一括シテ概況ヲ述ヘム

一、土壤調査

山田郡矢場川村大字谷中土壤

第四紀新層ニ屬スル平坦低濕地ニシテ排水極メテ不良一毛田ナリ、表土ハ黑色粘土ニシテ一尺五寸前後ノ深サアリ、心土ハ塲所ニヨリ一様ナラサレトモ腐植質ヲ混シタル黑色粘土又ハ青色重粘土ニシテ一二尺深ニ到レハ何レモ青色緻密粘土トナル植物ノ生育甚タ不良ナリ

新田郡藪塚本町大久保土壤

第四紀古層ニ屬スル平原地ニシテ乾燥ノ畑地ナリ土性ハ砂質壤土、赤褐色ヲ呈シ瘠薄ナル土壤ナリ表土ノ深サ一尺乃至二尺保水力弱シ心土ハ少シク砂ヲ混シタル赤粘土ニシテ粘氣強シ植物ノ生育狀態概シテ不良ナリ

碓氷郡松井田町大字新堀土壤

妙義山麓ノ起伏多キ荒蕪地ニシテ排水可良、表土ハ浮石ヲ混セル輕鬆墟土ニシテ深サ二尺前後、心土ハ礫ヲ混セル黑色粘土ナリ多クハ畑ニシテ植物ノ生育不良ナリ

吾妻郡澤田村美ノ原土壤

第四紀古層ニ屬スル高原地ニシテ表土ハ輕鬆黑色ナル腐植質壤土ナリ其深サ二尺五寸ヨリ三尺ニ及ヒ心土ハ赤色粗粘土ナリ此土壤ハ保水力甚タ弱ク加フルニ灌溉水ヲ缺ク植物ノ生育不良ナリ全部畑地トス

二、農作物耕種肥培狀況調査

(イ) 山田郡矢場川村大字谷中

主要作物名 全上平均收量

施肥狀況

水 稻 一石三斗

堆肥五十貫、大豆粕七乃至十貫、石灰六十乃至八十貫

(ロ) 新田郡藪塚本町大字大久保

大 麥 一石八斗

堆肥二百五十貫、大豆粕、過磷酸ヲ約四圓施用

小 麥 六斗五升

全

陸 稻 一石

堆肥二百貫、大豆粕、過磷酸、硫安等ヲ約五圓

大 豆 五斗

堆肥百五十貫、過磷酸少許

甘 藷 二百貫

米糠十八貫、過磷酸少許

南 瓜 百五十貫

堆肥二百貫、魚肥、蛹粕、過磷酸等ヲ約四圓

桑 三 駄

堆肥百五十貫

(ハ) 碓氷郡松井田町大字新堀

水 稻 一石

落葉四百貫、石灰百五十貫、大豆粕一斗五升

大 麥 一石五斗

堆肥二百貫、米糠二十貫

桑 九十貫

青草四百貫

大 豆 五斗

青草八十貫、米糠十貫

粟 七斗

堆肥七十貫、人糞尿三十二貫

(ニ) 吾妻郡澤田村美ノ原

大 麥 一石四斗

堆肥二百貫、木灰十貫、過磷酸六貫

小 麥 六斗

堆肥百二十貫、木灰六貫

陸 稻 九斗

堆肥百二十貫、人糞尿十貫

大 豆 八斗

堆肥六十貫、本灰四貫

乙、分析調査

少

過磷酸一貫五百

中

過磷酸三貫、人糞尿十貫

多

堆肥二百貫、木灰十貫、過磷酸六貫